サンエイムック
大解剖ベストシリーズ デビルマン大解剖
2018年4月15日発行

大解剖ベストシリーズ

永井豪 画業50年記念

デビルマン 新装版 大解剖

永井豪&ダイナミックプロ監修

50th Go Nagai

デビルマンにつながる
永井豪作品を大研究!
増殖するデビルマンの遺伝子

キャラクター&ストーリー分析
デビルマンの世界

「デビルマン」から
「デビルマンレディー」
「激マン!」まで
カラーイラスト満載!

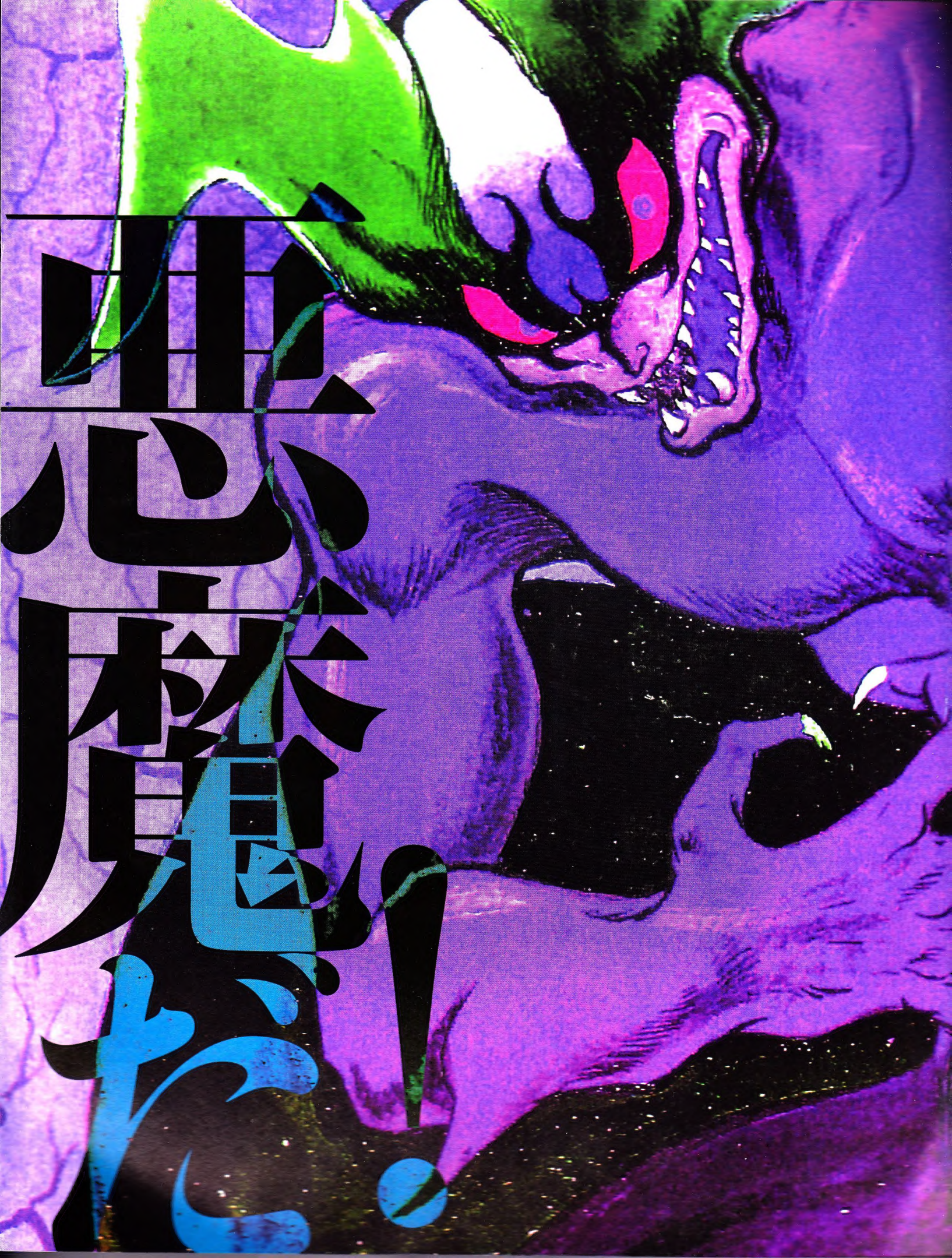
スペシャルインタビュー
永井豪
寺田克也
衣谷遊

「最終戦争」のプロローグ
「新デビルマン」エピローグ掲載!!

原画で読む最終回
[最終戦争(アーマゲドン)]

全世界に配信!! 新作アニメ
DEVILMAN crybaby

地獄へおちろ人間ども!


悪魔だ！

永井豪の代表作であり、漫画史に残る名作「デビルマン」。
それは良い子のための健全な漫画ではなく、
バイオレンスに満ち溢れた、悪魔的で猟奇的、衝撃的な問題作だった！
その影響は大きく、現在活躍するクリエイターの中には
後の制作物にその影響が現れていることを公言する者も多い。
本書は1970年代、日本の少年少女に衝撃を与え、漫画に革命を起こした作品、
現在もポップカルチャーに影響を与え続ける「デビルマン」を大解剖する！

DEVIL MAN
DEEP DISSECTION
デビルマン
大解剖

大解剖ベストシリーズ

デビルマン大解剖

CONTENTS

「最終戦争」プロローグ 5
新デビルマン「エピローグより」

SECTION 1 デビルマンの世界

マンガ界に革命を起こした衝撃作
「デビルマン」誕生!! 24

【キャラクター】
不動 明／デビルマン 26
飛鳥 了／サタン 28
牧村美樹／牧村家の家族／不良グループ 30

人類を滅ぼすために甦った悪魔ども！
デーモン&デビルマン図鑑 32
人類の敵!! デーモンの謎 38
デビルマン ストーリーガイド 40

原画で読む!!最終回
「最終戦争（アーマゲドン）」 51

正しい結末の解釈はこれだ！
ラストシーンの真実
最終戦争の本当の勝者!! 68

『デビルマン』
カラーイラストレーションギャラリー 70

永井豪
直撃インタビュー 78
「デビルマン」は漫画家としての
運命を分けた作品です。

事件は現場で起きていた！
「激マン!」に見る
連載当時のデビルマン制作現場 82

デビルマン 名セリフ集 84

ホラー&サスペンス!
美しさと醜さの競演！ 86

どのシーンのデビルマンか君にはわかるか!?
デビルマンのバリエーション
40Selection 88

デーモン襲撃時、こんな新聞が発行されたかも!?
号外 悪魔特捜部隊本部完成 90

SECTION 2 増殖する
デビルマンの遺伝子

デビルマン研究◆関連作品
【1】魔王ダンテ 92
【2】デビルマンレディー 94
【3】バイオレンスジャック 96
【4】新デビルマン 98
【5】デビルマンサーガ 100

実力派漫画家が描いた
ファン必読! スピンオフ作品!! 102

作品を越えて登場！
「デビルマン」主要キャラクターの秘密 104

デビルマン作品相関図／作品年表 106

【スペシャルインタビュー】
デビルマンは意識の奥に存在する。
寺田克也 108
『AMON』は夢中で描きました。
衣谷 遊 110

特別取材 『ムー』編集長三上丈晴氏に聞く！
「デビルマン」オカルト論
デビルマンは実在した！ 112

デビルマンコミックスコレクション 114
デビルマン最新コミックス 116
Blu-ray ・DVD 紹介 117

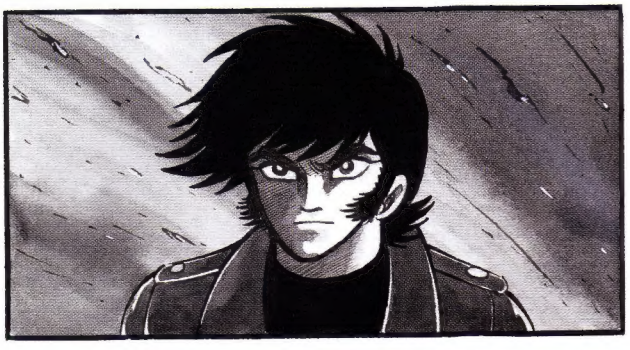
永井豪画業50周年記念作品
『DEVILMAN crybaby』 118
不朽の名作「デビルマン」が現代に復活！

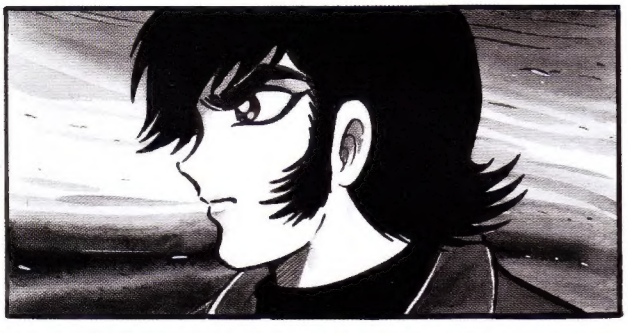
『デビルマン』
カラーイラストレーションギャラリーII 122

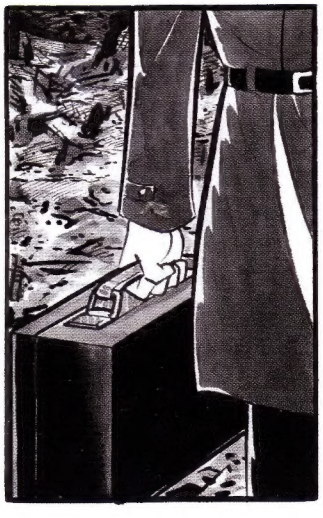
美麗なモノトーン表現を再現!!

「最終戦争」プロローグ

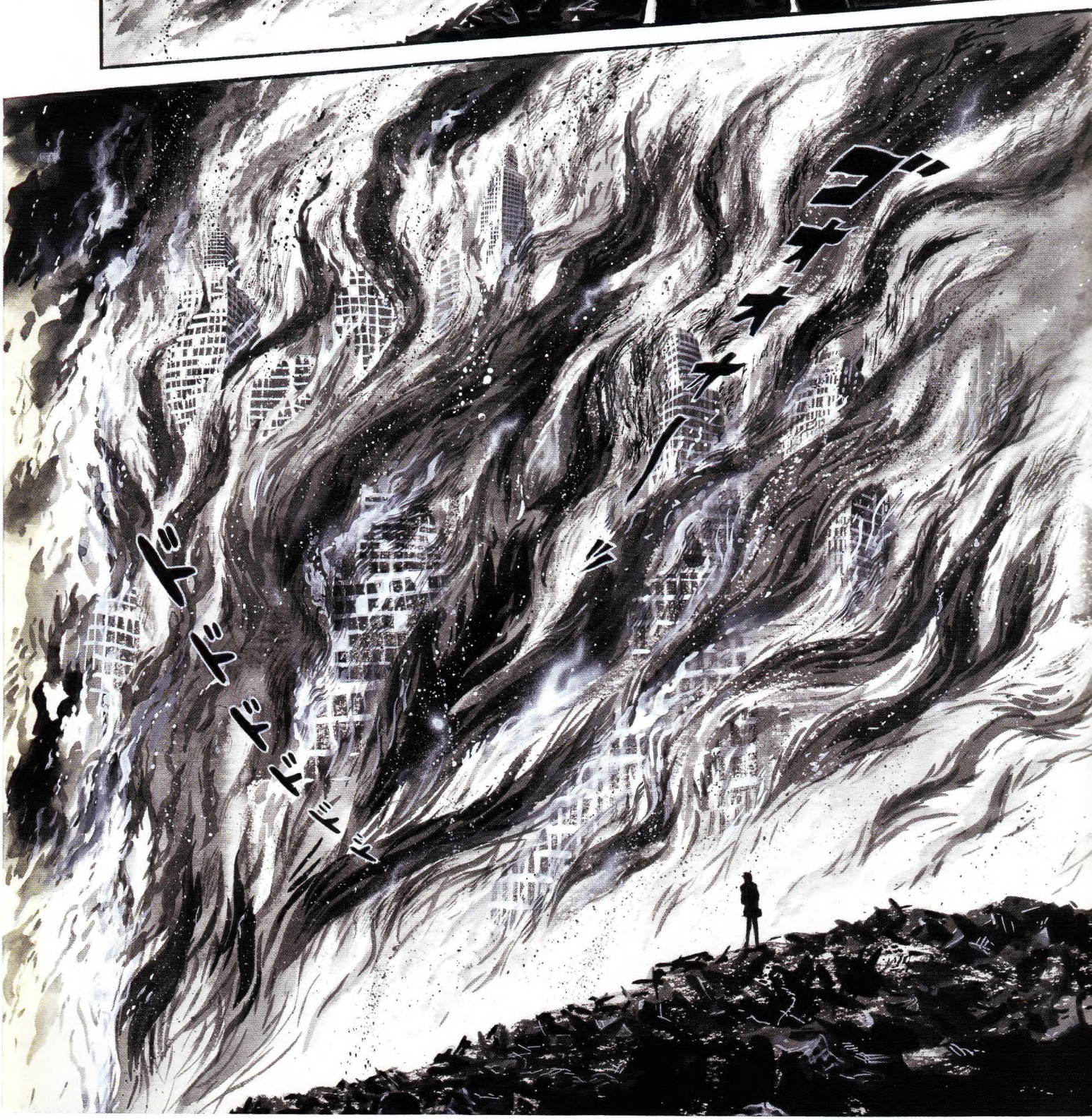
――新デビルマン「エピローグ」より



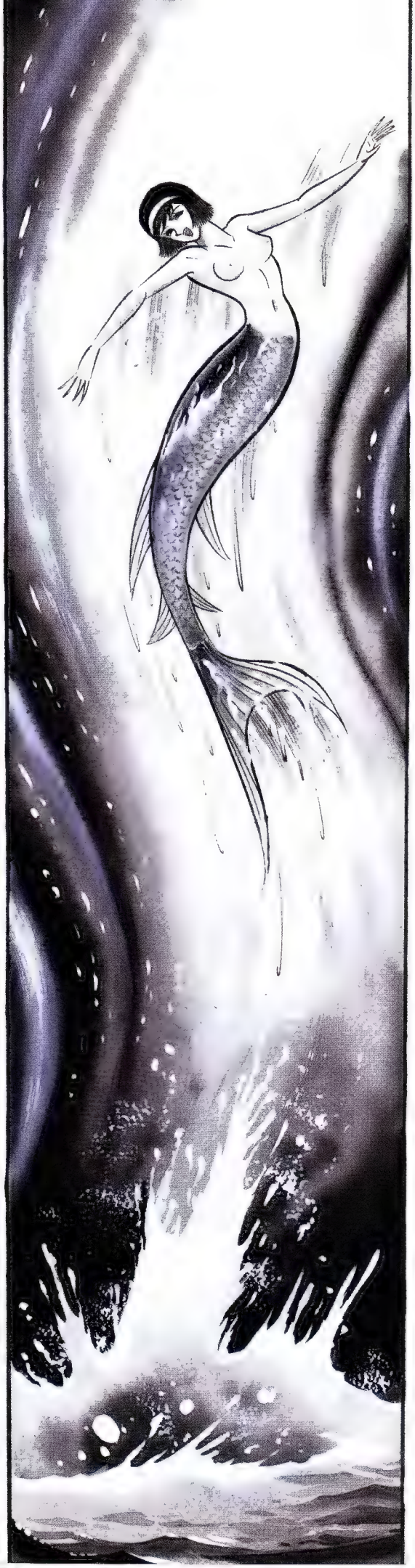


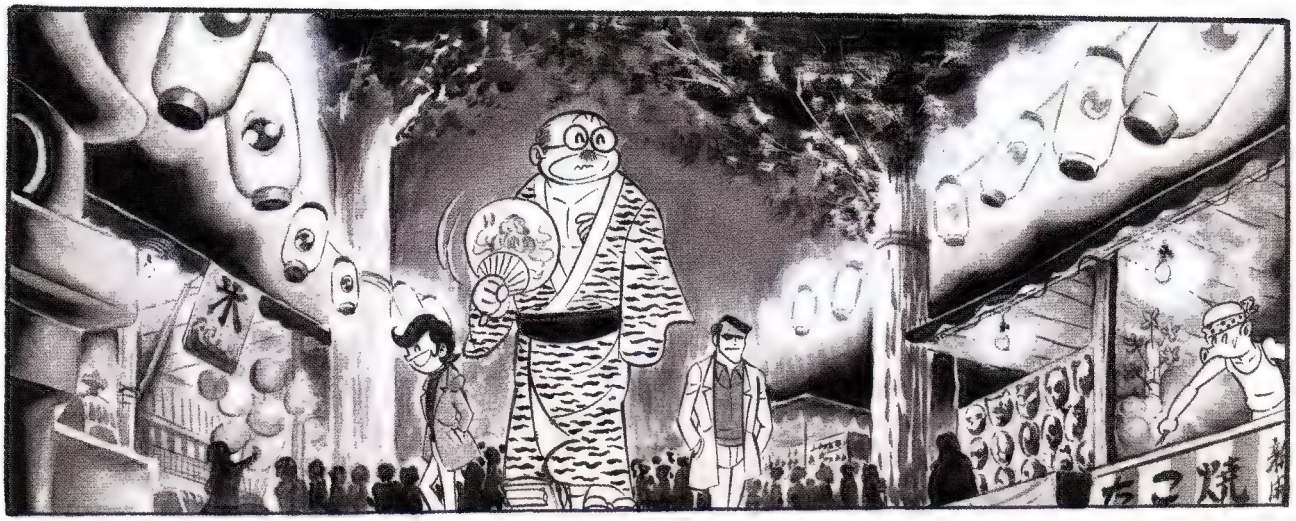


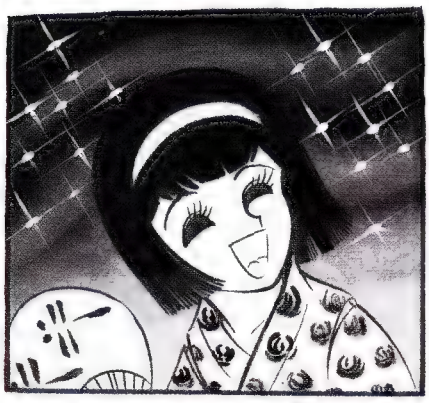
ヒロカ
ズウーン
ズズーン
ヒロカ

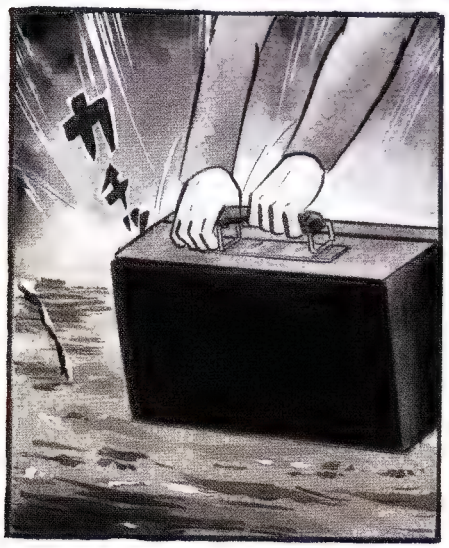

ゴオオオオー
ドドド

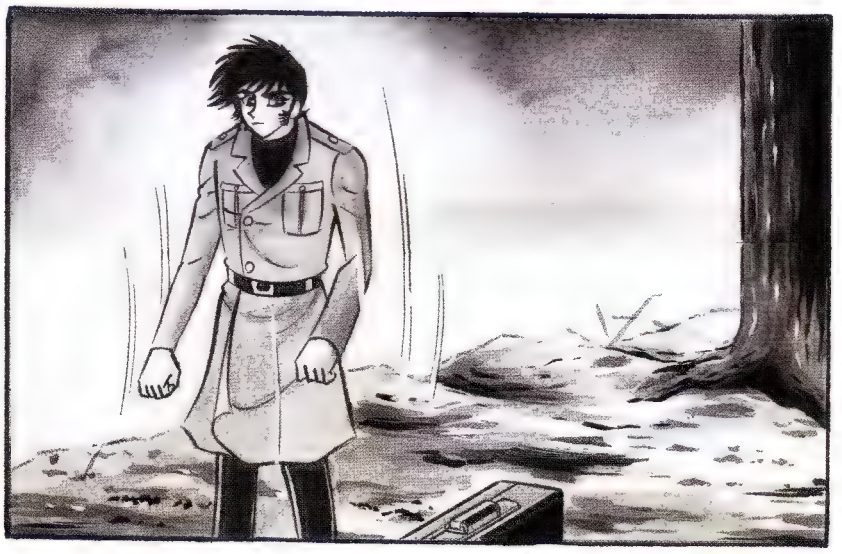
ドドド

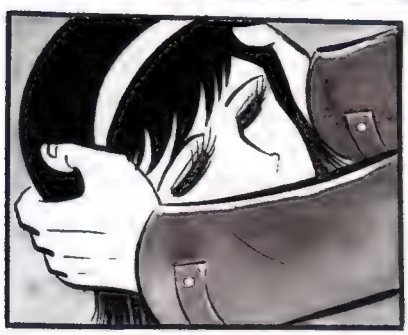


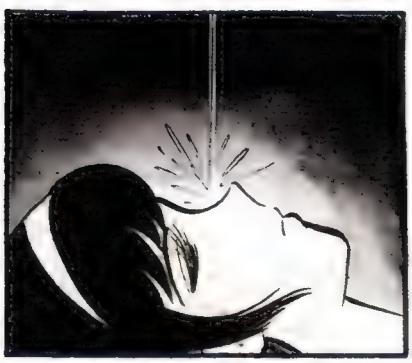

たこ焼

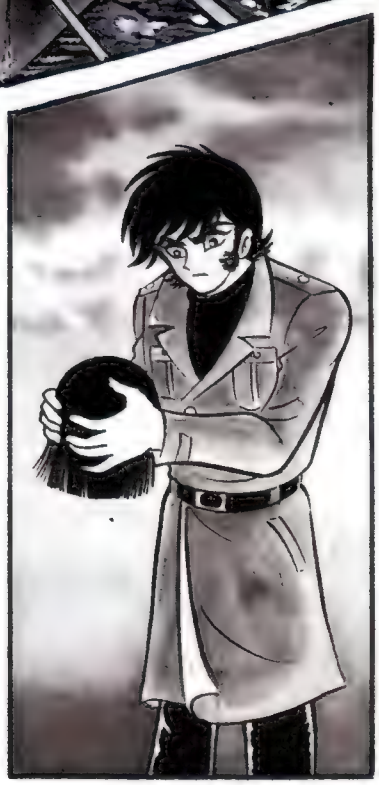



カタ

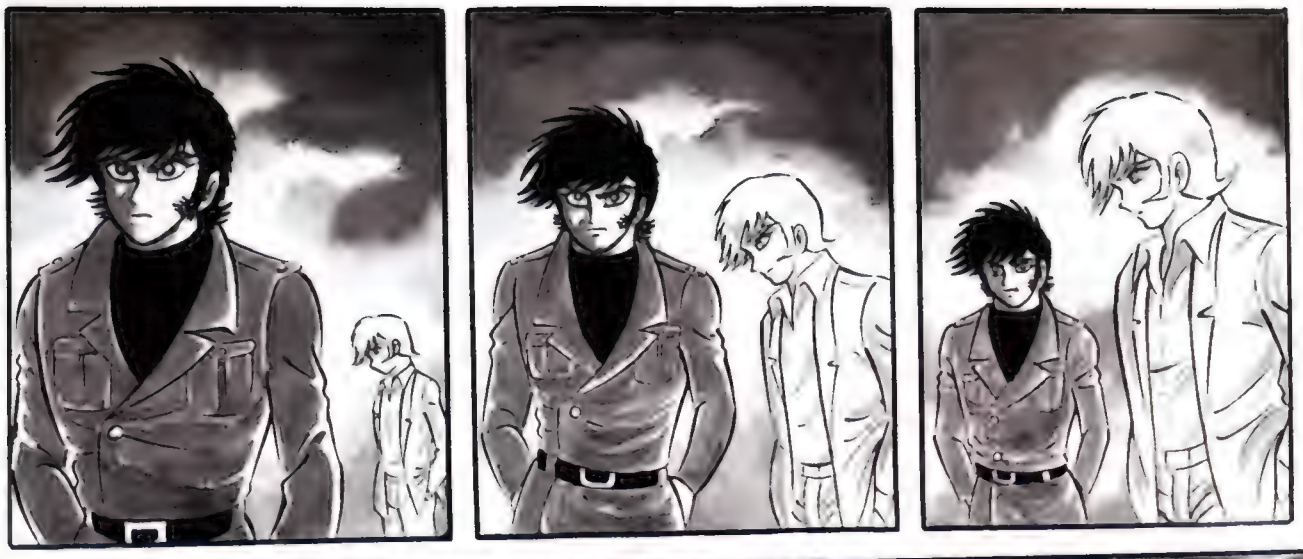




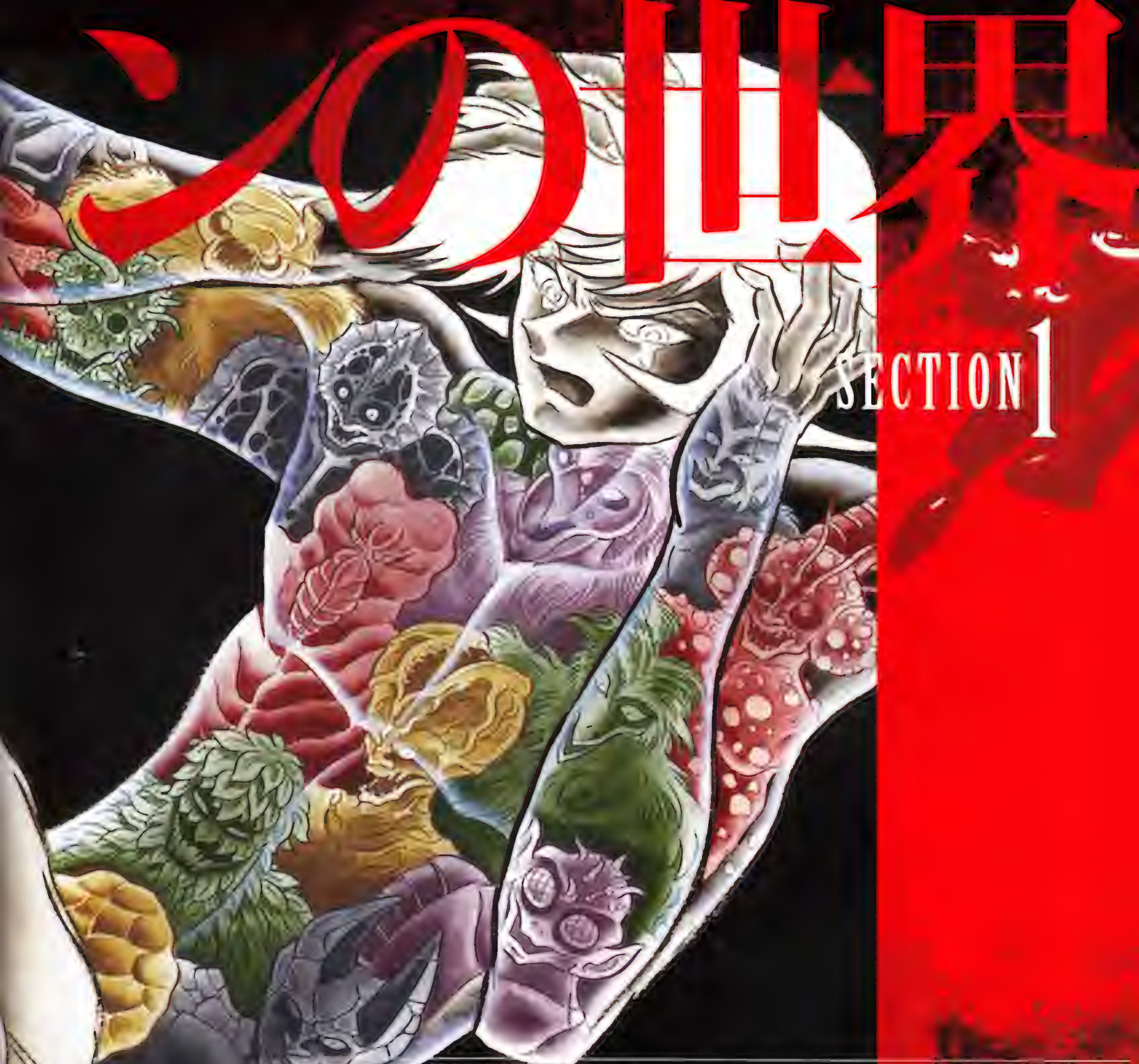




新デビルマン エピローグ」より



そして闘う運命の二人は
最終戦争へと向かう……
P51 原画で読む!! 最終回「最終戦争」につづく!



この世界

SECTION 1

子どもの頃、読んだ者は必ずトラウマになったというマンガ「デビルマン」！
バイオレンスとエロチシズム、永井豪お得意の過激なシーンに
醜く、恐ろしい悪魔的表現が加味され、
子どもはもちろん大人もその描写に衝撃を受けた！
さらにクライマックスでは、予想だにしなかった展開に
またもや読者は大きな衝撃を受けることになる!!
マンガの常識を変え、禁断の領域を超えた悪魔的作品。
それが「デビルマン」だ!!!

DEVIL MAN

DEEP DISSECTION

デビルマ

哀しきヒーロー 悪魔人間（デビルマン）

ヒーローといえば、スーパーマンやウルトラマンのような二片の穢れもない正義のヒーローが当たり前だった時代、そこに登場したのが〝悪魔人間〟というその名前からして、正義ではなく〝悪〟を連想させるヒーロー、デビルマンだ。人類を守るため、正義を成すために悪魔の力を手に入れるという大胆な発想。悪の力でも正義の心で利用すれば、それは強力な正義の武器となるというわけだ。

だが、ここに大きな矛盾がある。いくら人類を守ろうと、平和を守ろうと悪は悪、悪魔は悪魔なのだ。現実的に考えた場合、弱者からすれば悪は恐怖であり脅威である。たとえば犯罪者や殺人者のように人は一度、悪に染まった者を簡単には受け入れられない。ましてや醜い悪魔になった人間を受け入れられるはずもないのだ。悪魔の身体と力を持った主人公・不動明は忌み嫌われるであろうその正体をひた隠し、影ながらデビルマンとして人々を守る。なんという無情、なんという報われなさ、悪魔になってしまった悲しみをひとり抱え、苦悩しながらも敵と戦う主人公。その自己犠牲の精神に、われわれはグッと心を鷲づかみにされたのだ。

「デビルマン」はテレビアニメ企画からはじまった！

『地球が悪魔にのっとられる!! クールな怪奇と熱い幻想で描く 新感覚恐怖漫画!!』このフレーズは「デビルマン」連載第1回目の扉に記されたキャッチコピーである。この段階で担当編集者も、また作者である永井豪でさえも物語の結末を知らなかった。それもそのはず、不動明のパートナー・飛鳥了はサバトのシーンで死ぬはずだったのに生き延びてしまったのだ。作者が急遽、了を殺さずに物語を展開させたことで事態は変わり、結末が見えなくなってしまった。しかし、この運命的な設定の変更が結果的に稀代の名作を誕生させることになったのだ！

マンガ界に革命を起こした衝撃作「デビルマン」誕生!!

「デビルマン」
『週刊少年マガジン』
1972年25号～1973年27号まで連載。

そもそも「デビルマン」は、テレビアニメの企画の方が先行して進んでいたという。東映動画の企画部長が当時『週刊ぼくらマガジン』で連載じていた「魔王ダンテ」をモチーフとしたテレビアニメを作りたいと考え、永井豪サイドと話し合った結果、生まれたのがデビルマンだったのだ。また、当時は「タイガーマスク」「仮面ライダー」など、テレビシリーズと同時にマンガ誌で連載されるスタイルが多かったため、アニメ化を実現するためにも永井豪はマンガ誌での連載を画策したという。そして『週刊少年マガジン』の編集長を口説き落とすことに成功、新連載が決定したのだった。これによってマンガ版「デビルマン」が実現することとなり、そのとき編集長と話したアニメとは違う〝本当に描きたい「デビルマン」〟を描くことで、子ども向けのアニメとは違う独自の「デビルマン」が誕生したのである。

当初、マンガとしての構想はなかったにもかかわらず、「魔王ダンテ」の着想からテレビアニメの企画が進み、テレビアニメを実現させるために、必然的にマンガを描くことになった「デビルマン」。そして作者の思いもよらぬ方向に物語が進んだことを考えると、何か見えない力が「デビルマン」を世に出そうと働いたかのようである。もしかするとそれは神（もしくは悪魔？）が永井豪の手を通じて、この世に現した人類へのメッセージかもしれない……。

不動明

FUDO AKIRA

だが、それでも
おれは人間
不動明なんだ！

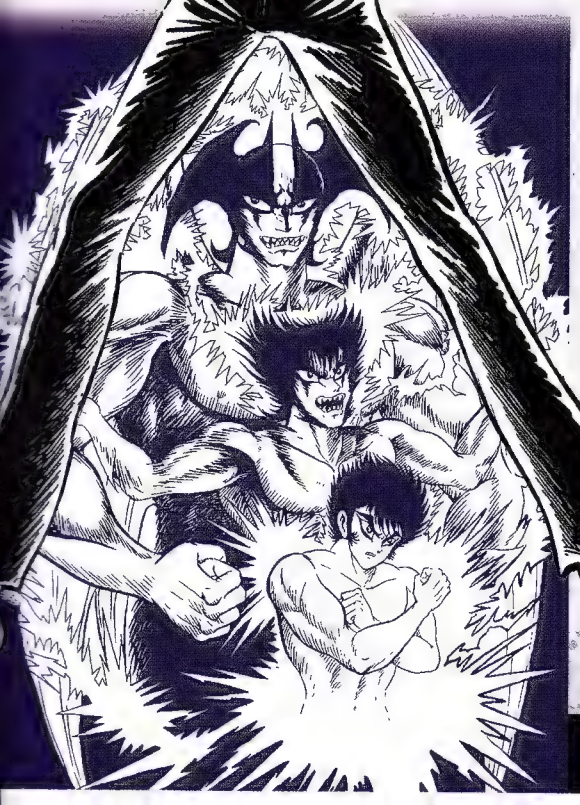
デーモンと合体する前は、まじめな優等生といったイメージだが、合体後は目がつり上がり、目の下に隈取りのようなアイラインが表れた

合体直後や怒りが頂点に達した時に見せた恐ろしい表情。またその際には、口元から鋭い牙をのぞかせる

両親が海外出張中のため、牧村家に居候する高校生。運動神経は悪くはないものの臆病で、争いごとが嫌いな性格。小学生の頃は「東小のサイレン」と呼ばれるほどの泣き虫。前の学校で親友だった飛鳥了に頼まれ、一緒に了の父親が残した恐怖の遺産を受け継ぐ決意をする。その結果、デーモンと合体し、悪魔の力を手に入れ〝デビルマン〟となる。デビルマンになってからは性格が変貌し、粗暴で争いを好むようになる。目つきも悪くなり、態度もガラも悪くなる。また体力、筋力、運動神経がアップし不良どもを片手一本で始末するほどに。しかし、相変わらず牧村美樹には弱く、彼女を守るためならすべてを投げ捨てる覚悟がある。

デーモンの強い意識をおさえる意志、善良で純粋な心を持ち、正義を愛する若者

ハダカの上半身に学生服を着たセクシー＆ワイルドな明だが、実は合体直後の登校時以外は、しっかりボタンを留めて授業に出席しているようだ



きみだけだ 美樹
きみひとりのために
おれは戦う

デビルマン

悪魔の身体と人間の心を持つ悪魔人間！

不動明からデビルマンに変身するパターンには、稲妻を放ち変身するパターンやじわじわと髪の毛が広がり、顔つきが凶悪になり、全体の筋肉が膨れ上って下半身に剛毛が生えるパターンがある

不動明とデーモンが合体した姿。明の精神力がデーモン一族・最強の勇者であるアモンの精神力を勝り、その身体を乗っ取った。勇者アモンの能力に人間・不動明の頭脳と強靭な意志が加わり、デーモンも恐れる悪魔人間となった。デビルマンになった直後は、我を忘れ、近くにいるデーモンを手当たり次第に襲い、殺戮を繰り返した。戦うことに喜びを感じ、残虐で血に飢えた様は、悪魔そのもの。しかし、人間の心を持つデビルマンは、それゆえの弱点を持つ。のちに悪魔の身体と人間の心を持つ者"デビルマン"は、人間の心を持ったままデーモン化した人間を指す名前となる。

デビルマンの能力

能力1
不動明の姿に変身できる。

能力2
背中から翼を出し、空を飛ぶことができる。

能力3
額の触覚は伸縮可能。電撃を放つことができる。

能力4
身体から相手を焼き尽くすような業火の炎を発する。

DEVILMAN
- 体長：約2.9m
- 体重：約220kg
- 翼の幅：約2.6m

AMON アモン

アモンの姿はデビルマンとあまり変わらないようである

不動明に身体を奪われたデーモン。コウモリや山羊と合体したデーモンで、一族最強戦士のひとり。かつて地獄の野獣と呼ばれ、シレーヌとライバル関係にあった。

「旧約聖書」の偽典「ソロモンの遺訓」に登場するアモン

ソロモン72柱のうち「地獄の侯爵」の異名を持つ悪魔。最も強靭な身体と意志を持つ最強の悪魔であり、炎を口から吐くことから「炎の侯爵」とも。らせん状に巻いた牡羊のツノ、狼のような胴体と牙、蛇の尾を持つ。また、そのルーツはエジプトの最高神アモンとされる。

アモンは義侠心が強く、ルシファーが軍団を率いて天界に反旗を翻した際、真っ先に義勇軍を率いて駆けつけたとされる。またルシファーに忠誠を尽くし、彼が天界を追われたその後も行動をともにしたという。

ASUKA RYO

飛鳥了

不動明の親友。日本人の父とアメリカ人の母を持つハーフ。考古学者の父が発見した恐怖の遺産により、人類がデーモンによって滅亡の危機を迎えようとしていることを知る。自ら地獄の闇魔として親友・明を地獄の道連れにし、悪魔と合体して人類を救う道を選ぶ。結果、悪魔との合体に失敗し、明のみがデビルマンとなった。

その後、明とともにデーモンハンターとして悪魔退治に協力するが、やがてすべてが自分の考える通りに進むことに疑問を感じる。そして、自分が本当は飛鳥了でないことを知り、その正体が悪魔神サタンであることを思い出す。

明を迎えにきた時には、すでにクールで冷徹なイメージの了だったが、明が転校する1か月前はずいぶん性格が違っていたようだ

父から恐怖の遺産を受け継ぎ、親友・不動明を阿修羅地獄に導く

自分の正体を思い出した了は、明がデーモンと合体したことをテレビで大々的に発表するという暴挙に出る

了の両親。父親は考古学者でデーモンの存在にいち早く発見した人物でもある。自らを実験台とし、デーモンと合体した後、非業の死を遂げる

美しい姿のサタン。サタンの乗る赤い竜は、ヨハネの黙示録に記述された7つの頭と10本の角を持った竜か？「永井豪ワールド悪魔事典」によると名はカリオルアーといい、旗艦的存在らしい

「わたしは人間を滅ぼすことにした…」

SATAN

悪魔神サタン

デーモン軍団を率いて人類を恐怖に陥れる魔王！

それは飛鳥了の真の姿。12枚の翼をもつ美しき堕天使で、両性具有のため男女両方の特長を持つ。200万年もの眠りから覚めたサタンは、いつの間にか地上を支配している人類を滅ぼそうと考えるが、その前に人間というものを知るために、自らの記憶を消して人間・飛鳥了となって生活をしていた。しかし、人間・不動明と出会い、愛してしまったことで計画を変更。人類を滅ぼすも明だけは救おうと考え、明とデーモンを合体させた。

しかし、それが仇となりデーモンの強敵デビルマンを誕生させることになる。結果、デビルマン率いるデビルマンが軍団との最終戦争に突入、愛する者の命を奪うことになる。

SATAN

サタン能力

- すべての悪魔の王。悪魔王ゼノンを筆頭にすべてのデーモンを従え、動かすことができる。
- 変身能力があり、人間はもちろん様々な生物に変身できる。
- 身体の大きさを自在に変えることができ、デーモンが及ばぬほど巨大化することができる。
- 地球上を瞬時に移動できるテレポーテーション能力。
- その他、サイコキネシス、透視能力など様々な超能力を持つ。

キリスト教におけるルシファー＝サタン

ルシファーは光を運ぶものという意味。美しい12枚の翼を持ち、かつては大天使の地位にあった神に近い存在だった。しかし、「天界の闘争」において神に戦いを挑み、敗北。神の怒りによって地獄に堕とされ、堕天使となった。以降、「地獄の支配者」「地獄の王」と呼ばれる。そのため、その地位にあるサタンと同一視され、ルシファー＝サタンとみえられるようになった。ちなみに「新約聖書」に登場するサタンは神の敵、人間の敵であり、巨大な力を持ち人を堕落させる者とされた。しかし「旧約聖書」では、神に仕えるしもべ的な存在であり、サタンという名前が初めて登場した「民数記」では、旅人を邪魔するだけの存在だった。

明との最後の別れを予感する美樹。高校生であっても女の勘は鋭い

「デビルマン」に登場する女性は少ない。そのため、牧村美樹はかわいらしい、守りたい女性として際立った存在である

彼女の存在があってこそ、不動明は人間でいられる！不動明の最愛の女性

お風呂場で明のことを想い、頬を赤らめる美樹。そんな風に女子に思われたい！と思った読者も多かったはずだ

MAKIMURA MIKI

牧村美樹

男勝りという性格もあるが、美樹はときどき男の子のような言葉遣いを使う。またカマトトぶって明を挑発することも…。でも、そこが逆にかわいい！

一度、不良グループにからまれたことで武器を携帯して身を守ろうとする美樹。負けん気の強さは人一倍だ

明が居候する牧村家の長女。スポーツ好きで活発な女子高生。勝ち気で手が早く、平手打ちの〝平手美樹〟と呼ばれるほど。当初は男勝りで明の昔の話を持ち出してはからかったりした。また口が悪く、ヤクザ映画の見過ぎなのか不良に対して口汚くののしる一方、力では勝てず明に助けを求めたりする。

しかし、明がデビルマンとなって性格が激変した後は、その男っぷりに惚れて従順になるほか、さらに明に男を意識したのか、雷を恐いフリして抱きついたり、悪夢にうなされた明に「今晩付きそってあげようか」とスケスケのネグリジェで迫ってみたりと大胆な行動をとる。また、お風呂に入る際、

服を脱いで鏡の前で「明くんに見せられないのが残念じゃ」とひとり言をつぶやいて、勝手に恥ずかしがったりするところなどは、思春期の恋する乙女であった。

しかし、一方の明は自分がデビルマンであることに引け目があったのが積極的になることはなく、彼女を守ることが愛だった。そのため、ふたりは最後までプラトニックな関係のまま、深い愛情で結ばれることになる。それは美樹が明がデビルマンと知った後も、変わることなく明を愛し、信じ続けたことからもわかる。

悪魔狩りにより、隣人たちに襲われたときも気丈に立ち向かい、必死に生きようとしたが、明の救出を待たずして無惨な死を迎えることになる。

悪魔狩りで大勢の暴徒に襲われ、火炎瓶などで応戦するも刃物で傷つけられ大けがを負う美樹。護衛をしてくれた木刀政や弟のタレちゃんが殺され、絶望のなかで死んでゆく

不動明を家族のように あたたかく迎える 牧村家の人々

牧村の父

牧村家の大黒柱。家族思いの信頼できる父親。

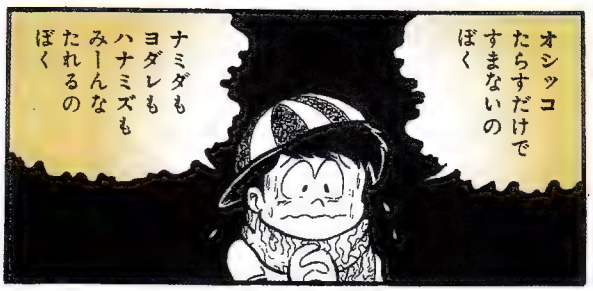
明のケンカには寛容で、「ケンカは若いうちにやっとけ。大人になるとしたくともできなくなるよ」と擁護する。

悪魔狩りの際は、その行為に否定的だが家族のために近所の人々と足並みを揃える。また明がデーモンに取り憑かれたと知った時は、明を信頼し逃がすが、そのため悪魔特捜隊に捕まり拷問にかけられることになる。死の間際、デビルマンとなって駆けつけた明に子どもたちのことを託した。

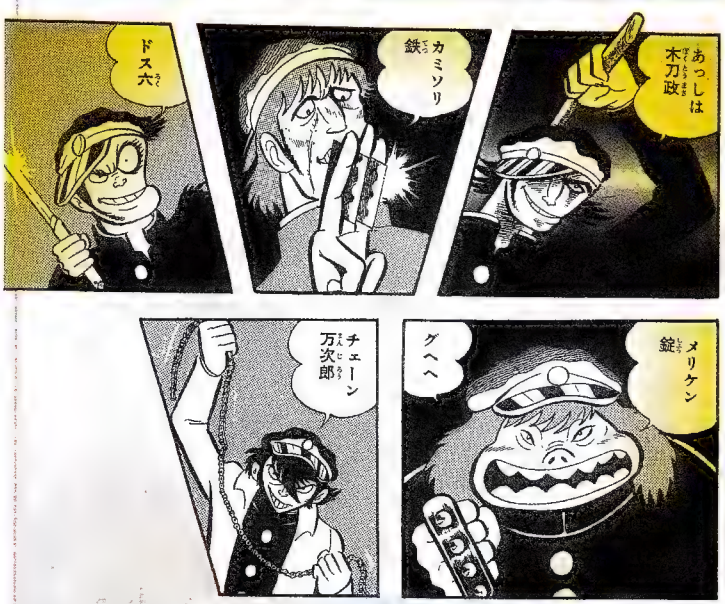
牧村の母

牧村家の優しい母親。悪魔狩りにおいて、夫とともに悪魔特捜隊に連行され、拷問にかけられたあげく死亡。デビルマンが到着した時には、逆さ吊りの無惨な姿で発見される。

タレちゃん



美樹の弟。恐がりでおしっこをもらしちゃうので、おしっこタレのタレちゃんと呼ばれている。同級生のススムくんを気づかって夜まで付き合うような優しいところがあるが、ススムくんがお母さんと帰ったあとは、ひとりになった心細さと恐怖からおしっこをタレ流しながら帰ることに。また、生意気でマセたところもあり、姉のオッパイを揉んでゲンコツを食らう場面も。悪魔狩りで襲われた時は、火炎瓶など武器を用意して協力する。しかし、2階に避難するも包丁を持った男に首を斬り落とされ殺害される。



不良グループ

木刀政　ドス六　メリケン錠
カミソリ鉄　チェーン万次郎

いかにも悪党ヅラした不良どもだが、明に心酔してからは心強い味方である。明がデビルマンと知っても変わらなかったのは、姿ではなく明の心意気に惚れていたからに違いない。ワルであっても人を見る目は確かだ

学校帰りの明と美樹をからかい、因縁をつける不良グループとして登場。了に改造した銃で追っ払われたり、強くなった明に片手でやっつけられるなどいいところなし。ラズバに操られていたところを助けられ、明の子分となる。以降、デビルマン軍団の連絡係や牧村家のボディーガードとして活躍。明と牧村家の数少ない協力者となる。牧村夫妻が悪魔特捜隊に連行された後、美樹とタレちゃんだけとなった牧村家の留守を預かる木刀政だったが、悪魔狩りの群衆の襲撃を受ける。ライフル銃で必死で抵抗し、ふたりを守るも多勢には勝てず惨殺される。

甦った悪魔ども！

デビルマン図鑑

永い眠りから覚め、人類を襲い恐怖に陥れたデーモンたち。
それぞれが奇妙で無気味、どれひとつ同じ個体はおらず、
多種多様な特長と姿を持つ。何万というデーモンのうち、
「デビルマン」と「新デビルマン」に登場した特に印象的な
デーモンを紹介する。また正義の心を持った人間と合体した結果、
デビルマンとなった者も紹介する。(参考：「永井豪ワールド悪魔事典」)

カイム

サイなどの哺乳類と合体。
全長約 9m、体高約 3m、体重約 8 t の巨体だが動きは俊敏。時速約80kmで走ることができる。非常に硬い体表を持ち、左右の肩からは共に3mを超える強大な角が生えているのが特徴。角からは約 1 万ボルトの電流を発することができ、敵を感電死させるのが最大の攻撃法だ。さらに巨体とスピードを生かして突進する攻撃も、敵に大きなダメージを与える。

シレーヌ

猛禽類などの鳥類と合体。
全長約 2.7m。頭部に巨大な翼が生えており、それを羽ばたかせて空を自由に飛び交う。翼を広げると、全幅は約3m。両腕両足は鉄製のかぎづめで、約5000ボルトの電流が流れている。捕らえた敵の体を電流の力で麻痺させ、また相手の超能力などを封じ込める。長い触角にはテレキネシス能力がある。この力で腕のかぎづめをはずし、半径約20m以内を自由に操って遠距離の敵を襲ったり、物体移動などを行える。触覚はレーダーにもなり、ねじれた空間の中に人間の目には触れずに潜むことも可能。また腕のかぎづめで体内中央にエネルギーを溜め、光線を発して核爆発を起こす力も持つ。爆発の際、結界を張ることによって敵を確実に死滅させる。さらには、テレポーテーション能力も備えている。

ゲルマー

肉食の節足動物などと合体。
水に化けることができるデーモン。全長は最大で約 3.3m。普段は水中に潜み、水に入ってきた敵を捕らえる。また、水を自在に操ることもでき、これが最大の武器だといえる。ゲルマーの体内の水を飲んだ者は意識を乗っ取られ、思うがままにコントロールされてしまうのだ。体内貯水量は最大で約 1 t にも及ぶ。ただし乾燥と塩分には非常に弱い面を持っており、水分を失うと体が約 2mに縮んでしまう。

アグウェル

粘土質を引き寄せて形作られたエネルギー体。不定形のデーモン。体の形を自在に変えられるのが最大の特徴で、土などと一体化する。また床や壁などを泥状に変化させることもできる。全長は最大で5m。体重も常に変動するが平均で約250kg である。頭部には触覚が生えており、これを自在に操って相手にからませ、体の原子構造を変化させる能力を持つ。触覚は約 10mまで伸縮する。また他者だけではなく、自分の原子構造も変えられるのも特徴のひとつだ。

ザン

硬質な頭部に猛獣のような毛に覆われた体に胸部の4つの目が特長的。"百の悪魔。で形成される「ザン魔団」のボス。全長約 5.5m、体重約 500kg。頭頂部に鋭い突起があり、胸から下は黒い剛毛が生えている。また胸には口と4つの目がある。胸からは、酸性の体液がにじみ出る。これは猛毒性の体液で、触れたものは必ず死んでしまう。体を細胞レベルまで分解することができるため、どこへでも自在に瞬間移動する。さらには細胞を組み替えるメタモルフォーゼ能力も備えており、様々な形に変身することも容易だ。

人類を滅ぼすために デーモン&

サイコジェニー

異常に大きな顔が胸部についた姿。
悪魔神サタンの側近といえる第一級のデーモン。全長約 2.8m、体重約 450kg。二足歩行の人型だが異様に巨大な頭部が不気味である。サイコキネシス能力が非常に高く、相手の精神に入り込んで攻撃する。サイコジェニーの瞳に見つめられた者は、精神内部に本能と理性の戦いが発生。やがて狂気の状態に導かれ、命を落としてしまう。この精神攻撃の到達範囲は半径約 10000 ㎞にも及び、例え第一級のデーモンであっても耐えられないといわれている。かつて悪魔神サタンの記憶を操った結果、サタンが人間・飛鳥了として不動明を巻き込む "悪魔対人間。の戦いを始めた。デーモン族による人類撲滅計画を練る上で欠かすことのできない重要な存在である。

ゼノン

コウモリ、狼、山羊などと合体。
悪魔神サタンに次いで位が高い "悪魔王。。ゼノンの最大の特徴は、4つの顔を持っていることだ。それぞれの顔には意味があり、正面の顔は「冷酷さ」、向かって右の顔は「狡智さ」、左の顔は「邪悪さ」、そして腹部の顔は「残忍さ」を表している。頭部には鋭い角が生えており、足には力強い脚を持っている。全身は黒い毛で覆われており、腕は巨大な翼になっている。全長は平常時は約 13mだが、最大約 400m まで自在にボディサイズをコントロールできる。最大時の翼の全幅は約 1 ㎞にまで達する。またテレポーテーションやテレパシーなど、強大な超能力を備えている。正面の顔の額にある目から、ゼノンの超能力が発せられている。

ジンメン

カメなどの爬虫類と合体。
全長約 3.1m、体重約 1.3 t。「ザン魔団」の一員。最長約 9mの伸縮自在の首で敵の体に巻きついて動きを封じ、約 300 度にまで達する手の平の発熱体を使い、敵の体を焼き尽くす。人間を好んで食べ、甲羅には食べられた人間の顔がコブとなって浮かび上がることが最大の特徴。その顔は死者ではあるが、意識があって恐怖や痛みを感じている。新しい人間が次々と浮かび上がるため、古くなった者は消滅していく。

ラズバ

クモの糸の集合体。
実態は不定形のデーモンだが、クモの姿をしていることが多い。本体重量は約 200kg。糸による結界を張って敵を閉じ込め、肉や骨を溶かして自分の養分とする。結界は半径約 1 ㎞以内であれば自在に張りめぐらせることができる。また約 20㎝程度のクモを無数に作り、それを自在に操ることで、人間の脳を食べてその体に寄生する。その上で人間の体を乗っ取りコントロールすることも得意。

ディトス

獣などの有毒動物と合体。

全長2.5m、体重約200kg。足が速く、四足歩行時の最高速度は時速500kmを超すといわれる。夜目が効くので、暗闇でも日中と変わらずに動くことができる。戦闘時は敵の喉に鋭い牙で噛みつき、即死させる攻撃を得意とする。

カリオルアー

恐竜と7頭の大蛇が合体。

7つの頭を持つ巨大なウコンで、魔神サタンの側るデーモンでもある。それぞれの首の長さは約24m。狙いの際には、互いの顔を守り合う鉄壁の防御が特徴。さらには、強力なサイコキネシスを持っている。

ロスシード

数種の毒蛇と合体。

人型デーモンで、頭の部分には約200頭の毒蛇がいる。また人間の髪毛を集まったため、下部に人の顔がある。攻撃時には頭部の毒蛇を飛ばして敵を襲う。また背中には全幅約1.2mの翼が出し入れでき、空も飛べる。

リィビィ

植物と合体。

ナフィーロ

コウモリ、爬虫類などとネコ科の動物の合体。

全長約60㎝の小型デーモン。普通の黒猫のように見えるが、背中から大きな翼を出し入れすることができ、それで大空を飛んで移動する。変身能力も高く、姿を変えてのスパイ活動に力を発揮する。また体はとても柔軟である。

イーダー

ヘクトス

トリケラトプス、プテラノドンと合体。

知能は低く、原始的な巨大デーモン。6枚の羽根を持ち、背中の羽根を使って風を巻き起こすこともできる。巨大な口から猛毒ガスを噴射したり、長い尾を武器にして敵を打ち倒すのが攻撃パターン。空中を飛びながら戦うのも特徴の1つ。

ネイコイ

ロガメッド

頭部に巨大な目と口、口は縦についている。

サバトに集められた人間と合体。二足歩行の男性型デーモンで、全長は約2m。頭部の巨大な口の鋭い牙で敵を噛み砕く。また額の第三の目は魔力を発揮する。両耳に大きな耳も特徴のひとつで、どんな小さな音でも聞き逃すことがない。デビルマンが初めて戦したデーモン。

マストゥフ

鋭い2つの眼を持つ。

ソ連書記長の秘書と合体し、スーツを着た黒色のデーモン。4つの目と耳は、1㎞先にある物を見極め、100㎞先に落ちた針の音を聞き分ける。また知力と記憶力が抜群で、力ではなく頭脳を駆使して戦おうとする。

ダラック

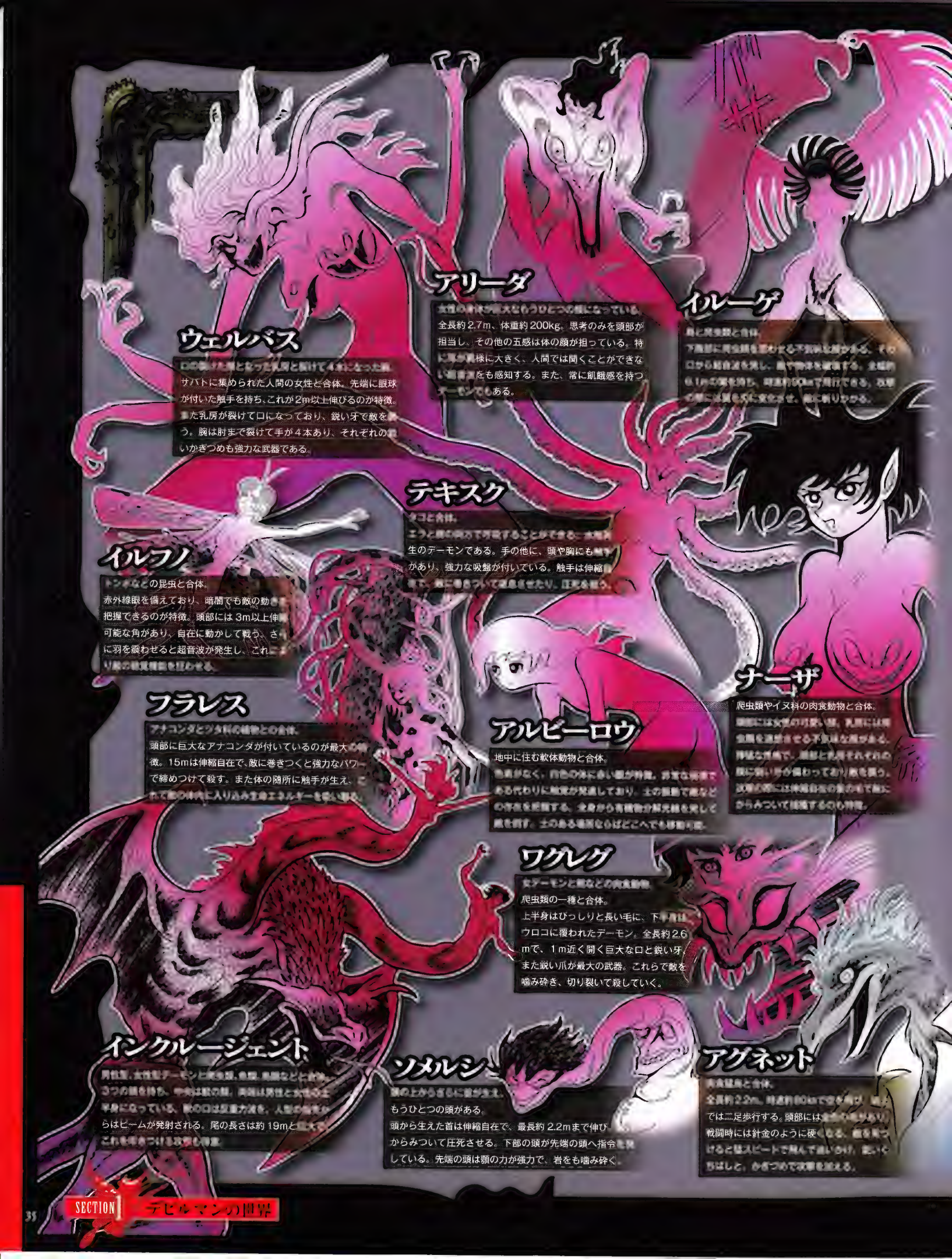
爬虫類と合体。

全長約3m、体重約1t。体に数多くの斑点があり、首は伸縮自在で最大6mまで伸びる。長い首を利用し、敵の体にグルグルと巻き付いて締め上げる攻撃を得意とする。体の表面は不規則な体液を分泌しており、常に濡れている。

メドック

触手のある寄生生物のような外見。

全長約10m、体重約2tという超小型、生物の脳を食いあらし、寄生して体を乗っ取るデーモンで、ソ連書記長と合体した。額の角と、顔面に生えた触手は数mの範囲で伸縮自在。角を寄生した相手の脳に突き刺すことで、記憶などを操作する。



アリーダ

女性の身体が巨大なもうひとつの顔になっている。
全長約2.7m、体重約200kg。思考のみを頭部が担当し、その他の五感は体の顔が担っている。特に嗅覚が異様に大きく、人間では聞くことができない臭音波をも感知する。また、常に飢餓感を持つデーモンでもある。

イルーゲ

鳥と男性器と合体。
下腹部に男性器を思わせる不気味な器官がある。そのロから超音波を発し、敵や物体を破壊する。全長約6.1mの翼を持ち、時速約900kmで飛行できる。改造の際に体質を女に変化させ、敵に襲いかかる。

ウェルバス

口の裂けた胸となった乳房と裂けて4本になった腕。
サバトに集められた人間の女性と合体。先端に眼球が付いた触手を持ち、これが2m以上伸びるのが特徴。また乳房が裂けて口になっており、鋭い牙で敵を噛う。腕は肘まで裂けて手が4本あり、それぞれの鋭いかぎつめも強力な武器である。

テキスク

タコと合体。
ニつと胸の両方で呼吸することができる、水陸両生のデーモンである。手の他に、頭や胸にも触手があり、強力な吸盤が付いている。触手は伸縮自在で、敵に巻きついて窒息させたり、圧死させる。

イルフノ

トンボなどの昆虫と合体。
赤外線眼を備えており、暗闇でも敵の動きを把握できるのが特徴。頭部には3m以上伸縮可能な角があり、自在に動かして戦う。さらに羽を震わせると超音波が発生し、これにより敵の精神機能を狂わせる。

ナーザ

爬虫類やイヌ科の肉食動物と合体。
頭部には女性の可愛い顔、乳房には男性器を連想させる不気味な器官がある。神経は共通で、顔と乳房それぞれの顔に別々の心が備わっており敵を襲う。交尾の際には伸縮自在の舌の先で敵にからみついて接触するのが特徴。

フラレス

アナコンダとヅタ科の植物との合体。
頭部に巨大なアナコンダが付いているのが最大の特徴。15mは伸縮自在で、敵に巻きつくと強力なパワーで締めつけて殺す。また体の随所に触手が生え、これで敵の体内に入り込み生命エネルギーを吸い取る。

アルビーロウ

地中に住む軟体動物と合体。
色素がなく、白色の体に赤い眼が特徴。視覚は退化してある代わりに触覚が発達しており、土の振動で敵などの存在を把握する。全身から有機物分解先端を発して敵を溶す。土のある場所ならばどこへでも移動可能。

ワクレグ

女デーモンと馬などの肉食動物。
爬虫類の一種と合体。
上半身はびっしりと長い毛に、下半身はウロコに覆われたデーモン。全長約2.6mで、1m近く開く巨大な口と鋭い牙、また鋭い爪が最大の武器。これらで敵を噛み砕き、切り裂いて殺していく。

インクルージェント

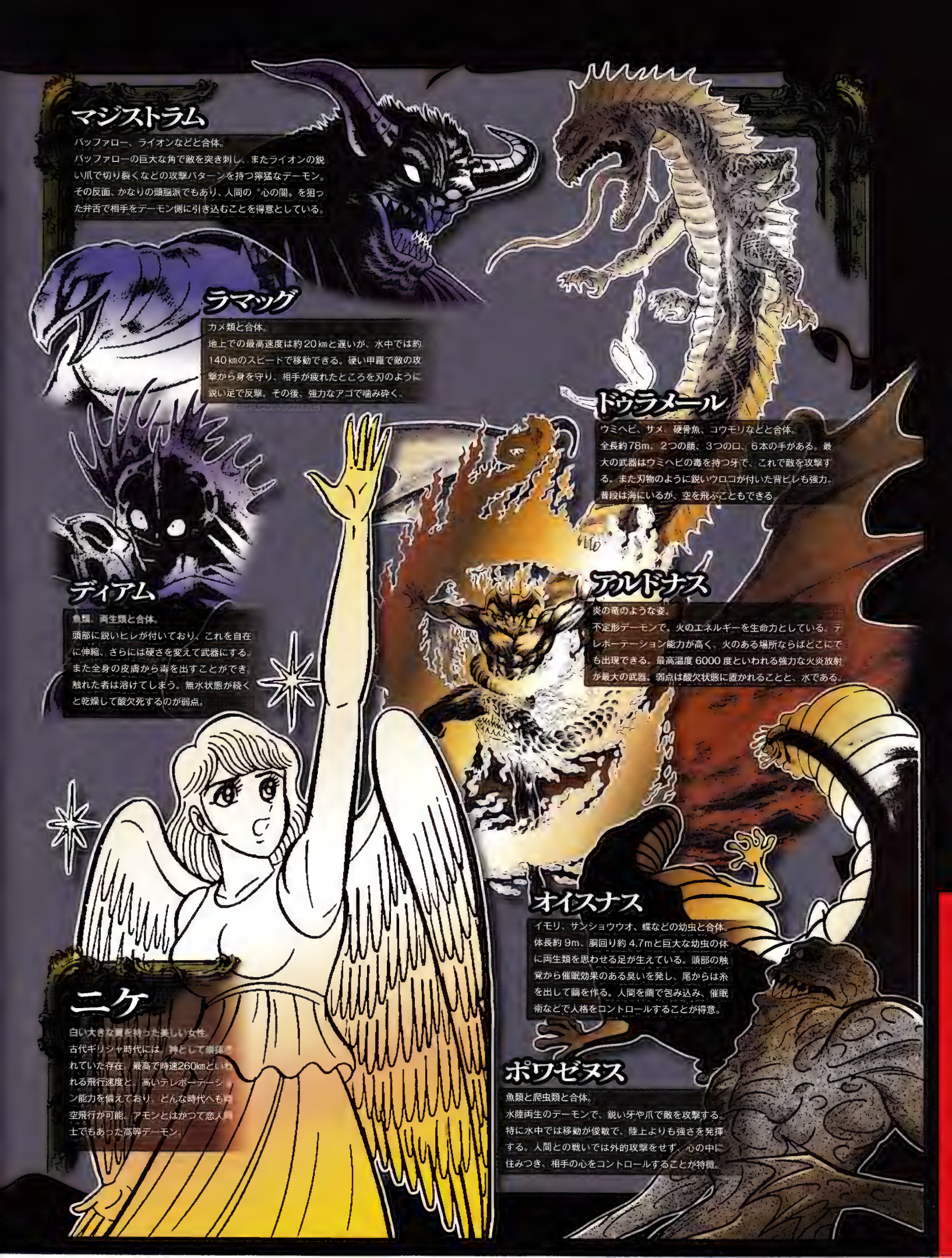
男性型、女性型デーモンと男性器、魚類、昆虫などと合体。
3つの頭を持ち、中央は蛇の頭、両脇は男性と女性の上半身になっている。蛇の口は反重力波を、人型の頭からはビームが発射される。尾の長さは約19mと[illegible]これを巻きつける攻撃も得意。

ソメルシー

頭の上からさらに首が生え、
もうひとつの頭がある。
頭から生えた首は伸縮自在で、最長約2.2mまで伸びからみついて圧死させる。下部の頭が先端の頭へ指令を発している。先端の頭は顎の力が強力で、岩をも噛み砕く。

アグネット

[illegible]と合体。
全長約2.2m、時速約80kmで空を飛び、[illegible]では二足歩行する。頭部には[illegible]があり、戦闘時には針金のように硬くなる。敵を見つけると猛スピードで飛んで追いかけ、鋭いくちばしと、かぎつめで攻撃を加える。



マジストラム

バッファロー、ライオンなどと合体。
バッファローの巨大な角で敵を突き刺し、またライオンの鋭い爪で切り裂くなどの攻撃パターンを持つ獰猛なデーモン。その反面、かなりの頭脳派でもあり、人間の〝心の闇〟を狙った弁舌で相手をデーモン側に引き込むことを得意としている。

ラマッグ

カメ類と合体。
地上での最高速度は約20㎞と遅いが、水中では約140㎞のスピードで移動できる。硬い甲羅で敵の攻撃から身を守り、相手が疲れたところを刃のように鋭い足で反撃。その後、強力なアゴで噛み砕く。

ドゥラメール

ウミヘビ、サメ、硬骨魚、コウモリなどと合体。
全長約78m。2つの顔、3つの口、6本の手がある。最大の武器はウミヘビの毒を持つ牙で、これで敵を攻撃する。また刃物のように鋭いウロコが付いた背ビレも強力。普段は海にいるが、空を飛ぶこともできる。

ディアム

魚類、両生類と合体。
頭部に鋭いヒレが付いており、これを自在に伸縮、さらには硬さを変えて武器にする。また全身の皮膚から毒を出すことができ触れた者は溶けてしまう。無水状態が続くと乾燥して酸欠死するのが弱点。

アルドナス

炎の竜のような姿。
不定形デーモンで、火のエネルギーを生命力としている。テレポーテーション能力が高く、火のある場所ならばどこにでも出現できる。最高温度6000度といわれる強力な火炎放射が最大の武器。弱点は酸欠状態に置かれることと、水である。

オイスナス

イモリ、サンショウウオ、蝶などの幼虫と合体。
体長約9m、胴回り約4.7mと巨大な幼虫の体に両生類を思わせる足が生えている。頭部の触覚から催眠効果のある臭いを発し、尾からは糸を出して繭を作る。人間を繭で包み込み、催眠術などで人格をコントロールすることが得意。

ニケ

白い大きな翼を持った美しい女性
古代ギリシャ時代には、神として崇拝されていた存在。最高で時速260㎞といわれる飛行速度と、高いテレポーテーション能力を備えており、どんな時代へも空飛行が可能。アモンとはかつて恋人同士でもあった高等デーモン。

ポワゼヌス

魚類と爬虫類と合体。
水陸両生のデーモンで、鋭い牙や爪で敵を攻撃する。特に水中では移動が俊敏で、陸上よりも強さを発揮する。人間との戦いでは外的攻撃をせず、心の中に住みつき、相手の心をコントロールすることが特徴。

デーモンの合体攻撃に耐え
人間の心を失わなかった者たち！

デビルマン軍団

ラミゲドル

超大型の有翼恐竜などと合体。
巨大な口から、約8000度の火炎を発射して敵を攻撃する。全長約23m、体重約15tと巨体だが、テレポーテーション能力を持つためどこにでも移動が可能。さらにはテレパシー能力もあり、誰とでも会話することができる。

デスプロー

蟹との合体。
硬い甲殻が体全体を覆っているのが特徴で、約10tの衝撃に耐えられる。甲殻には角と数多くの棘が生えており、攻撃時にはこれらが鋭い槍と化して敵の体を突き刺す。また、伸縮自在な触手も大きな武器である。

プフール

イヌ科の動物との合体。
体の表面は毛に覆われており、嗅覚は人間の約7000倍。戦闘時には犬歯が伸びて牙となり、それを武器に敵と戦う。聖書にも精通した博学なデーモンで、デビルマン軍団の参謀的存在といえる。

トウルグ

女性の体にタコの大きな吸盤がついたような姿。
デーモンの無差別合体によって誕生したデビルマンのひとり。腰部分にも顔があり、その眼は赤外線光線を発して暗闇の中でも物を見通すことができる。最大の武器は体中の穴から発射される粘着性の液体。これは濃硫酸を多く含んでおり、ほとんどの敵を溶解することが可能だ。

ボンズオブヒンズー

ヒンズー教の僧侶とデーモンの合体。
平均年齢120歳といわれる、元ヒンズー教の僧侶たちがデーモンと合体。その際、強じんな精神力でデビルマンとなった。テレパシー能力を駆使して世界各地の仲間（デビルマンたち）に最終決戦に備えた呼びかけを行っている。

デーモンの謎

人類の敵!!

明らかになった先住人類デーモンの存在

考古学者・飛鳥教授はマヤ遺跡を調査した際、遺跡近くのジャングルの中にあった深い穴に落下。その際、奇妙な石像を発見した。調査した結果、それは氷河期以前の地層にあり、先住人類・デーモンによって作られたものであることがわかる。

さらにその像を調べたところ、中は空洞で頭にかぶることができることがわかった。また、その像をかぶるとデーモンの世界のイメージが脳に直接伝わり、それが文字を持たないデーモンの記憶装置であり、デーモンの歴史を記すものだということがわかる。

石像からのイメージによると、デーモン一族が生きた時代は巨大な恐竜が闊歩する原始時代であることが確認できた。また、無数のデーモンたちが互いに殺し合う様子が見え、デーモンにとって戦いが生きがいであり、殺すことが喜びであることがわかる。そしてその姿から同一の個体は存在せず、デーモンは各個体が別々の異なる個性を持つ生物であることもわかったのだった。それはデーモンの持つ特殊能力、合体能力によるものであり、デーモンは他の生物と合体することで独自の進化をする特殊な生命体だったのだ。

生存競争に勝つため進化したデーモンの合体能力

デーモン一族は互いに殺しあう弱肉強食の闘争世界で生き残るため、合体能力を身につけたと考えられる。生物あるいは無生物と合体し、その性質を取り入れることで強くなり、さらに強くなるために合体を繰り返すのである。恐ろしい異様な姿になったのは多種の生物が入り混じったためであり、それは悪魔の姿そのものといえる。

またそれぞれがまったく違う合体を繰り返したため、それぞれが独自の姿、多種多様な能力を持つことになったと考えられる。デーモンにとって合体は、人間がさらに強力な武器を開発するのと同様であり、合体を繰り返すことで自分の身体をさらに強力な武器に変えるのである。

デーモンとは何者なのか？その謎に迫る！

飛鳥教授が自身を犠牲としたデーモンとの合体実験

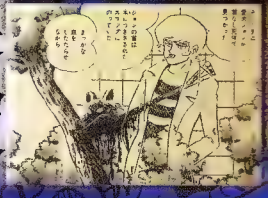
飛鳥教授はデーモンの思考や能力を探るため、自らデーモンとの合体を試みた。研究の結果、合体の方法のヒントは悪魔召喚の儀式サバトにあった。デーモンは人間の理性を嫌うため、被験者がトランス状態に陥ることでデーモンが人間と合体しやすい状況を作ることが肝要だった。（後に息子・了によって、ディスコを模したサバトでデーモンとの合体が試みられる）

実験の結果、飛鳥教授はデーモンとの合体に成功。デーモンの変身能力によって人間の姿が保たれたため、息子の了に合体を見抜かれることはなかったが、明らかに性格に変化が見られた。

当初は人間の理性を保ったが、デーモンの残虐性を押さえることが出来ず、小動物やペットを虐殺。ついには息子まで手にかけようとした。

自分がデーモンそのものになってしまうと危険を察知した飛鳥教授は、理性が働くうちにとガソリンを被って自殺。自らとデーモンを抹殺した。死亡時の体重は以前の2倍あり、デーモンと合体していたことを証明していた。

また、飛鳥教授がデーモンと合体した際、そのデーモンの意識から、氷河の中で凍眠しているデーモンが復活し、再び人類から地球を奪い返そうとしていることを知る。世界中の人間を一人残らず食い殺し、昔と同じく地球をデーモンの楽園にしようというのである。デーモンはすでにひそかに人間界に潜み、人間を調べつくして攻撃のチャンスをうかがっていたのだ。



氷河で凍眠するデーモンとその真実

父の遺書と日記から了が地球に起こった氷河期によりデーモンが凍眠したと推察していたが、後のサタンの述懐により、デーモンが自ら凍眠したことが明かされる。

そもそも小宇宙は神が創ったものであり、地球も神が創った星のひとつだった。神により生命を吹き込まれた地球には生命が満ちあふれ、様々な生命が育ったが、数億年後に生物の進化を神が見に来たとき、そこで異様な生物、デーモンの姿があった。神はデーモンの醜く異常な進化を遂げていること、その残忍で飽くなき闘争心を嫌った。そこで神は小宇宙を無に帰し、失敗を償うことにしたのだった。

その際、サタンは神の決定に怒り反対、生まれた命を勝手に殺していい道理はないと神に反旗を翻し、デーモンとともに戦いを挑んだのである。その結果、神との戦いに勝利するも、次の神の攻撃に備え、自ら200万年の眠りにつくことにしたのだった。

しかし、サタンが眠りから覚めたとき、美しいはずの地球が人間によって汚されていたことを知る。サタンは怒り、自ら命を賭けて守った地球を汚した人間を許せないと考え、人類を滅ぼすことを決めた。そしてデーモンによる人類滅亡、地球奪還計画が進行し、ついにはデビルマン軍団との最終戦争に到ったのである。

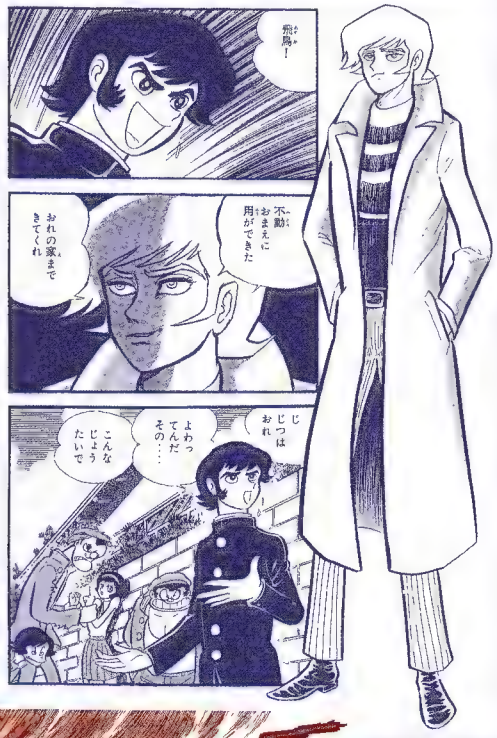
考古学者・飛鳥教授によるデーモン研究

DEVILMAN STORYGIDE
悪魔復活編

人類滅亡へのプロローグ
不動明と飛鳥了

人類の存亡をかけた恐怖の幕開け！

衝撃的な物語は、デビルマンの誕生までのエピソードから始まる。「デビルマン」の魅力はなんといっても、主人公の不動明が人間であることを捨てて悪魔と合体することを選択するところにある。ごく普通の毎日を過ごす高校生が、人類のために自分を犠牲にして悪魔になる。そんな悲劇的な英雄に読者は感動したのだ。



▲親友の不動明を迎えにきた飛鳥了

▶了は父の残した恐怖の遺産を明にも受け継がせようと考える

▲デーモンと合体するためには、理性を捨て去る必要があった

デビルマン誕生！

▲デビルマンとして覚醒する明

またクールな飛鳥了も魅力的だった。父親の残した恐怖の遺産を受け継ぎ、悪魔になることを選んだのは了も同じである。デーモンの脅威を理解したとき、人類はいずれ滅ぼされ自分も死ぬ運命にあると悟ったのだ。おそらく明を阿修羅地獄の道連れに選んだのは、単に人間の心を残したまま悪魔の力を手に入れることができる純粋で善良な心の持ち主だからというだけではない。どうせ死ぬなら信頼する親友と一緒に…いわば心中のような気持ちで誘ったに違いない。

またデーモンとの合体の手段も衝撃的だった。地下の秘密クラブのようなところでマリファナと酒、半裸の女性たちが踊り狂う現代のサバト。さらに飛鳥了が女性の胸に割れたビールびんを突き立て、流血騒ぎを起こしたことでまさに狂乱の宴となり、その様相は異様で恐ろしいだけでなく、背徳的で快楽的な感覚を覚えさせるものだった。そして、突如としてデーモンと合体し、醜い化け物に変わる美しい女たち。醜さと美しさが入り混じった魔的な姿はどこか官能的でもあった。

このデビルマン誕生までのエピソードだが、実はデビルマンが登場するまで単行本1巻分かかっている。しかし、デビルマンというキャラクター、デーモンという設定を理解するには必要であり、その恐ろしさと魅力を伝えるために重要なエピソードだった。また、そのおかげでこれから始まる物語を予感させ、のちに名作として完成する「デビルマン」の秀逸なプロローグとなった。

Synopsis あらすじ

主人公・不動明は、父親の海外赴任に伴い、家族と離れて牧村家に居候している。同じ高校に通う活発な牧村家長女・美樹とは対照的な気の弱い少年で、平和な学園生活を送っていた。

そんなある日、かつて明の親友だった飛鳥了が突然現れ、不良に絡まれていた明と美樹を助けるが、猟銃を片手に車を乗り回すなど、以前とは様子が違っていた。

了の自宅に案内された明は、了の父・考古学者飛鳥教授が、自らガソリンを被り焼身自殺を遂げたことを知らされる。遺跡調査の際に、偶然発見したデーモン＝悪魔の歴史書である石像を研究していた飛鳥教授は、太古から地球内部の氷の世界に閉じ込められていた先住民・デーモンが、何万年もの時を経て復活を遂げ、地球を人類から奪い返そうとしている事実をつかんだ。そして研究を進めるうち、デーモンと合体するも肉体を乗っ取られ、心まで支配されそうになったため、焼身自殺を図り、自ら命を絶ったのである。

人類を滅ぼそうとするデーモンと戦うためには、悪魔と合体し、その超能力を手に入れなければならない。自殺に追い込まれた父の遺言＝恐怖の遺産を引き継ぐために力を貸してくれ、と明は了に懇願される。了はデーモンに心を支配されずにデビルマンになり得る人間として、正義の心を持つ明を選んだのだ。

遺産を受け継ぐ決心を固めた明を、了は悪魔の儀式・サバトの行われる地下室に案内する。そこでは悪魔を呼び寄せるための酒池肉林のパーティが行われていたが、了の行動で一気に流血と恐怖に支配される。理性を失った若者たちは次々とデーモンと合体して戦闘を繰り広げ、地下室は阿鼻叫喚の地獄と化した。

恐怖で極限状態に陥った明は、デーモン最強の勇者アモンと合体し、ついに悪魔の力と人間の心を持つデビルマンとなり、自分の周りのデーモンたちをなぎ倒すのだった！

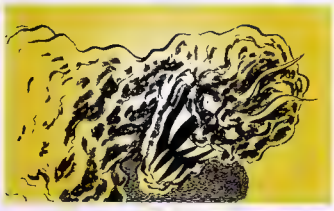
DEVILMAN STORYGIDE
妖鳥死麗濡編

美しき刺客が牧村家とデビルマンを急襲！
妖鳥シレーヌ来襲

▼デーモン最強の刺客シレーヌ登場

デビルマン最初の敵はデーモン最強の刺客！

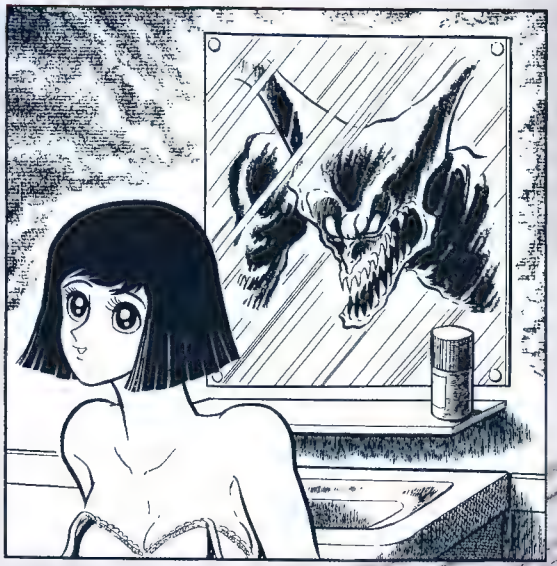
▼物質に同化するアグウェル



デビルマンとなった不動明がついにデーモンとの戦いを開始する。ここではデビルマンのヒーローとしての活躍が見どころだ。

敵は「デビルマン」を代表するキャラクター、妖鳥シレーヌ。勇者アモンの体を乗っ取り、力を奪ったデビルマンを抹殺するため大魔王ゼノンが放ったデーモン最強の刺客である。

特徴的なのは、デーモンが狙い襲うのが、変身後のデビルマンではなく、人間体である不動明であるというところにある。またデーモンが闇に紛れ、隙をついて襲ってくることがわかるエピソードでもある。

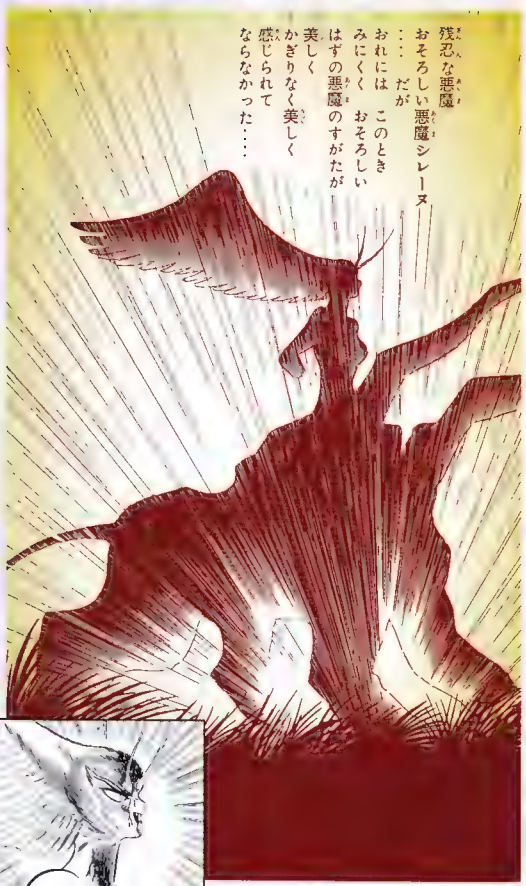


▲美樹を襲おうとするゲルマー

シレーヌは最強の戦士でありながら、まず手先であるアグウェルとゲルマーに牧村家を襲わせ、明の周辺から攻めてきた。物質に溶け込むアグウェル、水と同化するゲルマーはいずれも知らぬ間に忍び寄り、隙をついて襲い、そしてシレーヌもまた、明がゲルマーを倒したと安心した隙をついて襲ってきた。人間の心の隙をつく、卑怯で狡猾、それがデーモンのやり口なのだ。デーモンは凶悪で残忍なだけではない。策を講じ、心理的に人間を攻撃する知能を持った生物なのである。

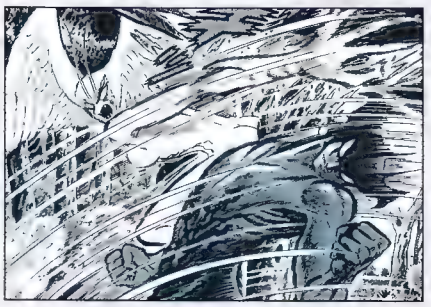
またシレーヌの登場によって、デーモンがただ暴力的、破壊的なモンスターではないことが明かされている。戦士としての誇り、美学、それがシレーヌにはあった。かつての勇者アモンと同じ力を持ったデビルマンに勝利するために戦い、大魔王ゼノンの期待に応える。栄誉ある戦いに命を賭ける姿はまさに戦士であった。

強敵!



▲シレーヌの死に顔は美しかった……

▲デビルマンとシレーヌの死闘



美しき悪魔!

さらにシレーヌは月を愛でたり、カイムの愛に殉ずるなど、デーモンなりの愛の美学を持っていたと推察できる部分がある。特にシレーヌの最期には、凶悪で醜悪なデーモンの戦いの中にも悪魔の美学といえる美しさを見い出すことができるシーンといえよう。

Synopsis あらすじ

デーモン族の勇者アモンと合体し、最強のデビルマンとなった不動明は、以前の気弱な性格から、逞しく精悍な少年へと生まれ変わっていた。だが、つかの間の平穏な日々は長く続かず、アモンを乗っ取り、力を奪ったデビルマンを倒すべく、デーモンは次々と刺客を送り込んで来る。

最初の敵は最強の女戦士・妖鳥シレーヌ。その命を受けた地獄の案内人アグウェルとゲルマーが牧村家を襲った。あらゆる物質と同化できるアグウェルは美樹の両親を天井や壁に塗り込め、水に同化したゲルマーは浴槽に潜んで美樹に牙をむく。牧村家は一瞬にして地獄の館と化した。

デーモンの襲撃を察知した明は、悪魔の闘争本能を甦らせ、敵を血祭りに上げる。だが、愛する美樹を守り抜いた安堵から油断したとたん、シレーヌが明に襲いかかった！

明を鷲掴みにするシレーヌのかぎ爪。その魔力で明はデビルマンに変身することができない。だが、危急を感じ取った了に救われ、明はデビルマンに変身する！

空中戦から地上戦へと壮絶な死闘は果てしなく続く。シレーヌの鉄の爪は円盤のように回転し、デビルマンの左腕を切断すると、みぞおちにも深手を負わせる。だが、デビルマンは逆にその爪を利用し、シレーヌの腹部に致命傷を負わせ、片翼をもぎ取る。

魔王ゼノンに助けを請う瀕死のシレーヌ。すると雷が大地を貫き、四足歩行のデーモン、カイムが出現。シレーヌを愛するカイムは、彼女の執念に自分の身を捧げるのだった。、シレーヌはその想いに報いるようにカイムと合体。デビルマンに再度挑む！

カイムの角に貫かれ、戦闘不能の重傷を負ったデビルマンは敗北を覚悟。だが、とどめを刺す前にシレーヌは絶命する。光輝く朝日を浴び、勝利を確信した満足げな微笑みを浮かべるその姿は、限りなく美しかった……。

デーモンの魔の手が人々に迫る！
デーモン都市伝説

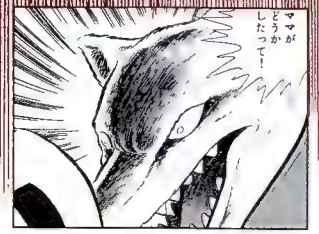
ごく日常で起こる事件はデーモンの仕業だった！

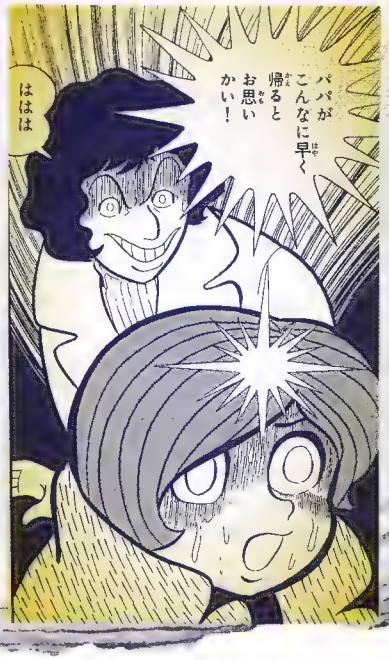
いくつかのエピソードをこの魔獣人面編としてまとめたが、これは〝デーモン都市伝説〟といったオムニバス的なパートである。これらのエピソードは、どこかで聞いたような恐ろしい話や奇談とリンクさせ、デーモンの恐怖を読者に伝えることに成功している。

たとえば、デーモンに襲われ食べられた人間は猟奇殺人事件、またススムちゃんのエピソードは家庭での児童虐待を思わせ、当時、深刻化する社会問題を風刺したかのようだった。そして学校に現れた毒グモのデーモンは学校怪談のようであり、また魔獣ジンメンは伝説の妖怪、人面疽をモチーフにしたと思われる。特に食べられた人間が甲羅に浮かび上がり泣き叫ぶ姿は悲惨で恐ろしく、強烈な印象を残したエピソードとなった。

特にこのパートで描かれたのは、〝人間を食べる〟というデーモンの恐ろしさである。デーモンは様々な形で人間社会に侵入し、捕食しているのだ。殺されるだけでも恐ろしいのに、食べられてしまうとはなんという恐怖だろう。作者である永

◀人間世界の中に、すでにデーモンは潜り込んでいた！



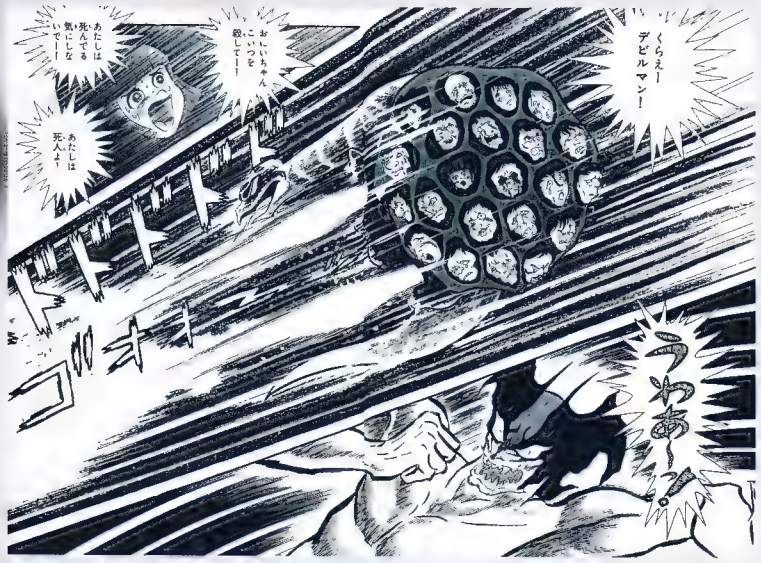


◀両親がデーモンになってしまったススムちゃんの悲惨な最期

井豪は人間にとって何が一番の恐怖なのか、これでもかとさらなる恐怖を突きつけてくる。

また、教室で明のクラスメートが他の動物とは違い、人間には天敵がいないことを語り、デーモンによって人間が食べられた猟奇事件を証拠に天敵が現れたと推論を述べている。そして冗談めかして、天敵の出現によって人口問題と食糧問題が解決するという恐ろしい仮説を立てている。だが、それが本当だったら恐ろしい。実際には天敵は存在しないが、もし天敵がいたとしたらデーモンのように人間を食べることは自然の摂理であり、正当な行為なのだから……。

ここではデーモンがいかに人間にとって恐怖の対象かが描かれたが、以降、物語はクライマックスに向け、さらなる恐怖が待ち受けることになる。



▲ジンメンは卑劣な最低最悪のデーモンだった

▲人間に寄生する蜘蛛の姿をしたデーモン・ラズバ

喰らう悪魔

Synopsis あらすじ

全国各地で何者かに人間が食われるという異常殺人事件が頻発していた。それらはデーモンの仕業であり、人間の姿になった彼らはレストランで人肉の味について語り合う。

デーモンハンターとなった了は、デーモンを追い詰めて狩る。しかし不思議な事に、了にはなぜかその間の記憶はなかった。

一方、明と美樹が通う名門学院もデーモンに狙われる。女生徒に取り付いたデーモンの毒グモがさらに不良グループに取り付くと、彼らを操り明に挑みかかってきたのだ。デビルマンである明はすぐにそれを見抜き、取り付いていた毒グモを始末する。しかし、毒グモはさらに大勢の運動部員たちを操り次々と襲ってくる。明は助けた不良たちとともに戦い、難を切り抜けるのだった。

デーモンの攻撃はそれだけでは終わらない。次に標的となったのは、明を慕って訪ねてきた少女・サッちゃんだった。サッちゃんの乗った新幹線にカメのような姿をしたデーモン、魔獣ジンメンが現れると、サッちゃんや乗客を食い殺したのである。ジンメンの甲羅には、食べた人間の苦痛と憎悪に満ちた顔が浮かびあがる。ジンメンはわざわざ明にそのサッちゃんの姿を見せつける。

サッちゃんの悲痛な叫びを聞いた明は怒りに燃え、デビルマンに変身する。しかし、攻撃すると甲羅に浮かんだ顔の人たちまで傷つけてしまう。苦悩のなか、デビルマンは刻まれたサッちゃんの顔もろとも甲羅を破壊する。勝利したものの、明のその目には一粒の涙が浮かぶ……。

さらに、美樹の弟・タレちゃんのまわりでも事件が起きる。友だちのススムくんは折檻されるからと家に帰りたがらなかったが、迎えに来たのは優しい顔の母親。結局、母親と帰ったススムくんだったが、家に帰ると両親はデーモンの正体を現し、殺されてしまう。この頃からデーモンは知らない間に次々と人間と入れ替わり、人間社会に潜伏しはじめていたのだった……。

世界各地に現れた悪魔王ゼノンが宣戦布告！
人類VS悪魔の戦争

▲ゼノンが全世界に宣戦布告をし、デーモンが人間世界を襲い始める！

ついに始まった人類を滅ぼすデーモンの総攻撃！

世界各地に巨大な悪魔王ゼノンの姿が同時に現れ、デーモンが人類に宣戦布告する！

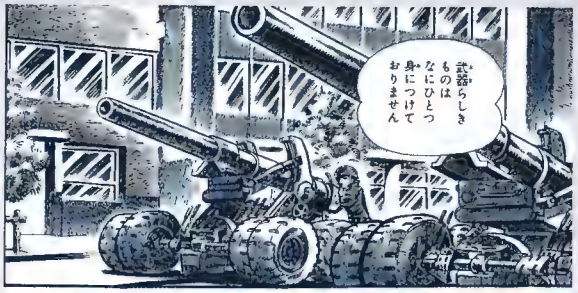
このパートではデーモンが都市伝説レベルの脅威ではなく、世界レベルの脅威となり、舞台も日本から全世界に移すことになる。そしてデーモンが戦う対象はデビルマンひとりから、人類すべてとなる。もはや〝戦い〟ではなく〝戦争〟である。これによって、当初、アニメ企画と連動して始まった「デビルマン」は、完全に一線を画した物語が展開されることになる。

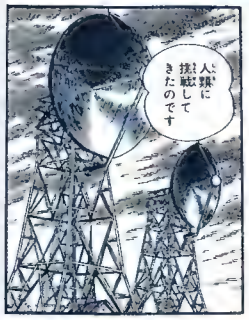
また物語も街で起こる小さな事件から、世界を舞台にした戦争に飛躍。最初はヒーローアクション、怪奇もののテイストだったのが、戦争ものあるいは人類滅亡ものへと変化した。飽きさせることのない展開は絶妙な演出といえる。

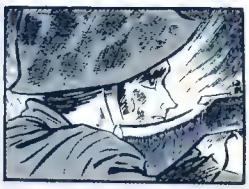
宣戦布告によって〝デーモン対人類の戦争〟が始まるが、デーモンの攻撃はそれ以前から始まっている。人間の恐怖を知り尽くしているデーモンは、直接攻撃をする前に人間の心を攻撃したのである。デーモンの無差別攻撃は人間がデーモン化して怪死するという恐怖を与えた。そして突然現れた巨大なゼノンの姿、直接頭に響くテレパシー、さらに5分後に攻撃を開始するという予告。人間を恐怖させ、パニックに陥れるには十分である。怯え、逃げ惑う人間たち。ここではデーモンの新たな恐ろしさを見せつけた。

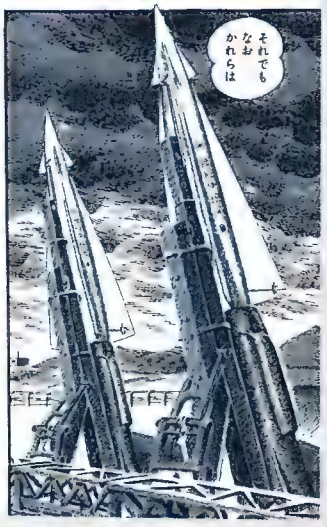
そしてデーモンの攻撃が開始されると、人間はあらゆる兵力を使い応戦する。デーモンの超能力対ジェット機や戦車、ミサイルによる攻撃。スピード感あふれる戦闘シーンは怪獣映画さながらで迫

▲デーモンと人間の戦争はまさに第三次世界大戦









核兵器と悪魔の脅威

▲何もかもを消し去る神の光に了が絶叫する

◀サイコジェニーの精神攻撃に屈するデビルマン

力満点！　さらに米ソの軍関係者に乗り移ったデーモンが核兵器で相打ちを試みる。人類を圧倒するデーモンの力に絶体絶命の人類の運命は風前の灯。デビルマンの登場は少ないが、「デビルマン」の大きな山場となったエピソードである。

Synopsis ——あらすじ——

仲間のスケバンに衣服をはぎ取られ、デーモン化した肉体をさらけ出す少女。食堂で絶叫し、顔の半分がデーモンとなったまま絶命する男。買い物途中に恐ろしいデーモンの形相となって倒れる主婦——。

突然起きたデーモン軍団による捨て身の無差別合体攻撃に市民はパニックに陥る。さらに混乱は地球全体に拡大、ソ連政府は自国の都市に水爆ミサイルを打ち込み、国民ごとデーモンを焼き尽くすという暴挙に出る。

この異常事態にショックを受ける明だが、事件を報じる新聞に、体がデーモン化しても人間の意志を持ち続ける少女の記事を見つける。無差別合体が偶然にもデビルマンを発生させている可能性に気づいたのだ。そして、明はデーモンに対抗するためにデビルマン軍団の結成を決意する！

だがそのとき、デーモンの首領・悪魔王ゼノンが世界中の都市上空に姿を現し、全人類に対して宣戦布告を行うとデーモン軍団は総攻撃を開始！　やがて空をデーモンの群れが覆い尽くした。人類も必死で迎撃するが、超能力を持つデーモンは地上に降り立つと殺戮のかぎりを尽くす。そしてさらに人類の完全抹殺を狙って米ソの軍事中枢に侵入すると、両国に核戦争を誘発させるのだった。

一方、明はデビルマンとなってデーモン軍団に立ち向かうも、サイコジェニーの精神攻撃によって倒される。デーモンたちはわれ先にとデビルマンを抹殺しようとするが、悪魔神サタンの命令はそれを許さなかった。

その間、米ソの放った核ミサイルは両陣営を目指すが、上空で突然消滅。またソ連全土を謎の光が覆い、偵察に向かった米軍の空母艦載機も光に飲み込まれるという不思議な現象が起こる。

命拾いした明は、了に「ヨハネの黙示録」の最終戦争・アーマゲドンにおいて悪魔軍と戦う神の軍団の話を聞いてハッとする。そして、それこそがデビルマン軍団だと確信するのだった。

疑心暗鬼になった人間と人間が殺し合う！
恐怖の悪魔狩り

デーモンを抹殺するための悪魔特捜隊が人間を殺戮！

悪魔狩りのエピソードほどショックなものはない。不動明の最愛の女性であり、ヒロインの牧村美樹が惨殺され、その頭部を串刺しにされてしまうのだ！　その生々しくも禍々しいその場面は、すべての読者にトラウマを与えるほどのものだった。悪魔よりも恐ろしいのは人間である。それまでこれほど人間の残酷さ、悪魔性を描いた作品はあっただろうか!?

世界中で人間とデーモンの戦争が行われるなか、人間にとって最も恐ろしい事態が起こる。それは悪魔特捜隊による悪魔狩りである！　デーモンより恐ろしいのは人間が人間を信じられなくなることなのだ！

人間は他者を信じられるから強いのであり、生きて行くことができる。そして人間から信頼を取ったら、人間関係は脆くも崩れ、社会は崩壊してしまう。つまり悪魔というのは姿のことではなく、心のことなのである。明は〝悪魔人間〟になったものの、心は人間のままだった。しかし、人間は人間の心を失った時、人間の姿のまま〝悪魔〟になってしまうのである。

人間の疑心を煽るのはデーモンの作戦だった。人間に恐怖と疑心のタネを植え付け、それが芽生えたときにはデーモンはもう何をする必要もない。人間不信に陥ったのは明も同様だった。了に自分の正体を世間に知らされ、さらに彼の正体はデーモンの支配者ですべての黒幕、悪魔神サタンだったのである！　また追い打ちをかけるように美樹が悪魔狩りによって惨殺されたことで人間に絶望する。

デビルマンにはもう守るものも信じる者もいない。すべての元凶であるサタンを憎み、デーモンを倒すことしか存在理由はない。デビルマンは軍団を従え、デーモンと戦うことを決意。物語は最大のクライマックス最終戦争＝アーマゲドンへと続く！

▲悪魔狩りが人間狩りへ…人間は悪魔になってしまった

守るべき人間の正体

▲人間に絶望した明が駆けつけると、無惨にも美樹は殺されていた

Synopsis あらすじ

デーモンの第一次総攻撃によって植え付けられた人々の恐怖心を払拭するため、政府は次々とデーモン対策を打ち出した。

北海道の生物科学研究所には、全国各地で捕獲されたデーモンが集められ、調査研究が行われたが、その正体は既存の科学理論では解明出来ない。そして、政府は特殊装備で身を固めた悪魔摘発及び殲滅組織「悪魔特捜隊」を結成し、悪魔狩りの開始を宣言。デーモンの正体が反抗や不満といった人間のネガティブな精神の産物であるという誤った結論を高名な科学者が発表したため、悪魔狩りの名の下、人間同士の殺し合いが始まった。

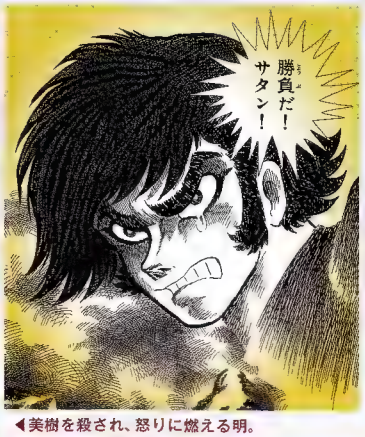
自分の想像した方向に事態が進みすぎると疑問を抱いた了は、自宅に戻って過去を調べ、飛鳥了は別人であり、その少年がすでに死んでいることを知った。自分は何者なんだ！　愕然とする了の前に、サイコジェニーが現れる。

一方、明は、特捜隊にデビルマンたちが狩られる前に、デビルマン軍団の集結を急ごうとするが、そのとき悪夢のような事態が起きる。親友・飛鳥了が、突如マスコミを通じて明がデビルマンになった瞬間の映像を公開し、「不動明は人類の敵、悪魔だ！」と糾弾したのだ。

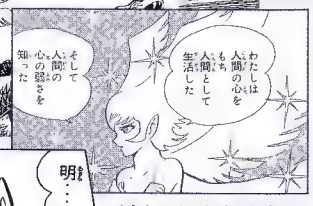
だが、牧村家のみんなは一瞬は疑うも明を信じてくれた。そして牧村の家を飛び出した明は、了を探しだして裏切りの理由を問い詰める。了はデビルマンはもう人間社会では生きられない。人間はいずれ自滅し、新しい歴史が始まる。おれたちデーモンの新世界でともに生きようと告げるのだった。

了の正体に気づいた明は親友と決別。牧村夫妻の救出のため悪魔特捜隊本部に向かう。しかし、時すでに遅し、夫妻は悪魔特捜隊に拷問を受け惨殺されていた。さらには美樹のもとに戻った明は、無惨にも暴徒化した町の住人たちに弄ばれる美樹の遺体と直面。最愛の人を失い、生きる希望を奪われた明は、ついに人間に絶望する。

サタン率いるデーモンとデビルマン軍団の戦い
激突！最終戦争



◀美樹を殺され、怒りに燃える明。サタンへの戦いがはじまる



◀本心では明と戦いたくないと願うサタン

▲ゼノンによる人類襲撃はすべてサタンの命令だった

生き残るのはデーモンかデビルマンか!?

いよいよ物語のクライマックス。最終章はデーモン対デビルマン軍団の最終決戦である。この戦いはデーモンとデビルマンの存亡を賭けた戦いでもあり、明とサタンの愛情と憎悪の衝突でもある。互いの想いと悲しみが最終戦争という形で結末を迎えるのだ。最愛の美樹を失ったことで、明は守る者も生きる意味も失った。最悪の絶望の中で明に残ったのは、平和な日常を奪い、世界をこんな状況に陥れたサタンへの復讐の心だけである。

しかし、憎きサタンは無二の親友・了。了を信じ、その友情に殉じるがごとく自らデビルマンになったというのに、あろうことか了はデーモン一族を支配する悪魔神だった。明からすれば、これ以上ない裏切りである。愛する者も信じる者もすべてを失い、破滅寸前の世界、阿修羅地獄にただひとり残された明の絶望は図り知れない。

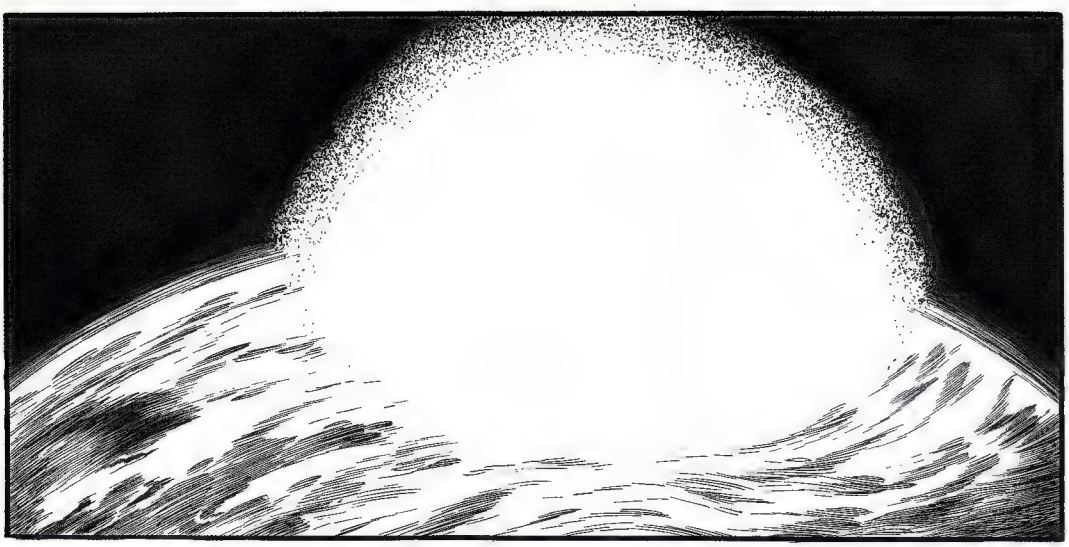
だが一方、了ことサタンも苦悩していた。明を愛するがゆえ、人類が滅びようともデビルマンとして生き延びさせようとしたことが、裏目に出たのである。明はそのデビルマンの力を使い、自分に戦いを挑んできた。愛する者に憎まれ、争わなければならない苦しさは人間であろうとサタンであろうと同じである。戦いを避けようとも明のデーモン、そしてサタンに対する憎悪は強く、回避することはできない。戦えば、どちらかが命を落とすまで続く総力戦。なんと虚しく悲しい戦争であろうか。

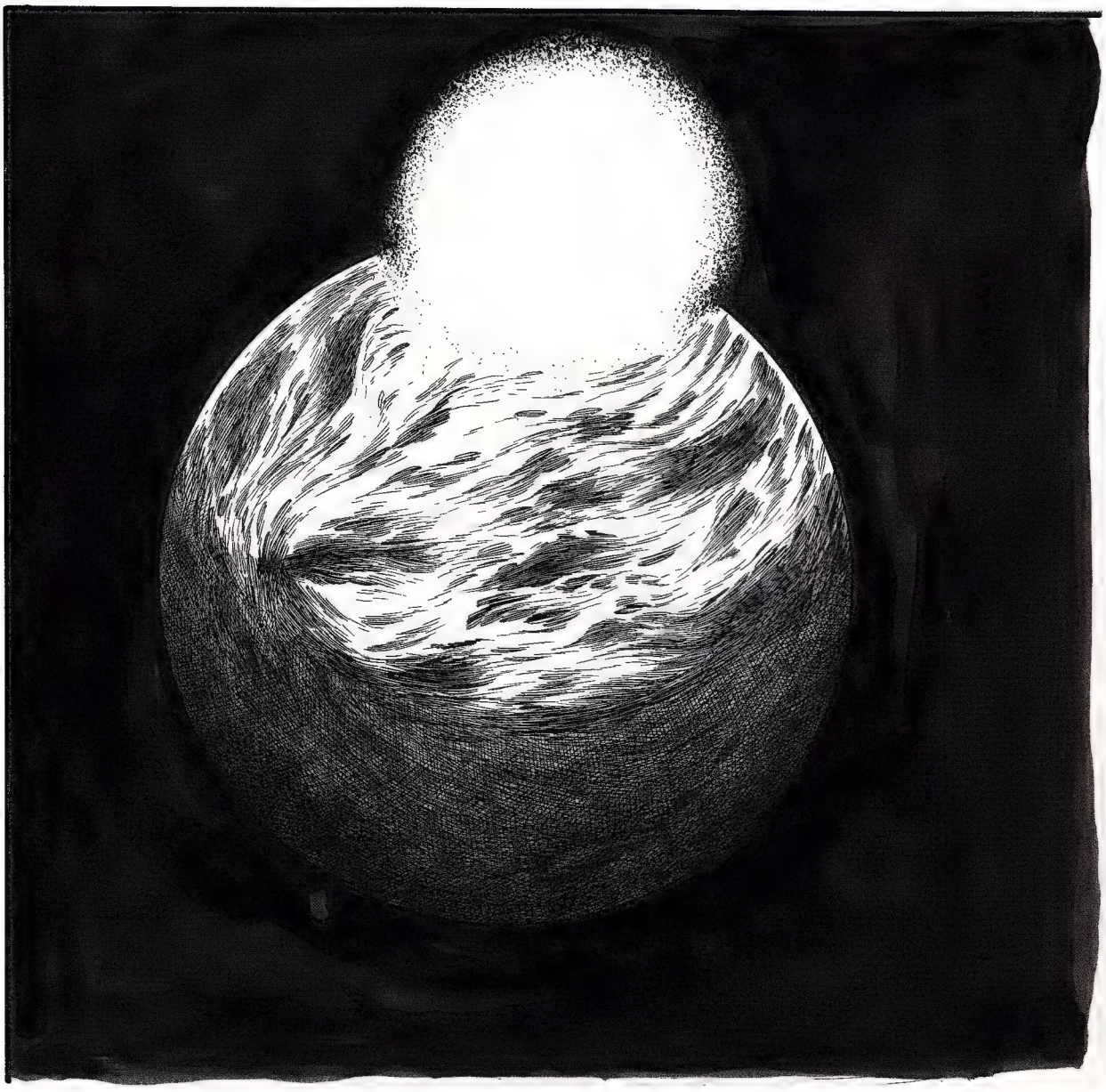
愛情、憎悪、深い悲しみに互いの存在を賭け、デーモンとデビルマンの生き残りを賭けた最終戦争＝アーマゲドンがいまここに始まる！

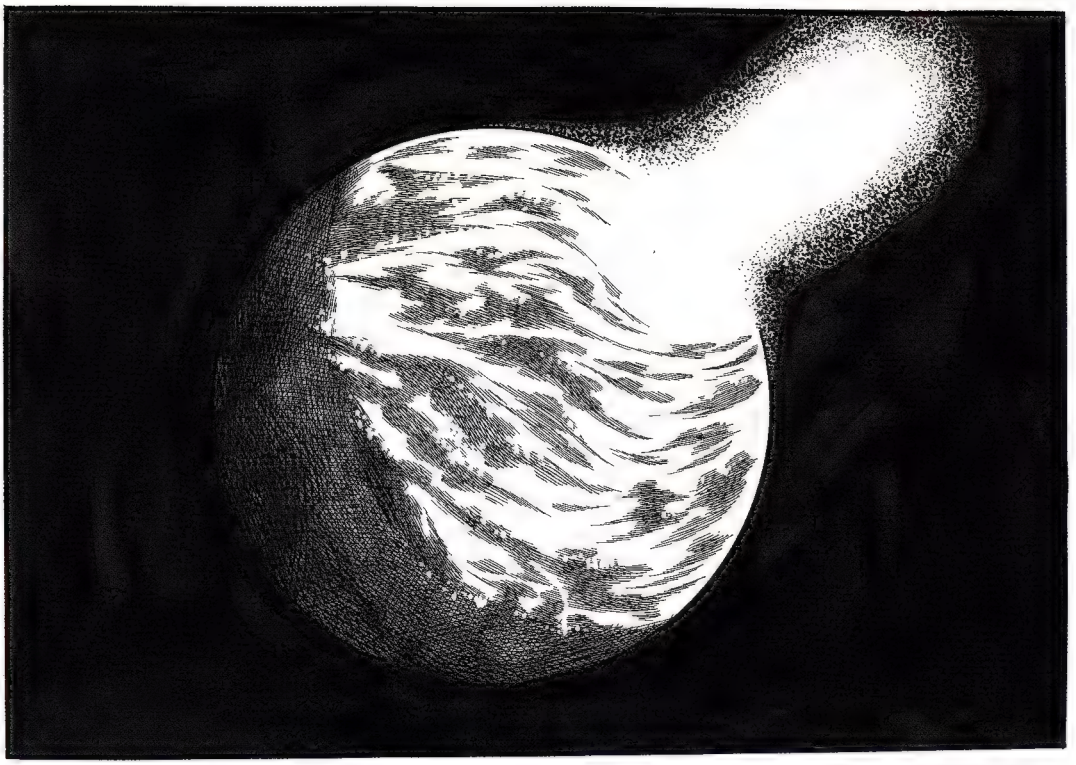
原画で読む!! 最終回

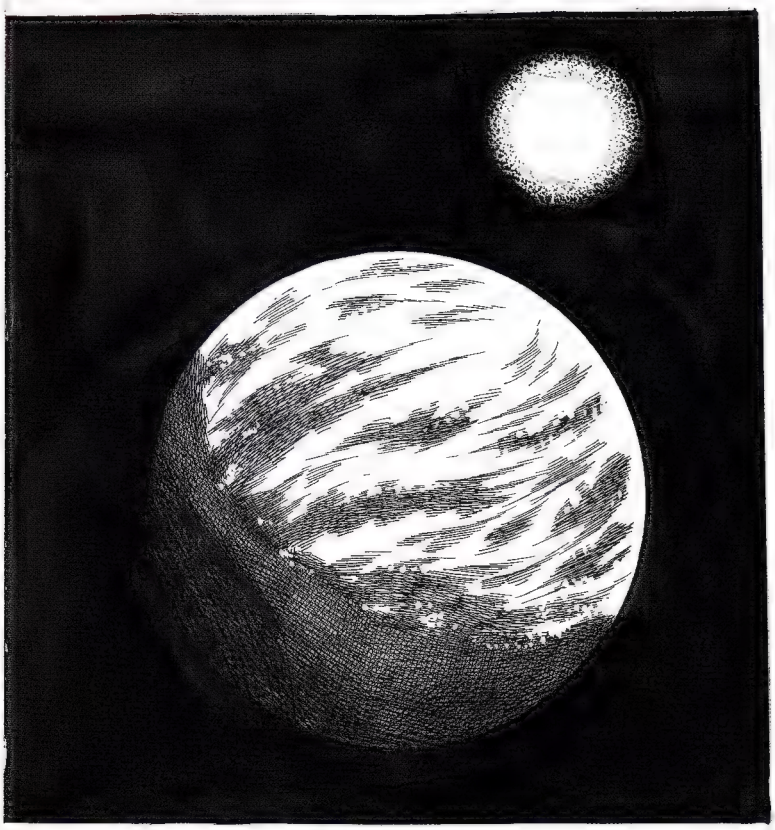
「最終戦争」

アーマゲドン





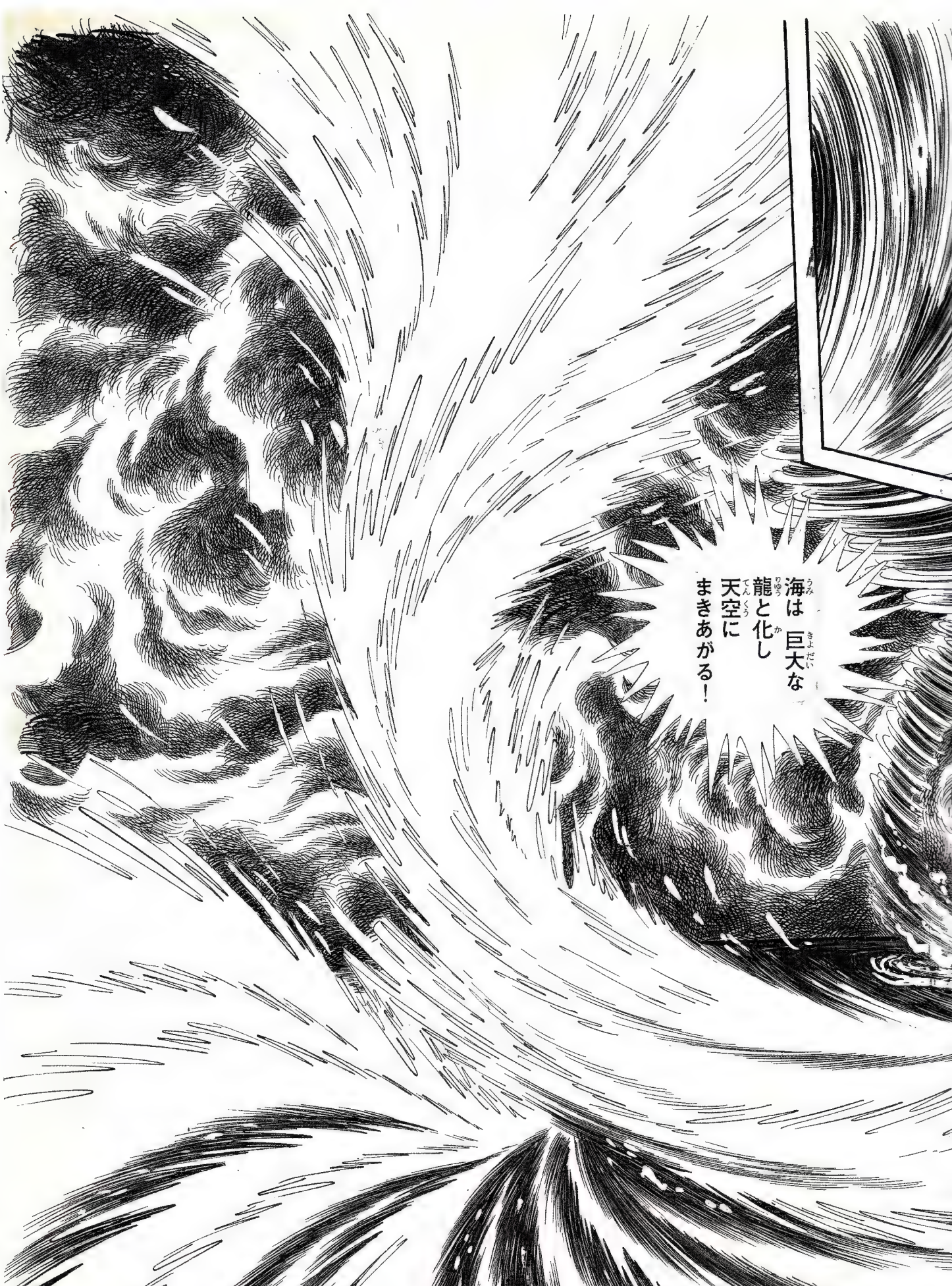




最終戦争

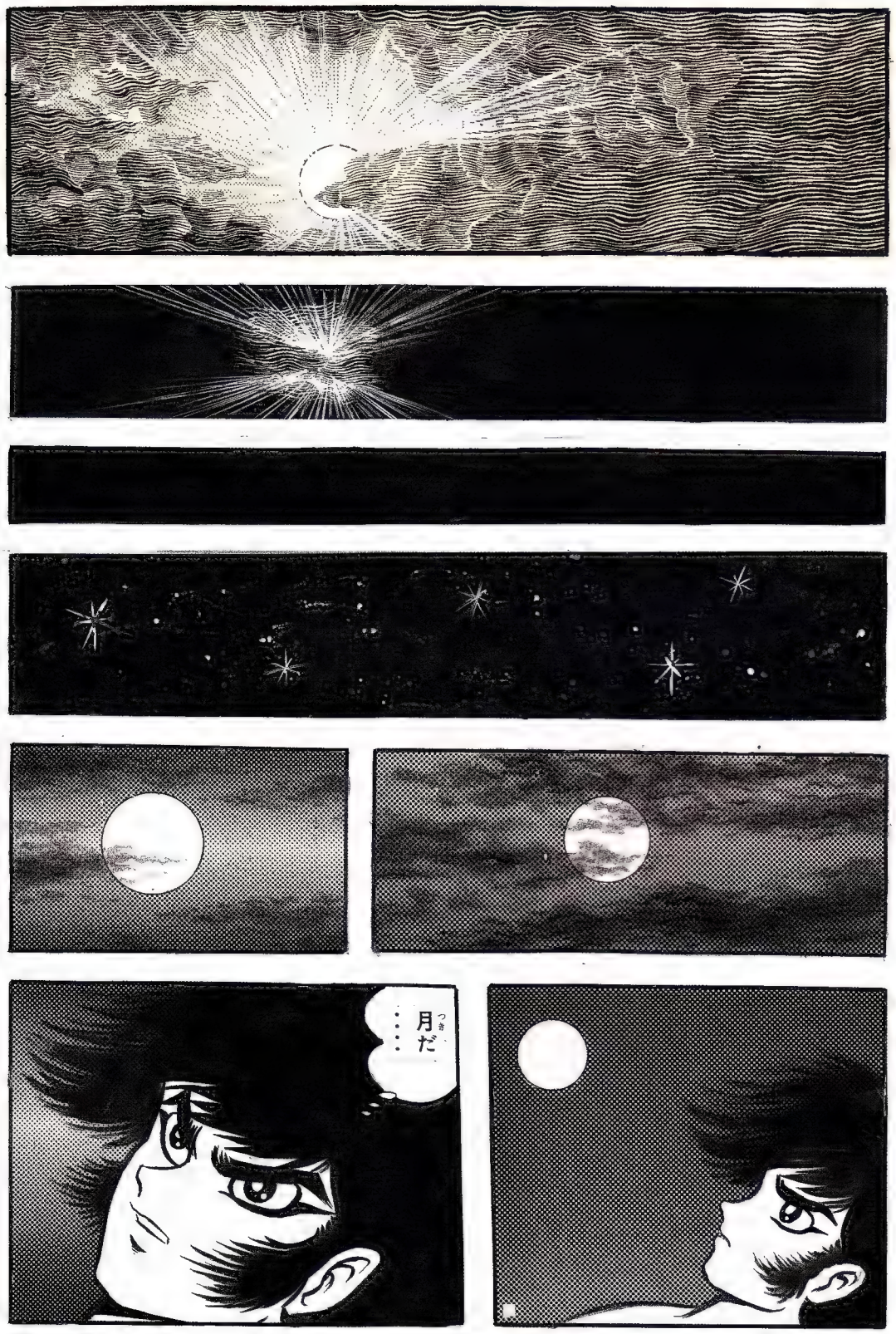
アーマゲドン

風がおこった！
大地がうなり
山は悲鳴をあげて
くずれた！

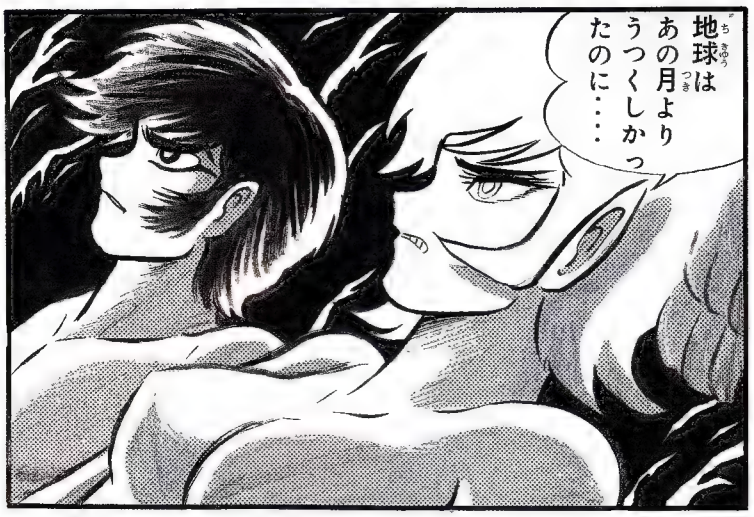

海は 巨大な
龍と化し
天空に
まきあがる!

デビルマン軍団対デーモンの巨大な超能力の戦いは苛烈をきわめていた！

最終戦争


月だ……

うつくしい
明……月だけは数百万年前とかわっていないよ……


地球はあの月よりうつくしかったのに……

この小宇宙は……

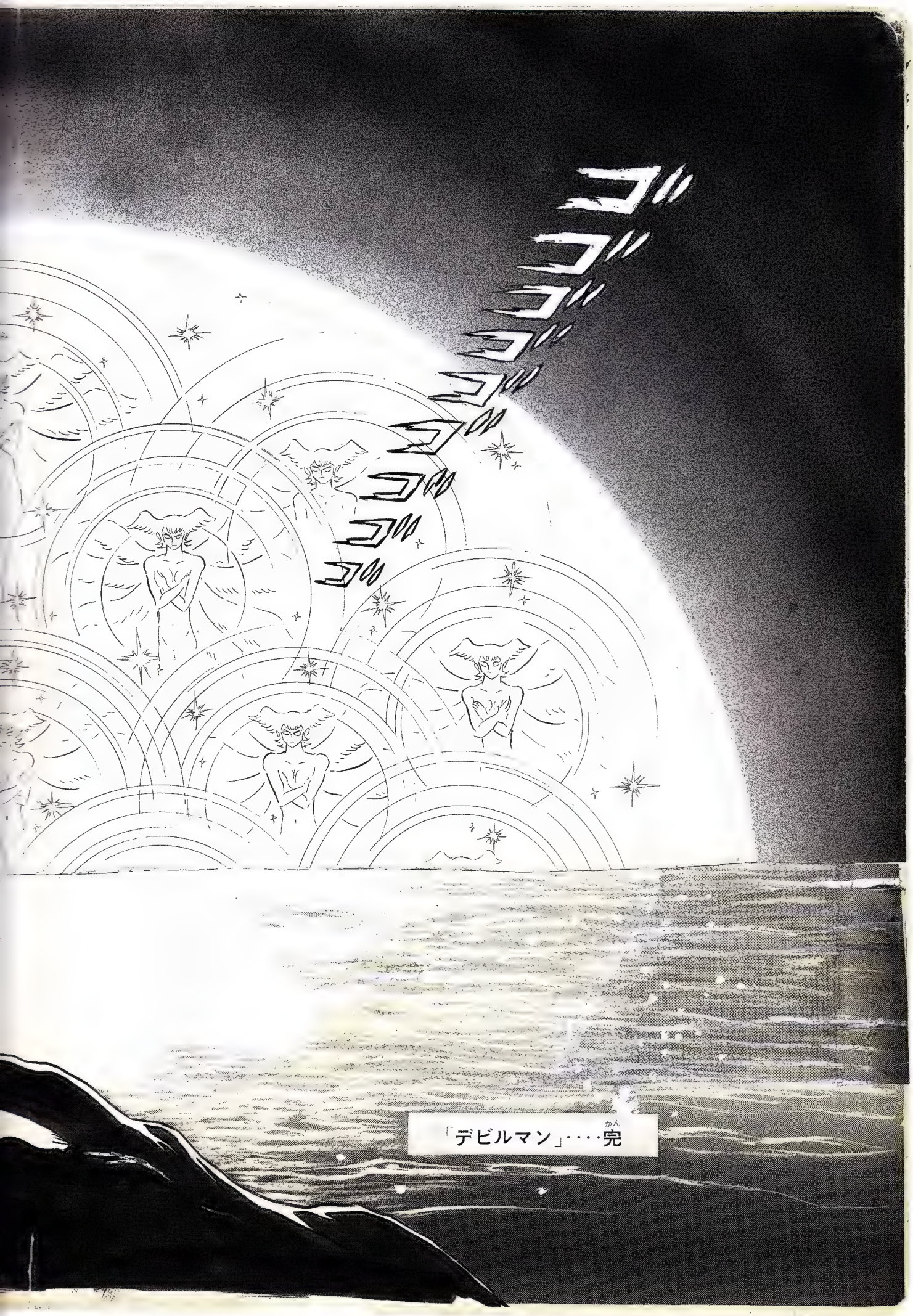
わたしの親たちがつくったんだよ……
きみたち人間は神と呼んでいたね
そして彼らはこの辺境の小宇宙に生命をふきこんだ
地球は生命がみちあふれ
いろんな生物がそだっていた

数億年ののち生物の進化のようすを見にもどった神は異様な生物を発見した・・・・
それがデーモンだった
神はおそれいみきらった
デーモンのみにくさを
その異常な進化を
そのあくことのない闘争心を
神はこの小宇宙を無にかえすことにきめた！
すべてを消すことによって自分たちの失敗をつぐなおうとした！
わたしはいかり反抗した自分たちが生みだした生命だからかってに殺していいというのか
地球上の生命は生まれたくて生まれたんじゃない・・・・だが生きている!!
自分の意志で自分の心で必死に生きている！

わたしは
デーモンと
ともに
神と戦った
きみが
人間を
まもるために
戦ったように
デーモンと
デーモンの星
地球をまもる
ために
・・・
そして・・・
勝った
つぎなる
神の攻撃に
そなえ
われらは
二百万年の
ねむりにはいった
サタンは
神によって
氷に
とじこめられ
たのではなく
戦いのために
みずから
氷の中へ
とじこもったのだ
ねむりから
さめたとき
地球は
かわって
いた・・・
うつくしい
はずの地球は
よごれきって
いた・・・
人間という
新生物の
ために・・・

わたしは
ゆるせなかった
わたしが
命をかけて
まもった地球を
よごした人間を！
わたしは
人間を
ほろぼす
ことにした
・・・・
だが それは
神が デーモンを
ほろぼそうと
したことと
おなじ行為
だった・・・・
力の強い者が
強いからといって
弱者の生命を
権利をうばって
よいはずは
ないのにな
・・・・
ゆるして
くれ 明
・・・・
わたしは
おろか
だった
明・・・・

ねむったんだね……明(あきら)
永劫(えいごう)のやすらぎのねむりに……
ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ


コ
コ
コ
コ
コ
コ
コ
コ
コ
コ
「デビルマン」・・・・完

正しい結末の解釈はこれだ！
ラストシーンの真実
最終戦争の本当の勝者!!

意外と勘違いされているラストシーン

上半身だけの無惨な姿で横たわり、永劫の眠りについた不動明と、その横で悲しみにくれ静かに寄り添うサタン。その背景には光り輝く天使たちの姿がある。名作に相応しい素晴らしい場面だが、永井豪先生のインタビュー（P78より）にもあったように、抽象的な表現のためか、残念な事にその意味が正しく理解されていないようだ。

それはその光景が、あまりにも静かで穏やかであり、多くの天使がふたりを祝福しているように見えるからだろう。しかし、この解釈は間違いであり、このシーンを正しく理解しなければ、永井豪が描きたかった「デビルマン」のテーマを理解できず、誤解したままになってしまう。

この場面が暗示する世界の終わりとは？「デビルマン」に隠されたメッセージとは？ ここでは、それらを知り、ラストシーンを正しく理解してもらうために、きちんと解説しておきたい！

200万年前の戦争でサタンは神に勝利した！

深く作品を読んでいないためか、アニメ版の「デビルマン」の設定のためかはわからないが「そもそもデーモンがなぜ氷漬けだったのか？」というところから勘違いしている読者も多いように思う。改めて説明するが、デーモンたちは閉じ込められていたわけでも、氷河期によって凍ったわけでもない！

それは200万年前に〝神〟が自分たちが創造した生物が醜いデーモンとなったことを知り、すべてを〝無〟に帰そうとしたことから始まる。神により一方的に滅ぼされようとしたデーモンを救うため、サタンとデーモン一族は力を合わせて神と戦った。そして勝利したのである！

しかし勝利したと言えど、神がいつまた攻撃を仕掛けるかわからない。そこでやがて来る神の襲撃に備え、サタンとデーモン一族は氷の中に閉じこもり、自ら凍眠したのだ。これが氷漬けとなったデーモンの真相である。

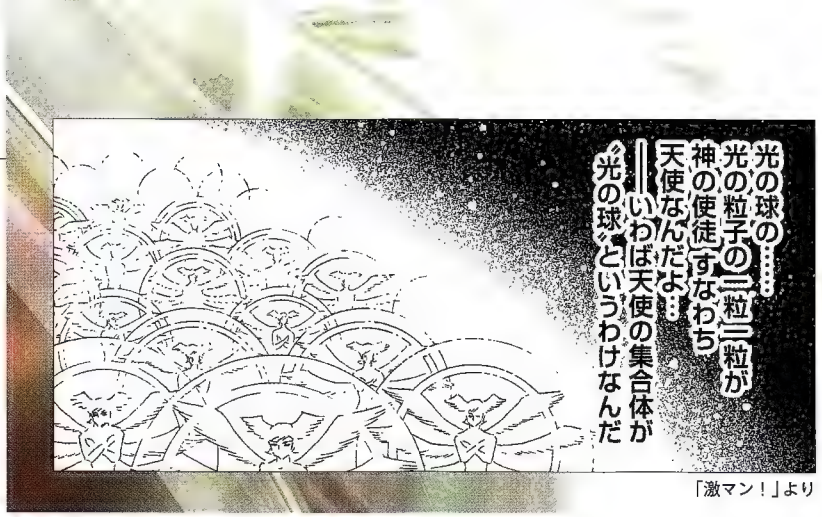
ソビエトを消滅させた光こそが神の仕業だった！

前ページまでの最終回を読んでいただければ、そのあたりのことはわかるはずだが、デーモンたちが人間に攻撃をしかけたのは、眠っている間に自分たちのテリトリーを荒らされたからに過ぎない。神との戦いに勝利したデーモン一族である。人間を滅ぼすなど造作もなかった。ただし、想定外のデビルマンが誕生しなければだが…。

ところで、作中で本来の敵である〝神〟については、どれが神なのか、はっきりと描かれていない。神はイメージとして表現され、光として描かれた。そう、飛鳥了がテレビのニュースを見て絶叫したソビエト全土を包んだ光の球である。それこそが神の姿であり、仕業である。

光に包まれ消えるデーモン

「ネオデビルマン」で描かれた場面



「激マン！」より

ちなみに永井豪の自伝的作品「激マン！」のなかで、主人公・ナガイ激が光の球について、次のように言及している。

「光の球の……
光の粒子一粒一粒が神の使徒
すなわち天使なんだよ…
——いわば天使の集合体が〝光の球〟なんだ」

どれだけの読者が、この作者の思惑に気づいたかはわからない。しかし、これを理解してこそ、ラストシーンで言わんとすることがはじめて理解できる。

そして光の球は、最終回の冒頭で地球から離れ、宇宙に浮いているところが描かれている。デーモン軍団対デビルマン軍団による最終戦争を傍観するかのように…。

神はサタンとそっくりの姿をしていた！

話はラストシーンに戻る。神の軍団は光の球であり天使の集合体。つまり、例の明とサタンの背景に描かれていた光り輝く天使の姿こそ、神の軍団だったのだ。天使たちはデビルマン軍団に勝利したサタンたちデーモンを無にしようと、すぐそこまで迫ってきていたのである。ちなみに神と悪魔はもともと同じで、その姿はよく似ているという説もある。描かれた天使がサタンに似ているのはそのためなのだろう。

デビルマン軍団と戦い、疲弊したデーモンたちに神と戦う力など残されていない。神の軍団はそこを狙って、再び地上に現れたのだ。そう考えると、神に抵抗することもなく、明に寄り添っているサタンの姿は、すでに運命を受け入れ滅びるのを待っているようではないか。

ラストは神によってすべてが〝無〟になる！

描かれこそしなかったが、最後は、神が当初の目的通り、デーモンやすべての生物を〝無〟に帰し、世界は消滅…したに違いない。つまり、人間と戦い、デビルマンと戦い、最後に勝利したかに見えたサタンとデーモン軍団だったが、本当の勝者は神だったのだ！

しかし、本当に神は勝ったのか？　そこには何も残っておらず、あるのは広がる〝無〟のみである。なんと虚しい結末。これが勝者が得たものだとすればあまりにも虚しい。

だが、それこそが永井豪の伝えたかったメッセージなのである。実は「デビルマン」は悪魔の力＝兵器を手に入れた人間の物語であり、世界戦争を暗示した物語なのだ。人間がもしも最終戦争に突入したとしたら、「デビルマン」の結末同様、すべては死滅し〝無〟になってしまうことだろう。戦争ほど虚しいものはない。

永井豪は悪魔は人間の負の部分であり、人間の中に内在するものだという。彼は人間の〝悪魔性〟をテーマとし、「デビルマン」という物語によって人間が悪魔となり、戦争を二度と起こすことのないよう警鐘を鳴らしたのである。

「激マン！」より

「デビルマン」はただ悲劇的な結末というだけではない。正しく解釈し、「デビルマン」を読み直せば、また違った印象を持って真実のラストシーンが見えてくるに違いない。

1999年8月 「デビルマン THE NOVEL」4巻カバー

DEVILMAN

COLOR ILLUSTRATION GALLERY

1986年5月「鬼と悪魔のファンタジー」

1972年「週刊少年マガジン」52号

1979年5月「新デビルマン」〈第1話 ウィーンの暁い春・扉〉

1973年「週刊少年マガジン」12号

DEVILMAN

COLOR ILLUSTRATION GALLERY

1987年10月　愛蔵版「デビルマン」3巻カバー

1999年6月「デビルマン THE NOVEL」2巻カバー

(上) 1990年2月 OVA「デビルマン 妖鳥シレーヌ編」販促用描き下ろし
(左) 1972年10月「週刊少年マガジン」45号 ワンシーンに着色

1986年5月「鬼と悪魔のファンタジー」

DEVIL MAN

COLOR

ILLUSTRATION

GALLERY

Devilman vs Sirene

DEVILMAN COLOR ILLUSTRATION GALLERY

1973年6月「週刊少年マガジン」27号扉絵に着色

1987年9月　愛蔵版「デビルマン」1巻カバー

1973年9月「デビルマン」5巻 加筆見開きシーンに着色

1987年11月　愛蔵版「デビルマン」4巻カバー

1972年9月「週刊少年マガジン」32号扉絵

「デビルマン」は漫画家としての運命を分けた作品です。

永井豪 直撃インタビュー

【永井 豪 プロフィール】
1945年9月6日石川県輪島市生まれ。石ノ森章太郎氏のアシスタントを経て、1967年『目明しポリ吉』でデビュー。翌年『ハレンチ学園』が連載開始となり、社会現象になると同時に大ブームとなった。代表作『デビルマン』『マジンガーZ』『バイオレンスジャック』『キューティーハニー』等多数。以後、幅広いジャンルの作品を発表し続けている。
現在、『週刊漫画ゴラク』誌上にて『激マン！Z&グレート編』、『ビッグコミック』誌上にて『デビルマンサーガ』を連載中。

インタビュー／湯浅裕行　写真／磯﨑威志

※このインタビューは2015年10月に発売された『デビルマン大解剖』で掲載された当時のものです。

永井豪の過激さの秘密は貸本マンガの影響だった！

―「デビルマン」は「魔王ダンテ」をきっかけにアニメの企画として先行していた作品だということは有名な話ですが、作品を生み出すうえで永井先生に影響を与えたマンガや映画などがあったんでしょうか？

豪「影響を受けたという意味では、小さい頃から手塚先生のマンガが好きだったんですけど、中学1年生のとき、同級生に貸本マンガの白土三平を教えられましてね。当時ですと「忍者武芸帳」ですが、読んでそれまでのマンガに対する考え方が180度ひっくりかえるほど衝撃を受けました。それまでは明るく正義を貫く少年といった王道のマンガを信じていたんですが、歴史のリアリティといったものを突きつけられて驚きましてね。すごく影響を受けました」

―なるほど、永井先生の作品のエッチなシーンや過激な描写の原点は、貸本マンガや白土三平だったんですね。

豪「私のマンガに裸が出てるとか言いますけど、白土三平のマンガにも女の人の裸がバーンと出てきますし、幼い少女が兵隊に襲われて殺されたりとすごかったんですね。そういうのを見て育ったもんですから、その影響があったと思います。「ハレンチ学園」なんて、それと比べたらおとなしく描いてたほうですよね（笑）。

あと貸本マンガでは平田弘史さんって方がいて、血だるま剣法というのにはのけぞりましたね。ここまでやっていいのか！　って。それを見て自分の中でマンガというものの幅が広がりました」

―影響を受けた映画というのはどうですか？

豪「映画は洋画が好きで7割くらいは洋画を観てましたし、ファンタジー系や神話系が好きで、特にSF系のものがあると見逃すまいと思ってましたね。でも、「デビルマン」に影響を与えた映画というとどうかな。ホラーなんかはもっと大人になってから観てましたけど、何の影響を受けてというのは特にないですね」

―任侠映画とかはどうですか？　当時、東映や日活の映画で多かったと思いますが。

豪「特には観ていなかったですね。でも、「座頭市」は好きでした。ああいったダークヒーローと言いますか、ある種ホラー的なヒーローですよね。怖いイメージもありますし、彼が正義側ですからいいですけど、敵にまわったらメチャクチャ怖い。たとえば、ヤクザの立場からしたらメチャクチャ怖いじゃないですか、そういう意味でデビルマンに近しいところがあるかもしれない」

―悪魔狩りのシーンがありましたが、悪魔や聖書にはやはり詳しかったんですか？

豪「どうしてああいうシーンが出てきたのか自分でもわからないんだけど、特に魔女狩りを調べてたわけでもないし、後追い的に調べたくらいで。それこそ後で聖書とつながっていくけど、聖書なんて読んだこともなかった（笑）。黙示録というのも、だいぶ後で知ったんです」

―そうなんですね！　悪魔や聖書に詳しいから、描かれていたんだと思っていました。

豪「聖書で唯一知っていたのは、映画で「天地創造」というのがあって観てたくらいです。ちょうど石ノ森先生のアシスタントをしてたころで、先生と一緒に観に行ったんですよ。なんて理不尽な神様なんだろう、なんでこんな残酷なことするんだろうって思いながら観てました。そういう絶対権力的な神に対する反感っていうのは「魔王ダンテ」に表れてた気がします」

―デビルマンもそうですが、やはり影があるような反権力、反体制側のヒーローがお好きなんでしょうか？

豪「そうですね。ぼくは勉強が嫌いで、学校でも先生が嫌いでおとなしく従わなきゃいけないというのに抵抗があって、でも反抗することはできないって感じで。それでおとなしくしながら、別のことばかり想像していたり。そうした自分の中の気持ちが反体制、反権力といったヒーロー像に反映されているんだと思います」

「デビルマン」の連載が始まった『週刊少年マガジン』6月11日号の表紙。

ダンテは侵略者である神と戦う。「魔王ダンテ」より

「デビルマン」はほとんど先を決めずに描き始めた！

美しい女デーモン
シレーヌ

―ところで、先生はあまり先を決めずにマンガを描かれているとお聞きしてますが、「デビルマン」はどこまで決めてから描かれたんでしょうか？

豪「最初はある程度アニメに合わせる気だったんですよ。でも『少年マガジン』で連載するからにはちゃんと大人が読める人間ドラマを描いてもらわないと、と編集長に言われて、これは美樹ちゃんに惚れただけで主人公が悪魔と戦うんでは通用しないなと（笑）。

それで飛鳥了を出して、デビルマンになって敵と戦う理由づけをしたわけですけど、それ以外は不動明がデビルマンになることと、美樹が出てくることしか決めてない」

―本当に何も決めてなかったんですね。

豪「了は案内役としてすぐ死ぬはずだったし、まさかその正体がサタンだったなんて、自分でも思ってもみませんでしたからね（笑）。

話がもたなくなって飛鳥了に能力を持たせて、自分でもおかしいなと思いながら描いてて、いった い飛鳥了ってなんだろう？　って。そうやって飛鳥の謎を追っていくと、いつの間にかストーリーが飛鳥を中心に動いていて、実は案内役の時から主導権を握っているのは飛鳥なんだと気づいたわけです。不動明は手のひらの上で踊らされていて、本当の主人公は飛鳥だったんじゃないかと。

となると、主人公に相応しいキャラクターで、デーモンの中心にいる存在は何か。そう考えていった結果、サタンに辿り着いたんです」

―では、不動明は主人公じゃなかった？

豪「ずっと飛鳥に踊らされて、不動明が初めて自分の意志で動いたのは、サタンを倒そうと決めた時ですからね。そこで初めて主人公になった。つまり、単行本の5巻まで、実は主人公じゃなかったんですよ（笑）」

―まさかの展開ですが（笑）。アニメの設定が生かされたキャラクターといえば、シレーヌもそうですね。

豪「ええ。あれは脚本家の辻真先さんが女のデーモンが出てくるシナリオを書いたので、新たにデザインしたんです。キレイなデーモンにしたかったので羽を付けようと思って、背中に付いているのは当たり前だから、頭に付けてみたらカッコ良かった。そのキャラが自分ですごく気に入ってしまったので、マンガで絶対に出そうと思って、もっと色っぽくして出したんです。

シレーヌは物語が進むうちにどんどん成長したキャラクターで、自分の中の女性性が乗り移って成長したような気がします」

―カイムが登場して、ちょっと恋愛ものの要素も加わりましたよね。

豪「マンガでは描かれていませんが、シレーヌはアモンのことを好きだけど、倒さなければならないという切ないところがあって、その気持ちを救うためにカイムを登場させたんです。あれはロシア映画の「戦争と平和」の影響があって、好きなヒロインの女性がいるのに見守るだけの無骨な軍人をイメージしました」

了は早々に死ぬはずだった

―だから、シレーヌには悪魔というより戦士というイメージがあるんですね。

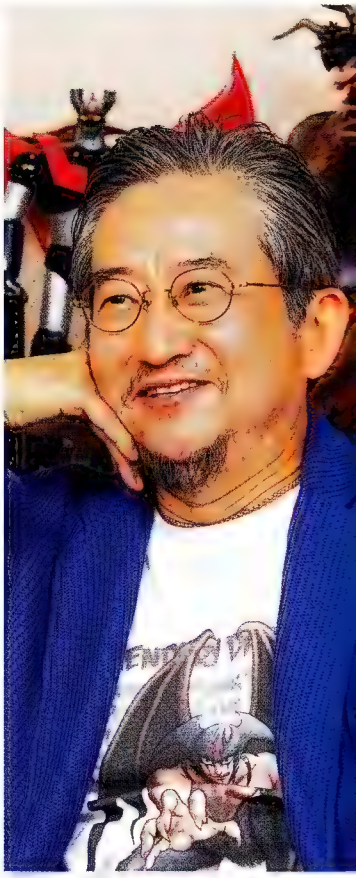
豪「そうですね。デビルマンにも言えますが、武士道とか騎士道みたいなものあるんですよね。シレーヌは結果的に憎めないキャラクターになってしまいました。かえってデビルマンのほうが残酷だったりして（笑）。それで次のジンメンでは、悪魔的な怖さを徹底的に追及してみたんです」

―ジンメンとススムちゃんの話は、子ども心に相当怖かったです。それから巨大なゼノンが全世界に宣戦布告するのも怖かった。

豪「ゼノンは「魔王ダンテ」で出てきた悪魔ですが、名前が気に入ってたので使ったんです。デーモンは少数という設定だったので、人類に恐怖で優位に立たせるため、圧倒的に強い巨大な姿の魔王を出そうと考えました」

―そしてデーモン対人類の戦争が始まって、そこでアニメとマンガが決定的に違うものになったんですよね。

豪「その時点では飛鳥がサタンというのも見えてなくて、その都度どう決着つけようかと七転八倒しながら考えてました。それが苦しみであり、楽しみでもあるんですけどね（笑）」



シミュレーションをした結果、必然的に戦争になった！

―最終的に戦争になるというのも考えていなかったんですか？

豪「そうです。流れからそうなるのは当然だったんでしょうね。ぼくの物語の作り方は、自分がそのキャラクターに成りきって、いろんなシミュレーションをしていくって方法なんですが、もし自分がそのキャラクターの立場だったらどういう行動を取るのか、すべてのキャラクターに対して考えるんです。

先をきっちり決めないのも、その都度考えて、そういった人間がどう転がっていくのか、その運命を楽しみたいんですよね」

―ということは、キャラクターは先生の投影であり、先生自身でもあるわけですね。

豪「ええ。物語を作るうえで、どうしても自分基準になってしまうんですよね。こんなことで怒るとか、こんなことで泣くとか、それを拡大してキャラクターに投影するわけです。よく物凄いスケベだとか、物凄い残酷だと思われてますけど、そういう部分を物凄く拡大して描いているだけで、本当はそんなことないですから（笑）。

ちょっとでもそう思ったことを拡大して、エンターテインメントにしなければならない。因果な商売なんですよ。漫画家って（笑）」

―そうやってシミュレーションするから「デビルマン」の作画の時は疲れが酷かったんですね。

豪「そうなんですよ。「デビルマン」の場合は、シミュレーションしてどんどんインナースペースの中に入っていったんで、ボロボロになっちゃったんです。せっかく人類を助けようと悪魔の力を手に入れたのに！　って怒りが沸々と湧いたりとか。でもそうやって考えていったことで、先を決めていなかった物語が進んでいくわけです。悪魔狩りの結果、美樹が殺されるハメになるのも、戦争時ならこうなるだろうと考えて、戦争に巻き込まれたくない、自分だけは助かりたいという人が山ほど出てきた時、どんな行動を取るだろうかと考えていった結果、見えてきちゃったわけです」

―デーモンと人類の戦争だったはずが、人間対人間の争いになっていたのも…。

豪「シミュレーションの結果、必然的にそうなったんです。そうした状況での人間を考えると、自分が悪魔として捕まりたくないから、あいつを先に悪魔に仕立ててやろうという連中がたくさん出てきたりとかね。そして集団心理が働くと相手が女だろうと子どもだろうが襲って殺してしまうだろうと」

―極限状態になると人間はそうなるんですね。

豪「最近のテロ組織もそうですよね。美樹ちゃんがバラバラにされるとか信じられないくらい残酷ですが、現実に人間がそういうことを実行してしまう。人間には負の部分として、そういうものがあるんですよ」

―そしてその結末として人間は滅んでしまい、デビルマン軍団とデーモン軍団との最終戦争に至った…と。ところでラストシーンは戦いが終わり、天使に包まれた静かな終焉を暗示していたようですが、あのあとサタンとデーモンの世界が栄えたんでしょうか？

豪「違います。あの天使たちは迫り来る神の軍団であって、あのあとサタンもデーモンも、地球もすべて神によって〝無〟になるんです。あの絵はそのことを暗示しているんですよ」

―えっ！　そうだったんですか!?

豪「最後にどうなったかは読者に委ねましたから、違った捉え方をされたかもしれませんね。でも、神とデーモンの戦いのきっかけを考えればわかったはずですよ」

―なるほど、衝撃の真実ですね！　そうお聞きすると「デビルマン」のテーマの壮大さがよくわかります。（★ラストシーンについては68頁でさらに詳しく解説！　誤解をしていた人は必読です！）

悪魔は人間の持っている負の部分の象徴

―よく考えると、「デビルマン」という作品は悪魔なりデビルマンを描いているようで、実は人間を描いているんですよね。

豪「はい。悪魔というのは、要するに人間の持っている負の部分の象徴であり、本質的に持っている悪の心のことなんです。人間は神と悪魔、善と悪の心の両方を併せ持っているわけで、悪魔の姿とはそうした負の部分を具体化して、邪悪な醜い姿として表現したものなんでしょうね」

―悪魔というものを突き詰めていくと、人間だったわけですね。

豪「別に突き詰めるつもりはなかったんですけど、シミュレーションしては作品として面白いほうを選んでいったところ、結果そうなりましたね」

―そしてその結果、「デビルマン」は壮大で人間の深いところを抉るような名作として完成したんですね。では最後に、先生にとって「デビルマン」とはどういった作品ですか？

豪「大変苦労した作品だったんですけど、これを成功させなければ、ストーリー漫画家として認められないというプレッシャーがありました。これを失敗するとまたギャグ漫画しか描かせてもらえないと…。ギャグ漫画ではあと何年かで漫画家生命が終わると思ってましたから必死です。

そういう意味では、現在も漫画家を続けることができるのは「デビルマン」が成功したからであって、「デビルマン」はぼくの漫画家としての運命を分けた作品と言えますね」

「激マン！」に見る連載当時のデビルマン制作現場

事件は現場で起きていた！

難関1 「デビルマン」連載のために人気作品を終了！

ファンのなかでは有名な話だが、そもそも「デビルマン」は「魔王ダンテ」のアニメ化話から発展したテレビアニメ企画である。しかし、当時はいきなりアニメを始めても人気が確保できないため、マンガ雑誌と連動して企画が進められていた。「仮面ライダー」然り、「タイガーマスク」然りである。そのため、アニメの企画を実現するため、永井先生はいずれかのマンガ雑誌で「デビルマン」の連載を始めようと、いくつかの出版社に話を持ちかけたそうである。そして、最終的に連載先として決まったのが『週刊少年マガジン』（講談社）だったのだ。

しかし、その頃『マガジン』では、すでにオモライくん」が連載中であり、人気も高かった。「デビルマン」を連載するためには、その作品を無理矢理終了し、その枠で連載をするしかなかったのである。アニメとは違うマンガ版「デビルマン」を描くことで当時の編集長と話がまとまり、「オモライくん」は連載終了。だが、人気のためすでに「オモライくん」のカラーページが決定しており、最終回はなんとカラーで掲載されるという事態となった。その異例ぶりから、いかに「デビルマン」の連載が強引に開始されたかが伺い知れる。しかし、それは永井先生の連載にかける熱意の証明であったとも言えよう。

難関2 「デビルマン」のためにさらに他の連載を終了！

デビルマンの連載前、先生は恐ろしいことにすべての少年マンガ雑誌で連載をかけ持ち、5本の連載を抱えていた。

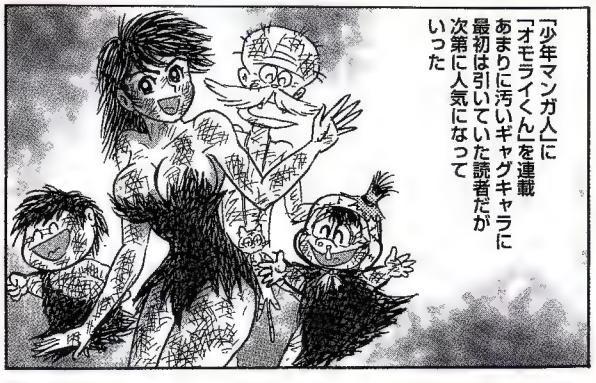
ちなみにその作品とは『週刊少年ジャンプ』のご存じ「ハレンチ学園」、そして先ほども紹介した『週刊少年マガジン』の「オモライくん」、『週刊少年チャンピオン』の「あばしり一家」、『週刊少年サンデー』の「あにまるケダマン」、『週刊少年キング』の「スポコンくん」である。「オモライくん」を終了したものの、「デビルマン」の連載によって、結局、5本の連載を並行して続けたというのだから、驚異的だ。

しかし、さすがにほかのギャグマンガとは違い「デビルマン」の連載をこなすのは難しく、後に「ハレンチ学園」「あにまるケダマン」「あばしり一家」と次々に連載を終了させることになる。

難関3 「デビルマン」の執筆で他の作品以上に体力を消耗！

「デビルマン」は単にストーリー漫画のために連載が大変だったわけではない。体力的な問題だけではなく、執筆した後の疲れはひどく、それは〝デーモン〟という悪魔的なものを扱ったための精神的ダメージだったのかもしれない。現に先生は後の作品である「手天童子」を連載し、鬼を描いていた時には悪夢を見たり、霊的な現象が起きたりと苦労したそうだ。

途中で「デビルマン」の連載終了の話があっても、最後まで描くために延長を懇願。作品を完結させるために、精神的、肉体的なダメージを乗り越え、描き続けたプロ根性には頭が下がる思いだ。



「デビルマン」誕生の裏側を描いた自伝的マンガ「激マン！」

2010年より『週刊漫画ゴラク』（日本文芸社）で連載された「激マン！」は、主に「デビルマン」制作時の様子を描いた永井豪の自伝的作品である。現在はZ&グレート編が連載されているが、永井豪の歴史、さらには日本の漫画史を知るためには貴重な作品といえよう。

ただし、作品中では永井豪は〝ナガイ激〟という名の漫画家であり、自伝というもののフィクションも混じっているので、全部が本当というわけでもない。しかし、昔から歴史なんていうものは、誰かの視点で歪曲されて伝わるものなのだ。このマンガで描かれたことが、真実と言っても誰も文句は言えないはずだ。ここでは、作品中で描かれた舞台裏、永井豪いや〝ナガイ激〟が突破してきた難関を紹介したいと思う。

「激マン！」
デビルマン編　全6巻
『漫画ゴラク』日本文芸社

©永井豪／
ダイナミックプロ／
日本文芸社

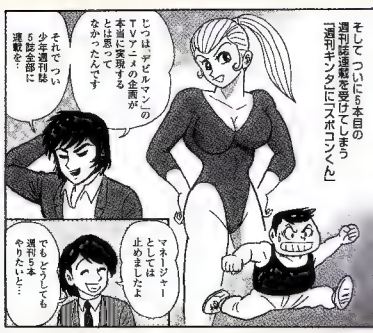
難関 4

過激表現を許されず、表現の制約との闘い！

マンガにハダカが登場するのは当たり前の永井作品。これまでもタブーに挑戦し、市民権を得てきた先生だったが、当時、編集部の大反対に遭い、実現しなかった場面があった。

ひとつは、デビルマンとシレーヌの戦闘シーンのなか、デビルマンがシレーヌを犯すというものだった。デーモン同士とはいえ、さすがに少年マンガ誌でレイプシーンはマズい。ちなみにこの場面は描かれなかったが、今回の「激マン」では、ちゃっかり再現シーンとして描かれている。『ゴラク』は青年誌だから問題ないというわけだ。

そしてもうひとつは、牧村のお母さんの逆さ吊りで殺されているシーン。実はさらにまっぷたつにされ、殺されているという酷い絵だった。これもさすがに子どもには刺激が強すぎると却下され、エッチとバイオレンス、両方のタブーが先生の前に立ちはだかったのだった。



難関 5

アニメ終了に伴う連載の終了を拒否！

もとはアニメの企画と連動していた作品であり、子どもたちにテレビを見てもらう誘導のために連載が始まったわけである。アニメが終了すれば、役目も終了。マンガの連載も終わらせようというのが編集部の意向だった。

しかし、すでにまったく別の「デビルマン」となり、独自の展開を見せているため、アニメが終わるからといって終わるわけにはいかない。

それに、アニメとは違う物語にするということで、これまで作り上げた人間ドラマを完結を見ないまま終わっては意味がない。編集を説得し、プロダクションとして編集長に直談判した結果、8話分延長、さらに後に2話分が追加で延長され、こうして現在に残る名作が完成したのである。

普通のマンガ連載よりも前途多難、難関をいくつも乗り越えたからこそ生まれた。それが「デビルマン」なのである！

デビルマン 名セリフ集

テーモンの襲来、人類滅亡の危機に際し、ただひとりデビルマンとなって戦う不動明の苦悩。そして親友を阿修羅地獄に落とすことになった飛鳥了など、恐怖と戦いの日々の中でそれぞれの想いが交錯する。またテーモンであろうと、時に戦いに美学を持つ者も現れる。ここに「デビルマン」に登場する、記憶に残るセリフを集めてみた。

不動明

「悪魔のからだを手に入れたぞ！」
「おれは！　おれは！
悪魔人間だ！」

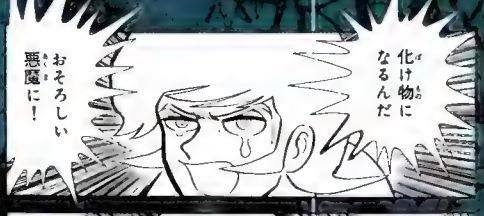
「暴力はいいウズウズするぜ」

「いいんだよ　了…
きみといっしょなら」

「いこうぜ！
地獄のとびらをあけてくれ！」

「鳴った！
戦いのゴングだ！」

「デーモンは
血をこのむ！」



「この意味がわかるか　明！
人間でなくなる
という意味が！」

「はじまるぜ！
史上最大のショーが！」

飛鳥了

デビルマン

美樹

デーモンたち

人間

「外道！きさまらこそ悪魔だ！」

悪魔が殺していない人間を平気で殺したデビルマンに命乞いする悪魔特捜隊本部の者たちに怒りの言葉。

「地獄へおちろ人間ども！」

「これが！これが！おれが身をすてて まもろうとした 人間の正体か！」

悪魔になってまで人類を救おうとした姿はへそで人間なぞ守る価値もない存在だと笑うデビルマンの悲しみ。

「美樹！きみがいるかぎり おれは悪魔にはならん！ きみがいるかぎり おれは悪魔人間だ！」

疑心暗鬼から悪魔のようになってしまった人間に絶望したデビルマンの唯一の生きる希望。

「おにいちゃんこいつを殺してー！ あたしは死んでる 気にしないでー！」サッちゃん

ジンメンに食われ、甲羅に浮かんだサッちゃんの叫びがデビルマンの胸に突き刺さる。

「うつくしき月よ そなたはこれからおこることを 見ないほうがよい」シレーヌ

壮麗な戦いを前に月を愛でる趣味とは恐ろしい…並外れたセリフを吐くシレーヌ。

「シレーヌ 血まみれでも きみはうつくしい」カイム

「悪魔の正体は人間だ！」雷沼博士

雷沼博士がとんでもない勘違いによって発表した恐ろしい発言。

「わたしは魔女よ！ なめるな！」

窮地に追い込まれ、肚を決めた美樹の言葉。デビルマンとなった明を肯定し、同じ側にいたいという気持ちの表れか？

「それはわたしが…両性生物だったから」サタン

不動明をデビルマンにした理由。不動明を愛してしまった理由が解き明かされた衝撃の告白。

ホラー&サスペンス!

残酷さを極める!

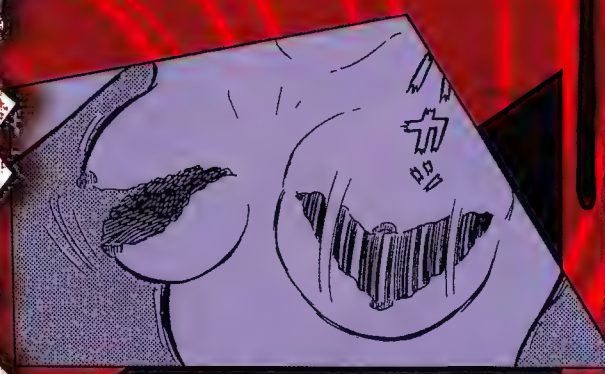
サバトで突然、流血騒ぎを起こす飛鳥

惨殺され吊るされている牧村のお母さん

少年誌とは思えぬサディスティックな演出は、ある意味甘美であり少年たちにアダルトな世界を垣間見せた。永井豪の豊かな創造力が生み出した恐怖の世界は、同時にエロチックでもある。恐怖と快楽は紙一重であり、それは少年には想像もつかない世界であった。

しかし、描かれたのは現実に絶対にあってはならない場面。想像の世界は自由だが、人間には常識やモラルがある。何かが壊れ、タガが外れたとき、人間は人間の姿をした悪魔となり罪を犯すのかもしれない。作者は人間の恐ろしい姿を描くことで、人間という生き物の恐ろしさを知らしめたのである。

ここでは、読者に強烈なショックを与えた最恐の残酷シーンを集めてみた。



サバトでの女性の醜い変身シーン

シレーヌの過激な流血シーン

美しさと醜さの競演！

ヒッチコックやタランティーノをも凌ぐ永井豪の巧妙な演出！

悪魔特捜隊がミーコを拷問するショッキングなシーン

恐怖で理性が飛ぶ不動明

精神の限界まで追い詰める！

悪魔狩りでどんどん追いつめられる美樹

1 連載予告のイラスト／2 連載開始時のマガジン表紙／3 第8回 扉絵イラスト／4 第9回 扉絵イラスト／5 第10回 変身直後「悪魔人間だ!」のシーン／6 第10回 最初の戦いのデビルマン／7 第10回 KC描き下ろし見開きのデビルマン／8 第18回 扉絵イラスト／9 第19回 変身途中のデビルマン／10 第19回 デビルウイングを広げる場面／11 第19回 驚くデビルマン／12 第19回 片腕になってしまう場面／13 第20回 扉絵イラスト／14 第20回 触覚を使うデビルマン／15 第21回 深手を負ったデビルマン／16 第28回 ジンメン戦変身後／17 第28回 怒りを爆発させる表情／18 第28回 怒りをこらえた表情／19 第28回 ジンメンの甲羅に衝撃を受けるシーン／20 第29回 ジンメンの甲羅を剥ぐ場面／21 第36回 変身開始、髪が伸びる／22 第36回 変身し、服が破れるシーン／23 第37回 サイコジェニー

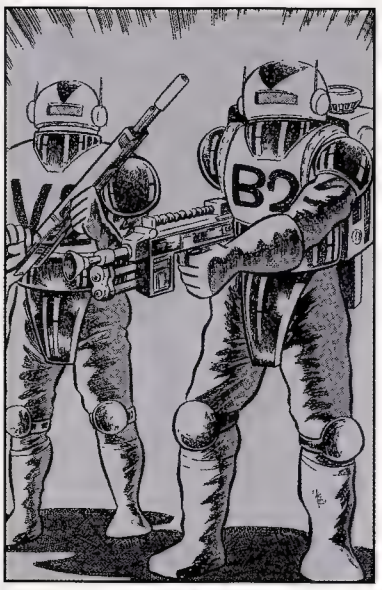
に攻撃される／ 24 第 43 回 ミーコを助けに行く場面／ 25 第 43 回 ミーコとの対面シーン／ 26・27 第 46 回 牧村家に疑われた時のイメージの姿／ 28 第 49 回 美樹の母の惨状を見たデビルマン／ 29・30 第 50 回 人間の作り出した地獄を見たデビルマン／ 31 第 50 回 了への想いを吐露するシーン／ 32 第 50 回 美樹の父へ駆け寄る場面／ 33 第 51 回 美樹の父母を死なせてしまいふさぎ込む／ 34 第 51 回 人間に絶望し「悪魔になったんだぞ!」と嘆く場面／ 35 第 51 回 人間に失望するデビルマン／ 36 第 51 回 美樹への想いを新たに立ち上がる場面／ 37 第 52 回 顔から炎を放出するカット／ 38 第 53 回 デビルマン軍団のトップに立つデビルマン／ 39 バイオレンスジャックのデビルマン／ 40 デビルマンレディーのデビルマン　※回数は連載時の登場回

悪魔特捜隊本部完成

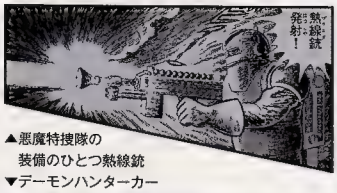
政府の打ち出す悪魔対策は人類を救うか！

政府は悪魔の攻撃に多大な被害を受けた理由として、その存在を把握していなかった事と、そのために防衛対策が立てられなかった事、また悪魔が数多くの人間の中に紛れ込んでいたために混乱を招いたためとした。このため、政府は悪魔特捜隊を結成。人間社会に巣食う悪魔を一掃し、次なる悪魔の総攻撃に備えると発表した。

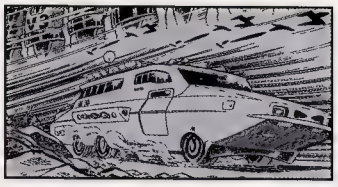
また悪魔特捜隊の装備として、脳波探知装置、X線透写装置、血液分析装置などを備えた特捜自動車・デーモンハンターカーを導入。隊は二班に分かれ、悪魔を探り出す捜査班と悪魔を殺す攻撃班とした。攻撃班は光線銃（レーザーガン）、細菌銃（バチルスガン）、熱線銃（プラスター）などの攻撃武器と、さらに悪魔のテレパシーによる脳波攻撃を防ぐため、脳波妨害ヘルメットを装着する。彼らはあらゆるショックに耐える耐熱耐火服を着込んだ科学兵士であり、これらはあらゆる悪魔の攻撃を防ぎ、悪魔を倒す事ができる超人兵器である。

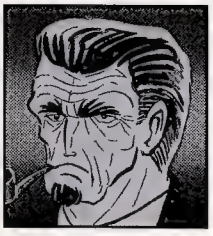


▲脳波妨害ヘルメットと耐熱耐火服を着た悪魔特捜隊の超人部隊の兵士



▲悪魔特捜隊の装備のひとつ熱線銃

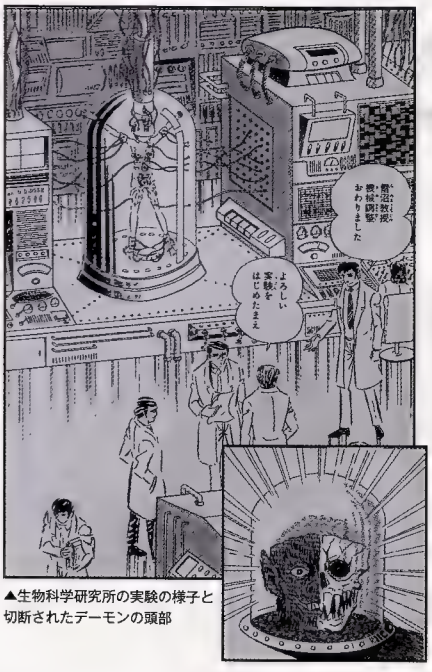

▼デーモンハンターカー


▶ノーベル生物学賞の雷沼博士
北海道生物科学研究所においてデーモンの研究を続ける第一人者

悪魔の正体は人間だった!?

北海道生物科学研究所ではノーベル生物学賞の雷沼教授による研究チームがデーモンに対して人体実験をすでに行っていた。たとえば、デーモンに対し高電圧による電気ショックを与え、呼吸、脈拍、体温、脳波などのデータを収集、また採取した体液の分析を行い、その正体の解明に挑んでいる。しかし、50体以上のデーモンを解剖するもそれぞれがまったく別の生物の形態を取り、細胞組織まで違う。さらに不思議な事に、体の細胞が頭は動物細胞、腕は植物細胞というように、部分ごとに違っている事がわかった。それは体内器官であっても同様である。

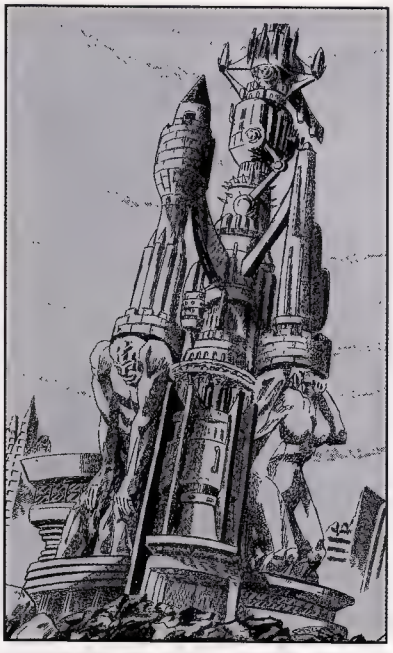
研究員のひとりは個人的な見解として、まるで地球上の生物の集合体のようだとし、これは人間に対する地球生命の反逆ではないかと推察した。つまり、人間が地球の王者としてあらゆる生命を危機に追いやったために、弱小生物同士が共同体となり人間を滅ぼそうとしているというのだ。



▲生物科学研究所の実験の様子と切断されたデーモンの頭部

一方、雷沼教授は人間が怪物化する怪物病と、悪魔の両方の体に共通点があるのではと推察。悪魔の正体は人間であり、人間の強い願望が自身の体細胞を変化させたのだとし、現代社会生活の不満が増大した結果、そのやり場のない不満を別生物になることで満たそうとしたのだと結論づけた。教授は悪魔を倒すには、悪魔になる可能性のある社会に不満を持った者が悪魔になる前に殺す事、悪魔の因子を抹殺する事が重要と「人間狩り」を推進した。

同時に政府は、悪魔の総攻撃で被害を免れた兵器工場をフル回転させ、兵器の城を完成させた。それこそが「悪魔特捜隊本部」であり、再び来る悪魔の総攻撃に対する最後の砦である。果たして人類は悪魔に勝利する事ができるのだろうか？


▲悪魔を殲滅すべく作り出された、人類最後の砦
悪魔特別捜査隊本部

悪魔特捜隊について新聞調で紹介。デーモン襲撃時、こんな新聞が発行されたかも!?

衝撃的な結末を迎えた「デビルマン」はその後、作者・永井豪自身の中でさらに発展、さまざまな作品に影響を及ぼし始める。そして新たに派生作品を次々と生み出し、その遺伝子は他の作家にも受け継がれ、スピンオフ作品、トリビュート作品として発表される。

また、現在活躍する漫画家やアーティストの中には、「デビルマン」に影響を受けた人々も多く、デビルマンの遺伝子はさらに増殖しているのだ。

SECTION 2

増殖するデビルマンの遺伝子

デビルマン研究
関連作品 1

魔王ダンテ

「デビルマン」の原型となった作品

「デビルマン」の着想、原型はすでに出来上がっていた！

――氷の世界に封印された悪魔に食われ、取り込まれる！　夜毎見た悪夢が現実となり、魔王ダンテと一体化した高校生・宇津木涼。前世の記憶を取り戻して覚醒した魔王ダンテ＝涼は、悪魔の軍勢を従え、〝神〟との因縁の戦いに挑む！――

『デビルマン』に先駆け、1971年に講談社「ぼくらマガジン」で連載された『魔王ダンテ』は、壮大な神と悪魔の対立を描いた永井豪サーガの原点ともいえる作品である。

この作品が生まれた背景には、当時ギャグマンガの注文が多かった永井豪が、「何を描いてもいい」との依頼を受け、ずっと描きたかったSFストーリーマンガを描く機会を得たという状況があった。本来、ストーリーマンガ家を志望していた作者にはまたとないチャレンジである。そして連載にあたって、スケールの大きい怪獣映画のような作品を怪獣の視点から描いてみたいと考え、その瞬間、作者の頭の中に、幼い頃読んだダンテの『神曲・地獄編』に描かれた氷に閉じ込められた悪魔の姿が浮かんだのだという。そのイメージにSF的な要素とオカルト、怪獣映画のようなビジュアルを加味して完成したのが『魔王ダンテ』だった。

掲載誌の休刊により未完のまま終了したが、『魔王ダンテ』は、今なお読者の根強い支持を得ている作品であり、まさに鬼才・永井豪の作風を確立する記念碑的作品でもあったのである。

また『魔王ダンテ』は『デビルマン』の原型と作者自身が認めているように、〝人の心を持つ悪魔〟というダーク・ヒーローを主人公に据えた点や、神話世界の常識を覆し、実は神こそが外宇宙からの侵略者であり、悪魔が原始地球の先住民だったという神と悪魔の地位を逆転させた世界観は『デビルマン』に受け継がれている。『魔王ダンテ』なくして、『デビルマン』は決して誕生しなかったのである。

「デビルマンレディー」「リメイク版」での魔王ダンテ

前述したように『魔王ダンテ』は未完成で終わったが、『デビルマン』という形でひとつの完成型を見た。しかし、それはあくまでも別作品である。

おそらく作者のなかで魔王ダンテをもう一度描きたいという欲求が強かったに違いない。そしてそれは『デビルマンレディー』の作品中で実現する。

設定は原作とは少し違い、ダンテの『神曲』を愛する青年として宇津木涼が登場する。そして、デビルビーストの組織「ダンテ教団」によって地獄門を通り抜け、『神曲』で登場するコキュートスに閉じ込められた魔王ルシフェル（ただし、ルシフェルには3つの首がない）に食われることで、魔王ダンテの姿へと変貌するのである。

『デビルマンレディー』の最終局面において、人類最大の敵として、街を破壊しまくる魔王ダンテ。これまで描けなかった作者の憂さを晴らすかのように暴れまくるのだ。そしてさらに魔王ダンテの正体が明らかになる。分離していた4人のビーストと合体することで3つの首が生え、大魔王ゼノンに変身したのである！

魔王ダンテと大魔王ゼノンがどこか似ているとは思っていたが、まさかの展開である。見事に魔王ダンテをデビルマン世界に取り込んだ作者の巧妙さに脱帽である。

しかし、『魔王ダンテ』はこれで終わったわけではない。『デビルマンレディー』終了の2年後、今度は講談社「マガジンZ」にてリメイク版『魔王ダンテ』が連載開始されたのだ。『神略編』『現魔編』『魔道編』『神魔大戦編』4編からなり、超古代において神と呼ばれる侵略者との戦いに敗れ、超兵器と一体化し悪魔の姿となったダンテが転生し再び神と戦う物語。原作とは設定が大幅に変更されているものの、『デビルマンレディー』の脇役ではなく、『魔王ダンテ』はついに31年の時を経て完成に至ったのである。

ダンテとなった宇津木涼は破壊を繰り返す

魔王ダンテが復活するために協力させられた上、餌食となる宇津木涼

『デビルマン』のゼノン

魔王ダンテ

『魔王ダンテ』のゼノン

「魔王ダンテ」と「デビルマン」の設定比較

魔王ダンテはデビルマンに登場する悪魔王ゼノンやアニメ版デビルマンに登場するゼノンのベースとなっている。ちなみに「魔王ダンテ」のゼノンから名前が使われた

デビルマン研究
関連作品

2 デビルマンレディー

「デビルマン」の続編的作品

地獄に堕ちたデビルマン 明かされる真実

進化が行き詰まった人類がビースト化する世界

――高校教師・不動ジュンは、ある日怪物に襲われ、人の心を持ったビースト・デビルマンレディーに変身。獣人化した怪物・デビルビーストとの戦いを通じて、人類発生の秘密、神と悪魔の戦いの歴史を知ることになる――

1997～2000年にかけて「週刊モーニング」で連載された『デビルマンレディー』は、『魔王ダンテ』、『デビルマン』に続き人類滅亡の危機をテーマにした作品である。タイトルどおり「もしデビルマンが女性だったら」というアイディアが作品の原点だが、ただ単にデビルマンを女性にしたのではなく、近未来的要素やSF的要素をふんだんに取り込んだものとなっている。

ビーストとして覚醒後の不動ジュンは、戦いへの欲求が高まって強力な戦闘能力を備える反面、性的妄想など本能に忠実な行動が多くなり、彼女の自己嫌悪の種となった。また『デビルマン』の不動明がデーモンとの合体によって悪魔人間化したのに対し、不動ジュンの場合は、体内に眠っていたデビルビースト因子が覚醒して変身した点が大きく違う。またデビルビーストについてもデーモンとは違い、人間が怪物となった姿である。

連載当初、『デビルマン』とのストーリー上の関連性は少なかったが、デビルマン＝不動明が中盤から登場したことで一気に悪魔的要素が強くなり、さらに『魔王ダンテ』の宇津木涼のエピソードも加わると、地獄から悪魔＝デーモンが登場し始める。

そして、クライマックスでジュンの正体が明かされ、アスカの秘密、不動明がなぜ登場したのかが解明されると、ようやくこの作品の持つ意味が明確になる。『デビルマンレディー』は単なる関連作品ではなく、デビルマンが死んだ後、サタンが神と戦うために地獄からデビルマンを復活させる物語だったのだ。

エピソードのモデルとなった ダンテの「神曲」での地獄

『デビルマンレディー』は、人間の心を持った不動ジュンがデビルビーストとなり、人類の未来をかけて戦うという当初の近未来的ストーリーから、次第に進化論や宗教論を含む一面を見せ始めた。そのなかで特に注目すべきなのは、デビルマンが堕ちた地獄の様子が詳細に描かれている点である。

デビルマンが地獄に堕ちているとは夢にも思わなかったが、『デビルマン』のラストで、たしかに大魔王サタンが率いるデーモン軍団に敗れ、胴体のみで死んでいる不動明が描かれていた。

物語では、そのデビルマンがヴラヴァ神の生け贄となって生きたまま地獄に堕ちた不動ジュンと出会い、彼女を現世に帰すために、その脱出口となる地獄の最下層・コキュートスを目指し、ともに旅を続けるというものだが、その地獄の様相はダンテの『神曲』で描かれた地獄そのものだったのである。

デビルマンレディーを守りながら
地獄でデーモンと戦うデビルマン。

亡者を食らう地獄の番犬・ケルベロス。荒れ狂う暴風に吹き流され、血の色をした沼でのたうち回り、火の雨に焼かれる罪人たち。そして、コキュートスの手前には、神に逆らい鎖につながれた巨人族……。まさにかつてイタリアの詩人ダンテが『神曲』で描いたとおりの恐ろしい地獄模様である。興味深いのはジンメン、シレーヌ、ヴラヴァなど、ほかの悪魔たちも地獄に堕ちて、人間同様に無間地獄で苦しんでいることだ。デビルマンは地獄にいる限り、永遠にデーモンと戦い続けねばならないのである。

作者は幼少時にダンテの『神曲』を読み、衝撃を受けたという。この体験は作品に影響を与え、『魔王ダンテ』を生んだ。そして本作『デビルマンレディー』では、地獄の様相をそのまま描写してしまったのだ。作者にとっていかに『神曲』の存在が大きく、原点であるかがわかるだろう。

凶暴な一面が
垣間見られるシーン

デーモンへの怒りを
あらわにするレディー

デビルマンとシレーヌは地獄で
再び死闘を繰り広げる

地獄の番犬ケルベロスに追われる不動ジュン

デビルマンを読み解く Key Word
ダンテ『神曲』

イタリアの詩人・政治家、ダンテ・アリギエーリによって13～14世紀に書かれた長編叙事詩。地獄篇、煉獄篇、天国篇の三部構成で、暗い森の中に迷い込んだダンテが、古代ローマの詩人ウェルギリウスに導かれ、地獄、煉獄と彼岸の国を遍歴して回り、永遠の淑女ベアトリーチェと再会し、天国へ到達するまでを描いている。

デビルマン研究
関連作品

3 バイオレンスジャック

実は「デビルマン」の続編的作品だった!

「デビルマン」終了後に開始 新たな衝撃的作品

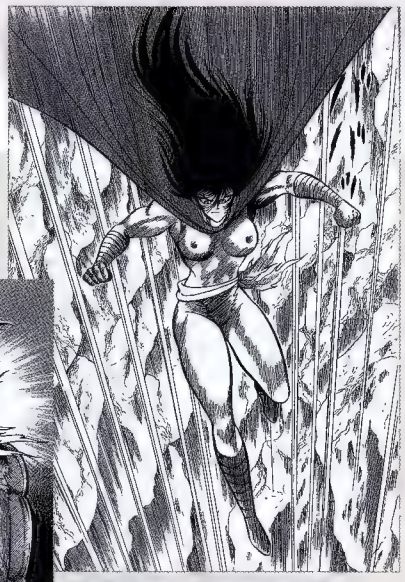
――関東地獄地震で壊滅、孤立して無法地帯と化した関東。絶望的状況下でたくましく生きる少年たち。暴力による支配を狙うスラムキングの前に謎の大男バイオレンスジャックが現れた!――

『バイオレンスジャック』は、『デビルマン』完結から一か月後に「週刊少年マガジン」で連載が始まり、その後「月刊少年マガジン」「週刊漫画ゴラク」と掲載誌を変え、描き続けられた超大作である。

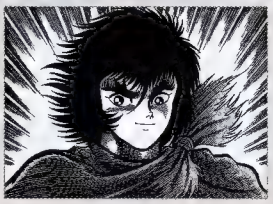
『デビルマン』の連載を終えた作者・永井豪は、次回作執筆にあたり、戦国時代を舞台にした時代劇を少年誌向けにアレンジして描こうと思いつき、巨大地震の被害を受けて荒廃した関東という現代の無法地帯を作りだしたという。

文明基盤が破壊され、暴力に支配される混沌とした社会というディストピア的な舞台設定には、高度成長も終わりつつあった日本社会の閉塞感、世相不安などを背景に、『ノストラダムスの大予言』や『日本沈没』などのベストセラーが生まれた当時の時代背景も色濃く反映されている。

『バイオレンスジャック』の魅力は、現代版戦国絵巻のような壮大なストーリーに加え、翻弄される人々のドラマ、映画のようなインパクトのあるシーンにあるが、なかでも衝撃的だったのは、飛鳥了、牧村美樹という『デビルマン』の主要キャラクターが〝人犬〟という無惨な姿で登場したことである。そして、この設定に重要な意味が隠されていたことを最後に読者は知ることになる。また、永井作品キャラクターの競演も魅力のひとつ。各エピソードごとに、『ガクエン退屈男』『マジンガーZ』『ハレンチ学園』『キューティーハニー』『凄ノ王』『ドロロンえん魔くん』などのキャラクターが役どころを変えて登場。連載時には、お気に入りのキャラクターがどんな形で登場するのかが楽しみでもあった。



バイオレンスジャックを
自称する人物。
男・女・少年の姿がある



17年をかけて完結！読者を驚愕させた結末とは!!

完結までに17年という歳月を要した『バイオレンスジャック』は作者の最長作品となったが、その結末は予想だにしないものだった。

そもそも連載当初から、最大の謎は「バイオレンスジャックとはいったい何者なのか？」ということだった。そしてそれこそが、この作品の本質に関わる重大な問題だったのだ。

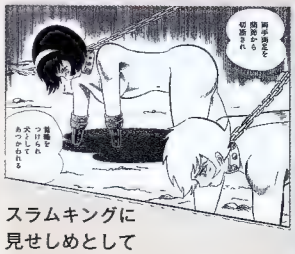
ストーリー序盤でのジャックは暴力の象徴であった。しかし、次第にその役割が超自然的な意志そのものに変化していき、同時に関東という舞台も不可思議な空間であることが判明した。そしてその謎が物語の最後でついに明かされたとき、とんでもない結末が待っていたのである！

なんと『バイオレンスジャック』の土台を支える世界全体が、『デビルマン』で登場した悪魔神サタンの心の葛藤そのものだったのだ！　つまり、『デビルマン』最終戦争後、明を失った悲しみから人類の再生を試みたサタンだったが、破壊された関東のイメージが払拭できず、その心のゆらぎが関東地獄地震となって表面化して、具現化したのがその世界だったというのである。

さらにサタンの魔王と天使、善悪の心の葛藤が関東の覇権争いにつながり、自身の暗黒面がスラムキングとして現れ、また後悔の念が自身を戒めるように人犬としてその姿を現したのだ。そして一方、サタンが愛したデビルマンも姿を変えて再生されていた。それこそが物語の主人公、バイオレンスジャックだったのである！　つまり『バイオレンスジャック』は『デビルマン』から続く壮大な物語だったのだ！

『バイオレンスジャック』は『デビルマン』が世界が破滅するという救いのない終わり方をしたのに対し、破壊された世界で民衆が再起する再生の物語だった。人類は滅亡せず！　これこそが『デビルマン』の真の結末なのかもしれない。

バイオレンスジャックはデビルマンだった!?
衝撃の真実



関東の魔王・スラムキング

…その正体は
デビルマンだった！

3人のバイオレンスジャックが
合体すると…

4

新デビルマン

「デビルマン」外伝！歴史に潜むデーモンを暴く！

特殊な時間の流れに乗って
時代を旅することになる。

デビルマンが活躍する寓話的サイドストーリー！

不動と飛鳥がタイムリープ デーモン退治の旅へ！

――ある日突然、了は時空を跳躍する能力を手に入れた。歴史の闇に潜むデーモンの気配を察知し、その醜悪な野望に気づいたのだ。人類の歴史を改悪しようと企むデーモンを倒すため、明と了は時空を越えてデーモン狩りの旅に出る！――

『デビルマン』連載終了後に「増刊少年マガジン」誌上で連載された『新デビルマン』は、本編の外伝・サイドストーリー的な位置づけの作品で、一話完結のオムニバス形式として発表された。（後に発売されたハードカバー愛蔵版や文庫版では『デビルマン』本編に組み込まれる形で収録されている。）あらゆる時代、いかなる空間にも潜伏可能なデーモンの脅威。デーモンは常に人類の歴史とともに存在したのだ。

『新デビルマン』では、人類の歴史上の大きな事件の背後にデーモンが存在し、何らかの影響を及ぼしていたという仮説に基づき、史実に則したストーリーが展開されたところが面白い！

その舞台は世界大戦前のドイツ、英仏百年戦争、さらにフランス革命など、まさに歴史が大きく動いた時代である。アドルフ・ヒトラーやジャンヌ・ダルク、マリー・アントワネットといった実在の人物に近づいたデーモンは、英雄たちやその周囲の人間の心に忍び入り、その潜在意識の闇に潜む〝悪の衝動〟に働きかけた。そして、人間同士を争わせて自滅への道を歩ませ、人類の歴史が悪の方向にねじまげられるように仕組んだのである。

不動明と飛鳥了はこのデーモンの野望を阻止するために、時空を超えてデーモン狩りの旅に出発。正しい人類の歴史を守るべくデーモンと死闘を繰り広げる！

ちなみに単行本に収録された最終章のエピソードでは、明と了が挟を分かつシーンで終わっている。それは本編で二人が迎える悲劇的なラストシーンを予感させるエンディングであった。

第1話「ウイーンの晩い春」

アドルフ・ヒトラー

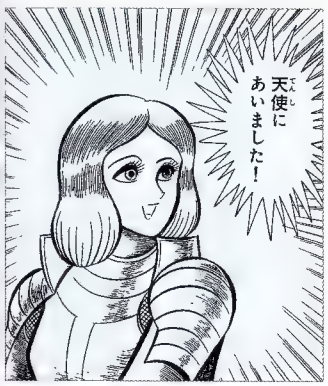
二人がタイムスリップした先は、第一次大戦前のウィーン。そこで了の鋭い嗅覚がデーモンを感知し、後を追う。その青年は、金のために大切な昔の恋人の絵を裕福なユダヤ人に売りに来たのだ。だが、金持ちの銀行家は妾になった元恋人の前で絵を引き裂き、青年の心を弄ぶ。そして、デーモンの本性を現して火を放ち、恋人は焼け死んでしまう。駆けつけたデビルマンがデーモンを倒すが、青年はユダヤ人への復讐を誓う。彼の名は、アドルフ・ヒトラーといった……。

第2話「魔界のジャンヌ・ダルク」

15世紀のフランス。長く続いた英仏百年戦争をフランス軍の勝利に導こうとしていた少女、ジャンヌ・ダルクを魔界裁判にかけるデーモン。

デーモンの裁判官は、平和は人間を堕落させ、戦争を終わらせることこそが罪だという。そして、あくまで平和を望むジャンヌに、魔女の烙印を押す。だが、そこへ現れたデビルマンが彼女を救出。戦場に戻ったジャンヌは、悪魔の姿をした天使に会ったと兵士たちに告げ、勝利を確信する。だが、皮肉な運命は再び彼女を魔女裁判にかけた……。

ジャンヌ・ダルク



第3話「美しき軍神 サモトラケのニケ」

紀元前200年。二人は古代ギリシャ軍の士官として従軍するが、サモトラケ島に近づいた瞬間、敵の襲撃を受けて捕虜になる。島では天から降臨した勝利の女神・ニケが島民に崇められていた。

古代人に殺人兵器を配るニケがデーモンと見破り変身する明。だが、ニケはデビルマンをアモンと呼び、恋人同士の記憶を取り戻すよう懇願する。

その刹那、了がニケの首を切り落とす。「騙されるな、お前は人間・不動明だ」と……。その後、ずっとニケの像には首がないままである。

第4話「ベルサイユの妖妃」

フランス革命前夜のパリ。贅沢三昧の貴族たちと飢えに苦しむ民衆の間には一触即発の緊張感が漲っている。了がデーモンの気配を辿ると、そこはベルサイユ宮殿だった。政略結婚により単身フランスに嫁いだ王妃マリー・アントワネットの心の弱さにつけ込んだデーモンは、ヨーロッパ中に戦火を拡げ、歴史を改変しようと企んでいた。王妃の精神世界に潜入した明は無事デーモンを成敗する。だが、時すでに遅く、王妃は断頭台の露と消えるのだった……。

マリー・アントワネット

第5話「リトル・ビッグホーンの悪魔」

西部開拓時代のアメリカ。明と了はシャイアン族のキャンプでのんびり暮らしていた。

だがある日、男たちがスー族との会合に出かけた留守を狙ってカスター将軍率いる第7騎兵隊がキャンプを襲撃し、女子どもを虐殺する。

その惨状を目撃して怒りに燃えた明は、デビルマンに変身。リトル・ビッグホーンに乗り込み、「悪魔はお前たちの心の中にいる！」と叫ぶ……。

翌朝、駆けつけたスー・シャイアン連合軍は、全滅したカスター将軍の部隊を発見するのだった。

第7騎兵隊を率いるカスター将軍

恐ろしい歴史にはデーモンの存在があった！

デビルマン研究
関連作品

5

デビルマンサーガ

新たなる伝説「デビルマン」最終章！

〝悪魔の壁画〟と〝悪魔の鎧〟から始まった悪魔との邂逅！

――南極の2万年前の氷の層から〝悪魔の壁画〟（デーモン・ウォール・ペインティング）と〝悪魔の鎧〟（デーモン・アーマー）と呼ばれる超古代の鎧の破片が発見された。人間が〝悪魔の鎧〟に取り憑かれると、悪魔化して精神と肉体を奪われる！　不動勇希もまた、アモンの〝悪魔の鎧〟と結合、悪魔化！　しかし、その力をコントロールし、悪魔の力を持つ人間＝悪魔人間（デーモン）（デビルマン）となるのだった！――

「デビルマンサーガ」は〝デビルマン最終伝説〟と銘打たれて「デビルマン」連載から40年後の2014年12月から『ビッグコミック』で連載開始。「デビルマンレディー」終了以来、久々に「デビルマン」をモチーフにした新たな作品の執筆であり、プロローグで描かれた、超古代において悪魔の鎧を纏う軍団が、神を標榜し全宇宙を企む者と戦争を行っているシーンからも、前作を凌ぐ壮大な物語の展開が予感される。

物語は、主人公のロボット学者・不動勇希が、国防庁空軍中尉・白縫翼に案内され、ロボット産業の最大手メンドール社を訪ねるところから始まる。メンドール社は軍事企業ル・ファール社の子会社だった。勇希はロボットを軍事利用されることを嫌っていたが、そこで見せられた歴史的遺物を見て、人生観や世界観が変わるほどの衝撃を受ける。その遺物とは、南極の2万年前の氷の層から発見された、超古代の戦争が描かれた〝悪魔の壁画〟と〝悪魔の鎧〟と呼ばれる超古代の鎧の破片。勇希は「それが軍事的悪魔を生み出すことになろうとも、オレの〝研究者魂〟を止められない！」と熱い想いを抑えられず、研究チームに加わるのだった。

そして、〝悪魔の鎧〟は人間に取り憑くとその人間を悪魔化し、殺戮を繰り返すモンスターとなることが判明。ただし、コントロールできれば、最強の〝悪魔（デーモン）

軍事力として使用される悪魔（デーモン）の力!!

戦場で一方的な強さを見せる悪魔の兵士

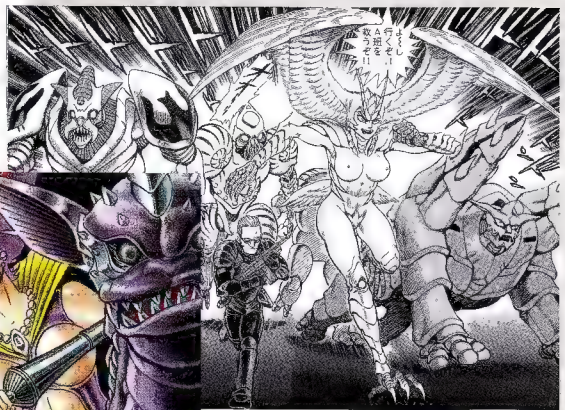
やがて、ル・ファール社はそんな〝悪魔の鎧〟によって悪魔化した〝悪魔の兵士（デーモン・ソルジャー）〟を最強の兵器としてビジネスを始め、戦争国家にレンタルし始める。これまでにない恐ろしい兵器の出現。それは、人類の終焉、全世界の崩壊の始まりだった。

今回の作品のテーマは、物語の中心にある軍事企業ル・ファール社に象徴されるように〝戦争〟である。人類の最終戦争、そして神と悪魔の最終決戦、最初からデビルマン単独での戦いではなく、組織対組織、あるいは種族対種族の戦いなのだ。また今回は、人間の意識と融合してデビルマンになったのはアモンだけではない。シレーヌやカイム、魔将軍ザンなど、デビルマンという表現こそされていないが、彼らも人間体が意志を持って変身する悪魔人間なのだ。

核爆弾や化学兵器に匹敵するデーモンの力を〝軍事力〟として利用しようと考えるル・ファール社の発想、それは人間というより悪魔の発想だ。人類が滅亡するのは、デーモンの襲撃だけではなく、人間の持つ悪魔性が原因なのかもしれない。

今後、物語は魔将軍ザン率いる〝悪魔の兵士軍団（デーモン・ソルジャー・レギオン）〟とアモン＝不動勇希たち、〝悪魔の兵士〟がいかに闘うか、その動向によって展開が変化して行くことだろう。そして、〝悪魔の壁画〟に暗示された〝神と悪魔の戦い〟が再び始まり、黙示録の世界を見ることになるに違いない。ミルトンの「失楽園」で描かれた、神に反逆した大天使ルシファーが、悪魔の王サタンとなって大軍団を率い、神の率いる天使の軍団と戦う大戦争さながらに。

「デビルマンサーガ」第1巻の帯に『…基本設定が変わり、少しづつ物語が変化している。この先、どんなデビルマンが出来るのか!? 作者の私にも分からなくなった』と永井豪本人のコメントがあったように、すでに想像を超えた展開を見せている。その結末には何が待っているのか!? 永井豪、渾身の一作、〝デビルマン最終伝説〟から目が離せない！



悪魔の鎧に取り憑かれても、人間の心を失わなかった者たち

不動勇希はアモンの鎧を纏い、その力を手に入れることによってデビルマンになる

©Go Nagai/
Dynamic Production 2018

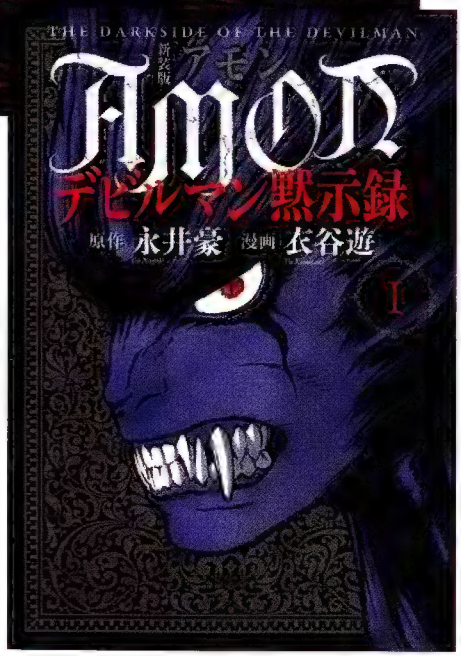
描いた作品!!

「デビルマン」の世界はそれぞれの作家の創造力によって、さらに広がり想像を超えたオリジナリティ溢れる作品に！

不動明の身体を乗っ取ったアモンの物語！

『AMONデビルマン黙示録』

■ 衣谷遊
■ 講談社「マガジンZ」連載
■ マガジンZKC　全6巻完結



デビルマンやデーモンのデザインも新たに、衣谷遊の圧倒的な画力で描かれたリメイク作品。

第1巻は、美樹を悪魔狩りによって殺された怒りによって、不動明の身体がアモンに乗っ取られてしまった…という前提による物語。「神殺し」のアモンがデビルマン軍団、ゼノン、サタンと戦う！　舎弟のグズ六が明の意識を取り戻すため、デビルマンたちと合体してアモンに挑むところは泣ける。

また第2～4巻は、シレーヌを中心に描いた物語で、地球をデーモンが支配していた頃やシレーヌとアモンのエピソードを描いている。シレーヌ族は色が黒く、白いシレーヌは実はアルビノだったとか、アモンはシレーヌとともに育った少年が合体したという設定からの思わぬ展開が面白い。

そして第5～6巻は、第1巻より以前を描いたもので、オリジナルの敵を登場させると同時にアモンを支配できているか不安を感じながら戦う明を描いている。どのエピソードも作者の独自の発想、アレンジで新たなデビルマン世界を表現し、見事に新世紀版「デビルマン」を完成させている！

©Go Nagai·Yu Kinutani/Dynamic Production 2015

ミキは魔女だった！魔女っ子版「デビルマン」

『デビルマンG』

■ 作者:高遠るい
■ 秋田書店「チャンピオンRED」連載
■ チャンピオンREDコミックス　全5巻完結

舞台は大都会の闇に紛れデーモンが跋扈する現代。本作の主人公はデビルマンというより、魔鬼邑ミキである。原作と名前の表記が異なるだけではなく、魔女志願の風変わり女の子だ。

またデビルマン誕生の過程も原作とは違う。ミキがデーモンに襲われたとき、召喚呪文を唱えたところアモンが不動アキラに憑依し、デビルマンになったのだ。アモンはデーモン仲間から「喰わず殺し」と怖れられるほど、殺戮を好む残虐な悪魔。しかし、アキラの記憶に邪魔され、ミキを襲うことも出来ず、逆に守る存在となり、ミキと力を合わせて襲い来るデーモンと戦う。

さらに本作ではシレーヌが重要なキャラクターとなっている。雷沼重造教授の養女ツバサの体を乗っ取り復活。デビルマン襲撃の機会を狙う強敵として登場する。またほかにも原作とアニメ版の両方をミックスして、ベースとしているところが随所に見られ、ファンには楽しいリメイク作品となっている。グリモワール（魔術書）の名の通り、魔法世界を取り入れた「デビルマンG」。世代を超えて楽しめる新しい「デビルマン」だ！

©Go Nagai·Rui Takato/
Dynamic Production 2012

グレートマジンガーの強敵 闇の帝王とまさかの対決!

『デビルマン対闇の帝王』

■作者:TEAM MOON
■講談社「月刊ヤングマガジン」連載
■ヤンマガKC 全3巻完結

「デビルマン」と「マジンガーZ」の生誕40周年を記念して制作された作品。グレートマジンガー最強の敵である闇の帝王とデビルマンが、作品の枠を超えて対決するところが最大の見どころである。

時は、最終戦争で人類が滅亡した後の世界。美樹を失ったデビルマンが、彼女を生き返らせるために冥界へやって来るシーンから物語が始まる。地獄城の冥神と守護獣たちが次々と迎撃するが、怒りをパワーに変えたデビルマンの敵ではなかった。彼は殺戮を繰り返し、闇の帝王ハデスの妻ベルセフォネまで倒してしまう。

一方、別次元の世界で、ドクター・ヘルに命じ、グレートマジンガーを倒さんとしていたハデスは妻をデビルマンに殺されたことを知り、怒り狂う。そしてデビルマンを追い詰め、とどめを刺さんとしたそのとき、次元の壁を超えて最強の〝魔神〟グレートマジンガーが現れた! 凄まじいサンダーブレイクの威力! ハデスはあろうことか美樹の復活を条件にデビルマンにその刺客となるよう命ずる! 皮肉にも激突するふたりの勇者。〝悪魔〟対〝魔神〟の結末はいかに!?

©Go Nagai·TEAM MOON/
Dynamic Production 2013

実力派漫画家がファン必読! スピンオフ

有名漫画家たちの夢の競演新解釈デビルマン!

『ネオデビルマン』

■作者:永井豪、石川賢、萩原玲二、江川達也、寺田克也、ヒロモト森一、岩明均、永野のりこ、高寺彰彦、夢野一子、三山のぼる、とり・みき、風忍、田島昭宇、神崎将臣、安彦良和、黒田硫黄
■竹書房「コミックガンマ」、講談社「モーニング新マグナム増刊」連載
■KCデラックスコミッククリエイト 全2巻完結

複数の漫画家たちによるトリビュート作品集。内容はオムニバス形式で、有名漫画家たちが各々の視点でデビルマンを描いている。また、当初掲載していた雑誌が休刊後、別の雑誌へ移って続けられたことからも人気の高い企画だったことが伺い知れる。

例をあげると、「東京大学物語」の江川達也は少女ミーコが、優等生のイメージに悩み不良に憧れるうちにデビルマンになる様子を軽快なタッチで描写。また岩明均は、人間が次々とデーモンに乗っ取られていく恐怖を代表作「寄生獣」を連想させる独特の世界観で表現している。そのほかにも少女漫画出身の夢野一子は、アキラと一体化するためにデーモンと合体した女子高生の恋心を。とり・みきは、小学校で起こる猟奇事件とデーモンの無差別合体を重ね合わせた物語を描いている。また原作者である永井豪や石川賢も参加し、それぞれが最終戦争を新たなエピソードを加えたサイドストーリーとして描いている。

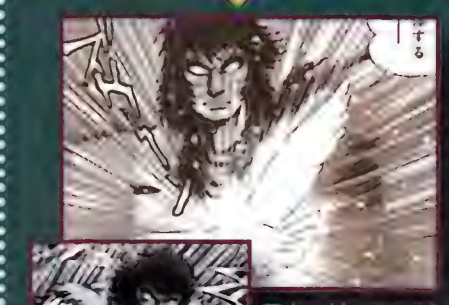
本作は稀に見る夢の競演であり、各漫画家の描くそれぞれのデビルマンを楽しめる一冊だ!

©Go Nagai/Dynamic Production 2012

作品を越えて登場！
「デビルマン」主要キャラクターの秘密

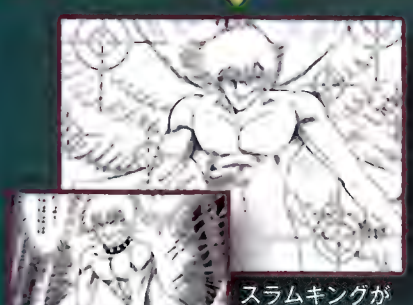
登場作品 デビルマン

不動 明・デビルマン



三人のジャックが合体してデビルマンとなった

登場作品 バイオレンスジャック



スラムキングが人犬としてペットにしていた男がサタンだった

飛鳥了・悪魔神サタン

地獄にいたデビルマンは不動ジュンの子どもとして転生する

登場作品 デビルマンレディー

アスカとジュンがひとつに融合してサタンの正体を現す

竜アスカはサタンなのか？

不動勇希はアモンの鎧（アーマー）によってデビルマンになる

登場作品 デビルマンサーガ

姿やシチュエーションを変えて登場した主要キャラクターが一目瞭然！

牧村美樹

スラムキングがペットにしていた人犬として登場

不動シュンの弟の彼女 平田美樹として出演

不動勇希の妻・不動美紀として出演

妖鳥シレーヌ

「新バイオレンスジャック」で登場したサーラが変身

地獄にいたシレーヌはデビルマンノワールと合体する

白鷺翼はシレーヌの鎧（アーマー）によって妻が変わる

悪魔王ゼノン

スラムキングが正体を現しゼノンとなった

魔王ダンテがビーストと合体してゼノンとなった

デビルマン関連作品年表

1972年の「デビルマン」連載以来、2015年から連載中の「デビルマンサーガ」まで、主に本誌で紹介した永井豪によるデビルマン関連作品と他作家によるデビルマン関連作品の掲載雑誌と掲載年を一覧にした。

■→永井豪氏によるデビルマン派生作品
■→魔王ダンテシリーズ
■→永井豪氏による作品
■→他作家によるデビルマン派生作品

1971	■魔王ダンテ（ぼくらマガジン）1／1号〜5／31号
1972	■デビルマン（週刊少年マガジン）6／11号〜1973年6／24号 ■マジンガーZ（週刊少年ジャンプ）10／2号〜1973年8／13号
1973	■バイオレンスジャック（週刊少年マガジン）7／22号〜1974年9／30号 ■マジンガーZ（テレビマガジン）10月号〜1974年9月号
1976	■手天童子（週刊少年マガジン）9／5号〜1978年4／23号
1977	■バイオレンスジャック（月刊少年マガジン）1月号〜1978年12月号
1979	■新デビルマン（バラエティ）2月号 ■新デビルマン（増刊少年マガジン）5／25号〜81年5／8号 ■凄ノ王（週刊少年マガジン）7／22〜1981年4／8号
1983	■バイオレンスジャック（週刊漫画ゴラク）8／5号〜1990年3／23号
1985	■凄ノ王伝説・火神子（バラエティ）6月号〜1986年3月号
1987	■凄ノ王（COMICハンマー）7／14号
1989	■凄ノ王伝説外伝 闇の魔人編（野性時代）4月号〜1990年3月号 ■凄ノ王伝説外伝（コミックコンプ）5〜6月号
1993	■バイオレンスジャック 魔王降臨編（描き下ろし）11月刊
1994	■ダンテ神曲 地獄編（描き下ろし）9月刊
1995	■ダンテ神曲 煉獄編・天国編（描き下ろし）10月刊
1996	■ネオデビルマン（コミックガンマ）No.32〜34号
1997	■デビルマンレディー（週刊モーニング）1／30号〜2000年7／6号

デビルマンに関わる
漫画作品の関係性がわかる

デビルマン作品相関図

©Go Nagai·TEAM MOON/
Dynamic Production 2013

TEAMMoonによるスピンオフ作品

デビルマン対闇の帝王

グレートマジンガーも登場！美樹を生き返らせるために闇の帝王と戦うデビルマン！

Spin off

「デビルマン」の最終章的作品

デビルマンサーガ

発見された超古代の悪魔の鎧が人間の運命を変える

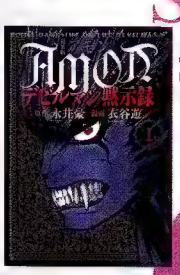
New comer

永井豪の自伝的作品

「デビルマン」の制作秘話

「激マン！」デビルマンの章

「デビルマン」が誕生し、完結するまでのほぼノンフィクション！



©Go Nagai·Yu Kinutani/
Dynamic Production 2015

矢谷遊によるスピンオフ作品

AMON デビルマン黙示録

アモンやシレーヌのサイドストーリーを描いた物語。

©Go Nagai·Rui Takato/
Dynamic Production 2012

高遠るいによるリメイク作品

デビルマンG

漫画とアニメとも少し違う新たな設定の作品。

Side story

©Go Nagai/
Dynamic Production 2012

「デビルマン」外伝

新デビルマン

歴史上の事件に関わるデーモンと戦う読み切り作品集。

他作家によるトリビュート作品

ネオデビルマン

有名漫画家によるアンソロジー作品集。

Tribute

Side story

※アニメのコミカライズ作品は除いて紹介しています。

1998
- ネオデビルマン（モーニング新マグナム増刊号）No.1〜2000年No.12
- デビルマンレディー 特別編スネーク（モーニング新マグナム増刊）No.5
- デビルマンゴースト（モーニング新マグナム増刊）No.6〜7

1999
- AMONデビルマン黙示録（マガジンZ）8月号〜2004年4月号

2001
- バイオレンスジャック〜戦国魔人伝〜（別冊ヤングジャンプ）vol.14
- 魔王ダンテ神略編（マガジンZ）3月〜6月号
- 魔王ダンテ現魔編（マガジンZ）7月〜2003年1月号

2002
- 魔王ダンテ〜魔道編〜（マガジンZ）3月号〜7月号
- 魔王ダンテ〜神魔大戦編〜（マガジンZ）9月号〜2004年1月号

2003
- デビルマン×ハニー（月刊完全版デビルマン×キューティーハニー）vol.1〜7

2004
- 新バイオレンスジャック（コミックバンチ）5／13・20合併号〜2008年4／11号

2005
- シレーヌ誕生編（月刊アフタヌーン）3月号付録「豪ちゃんマガジン」

2007
- 激マン！デビルマンの章（漫画ゴラク）6月4日号〜2012年9月21日号
- デビルマン対ゲッターロボ（チャンピオンRED）6月号〜10月号

2010
- 魔王ダンテ対ゲッターロボG（チャンピオンRED）10月号〜2012年2月号

2011
- シレーヌちゃん（コミックヘブン）vol.1〜4
- デビルマンG（チャンピオンRED）5月号〜2014年2月号
- デビルマン対闇の帝王（月刊ヤングマガジン）12月号〜2014年8月号

2012
- キューティーハニー対デビルマンレディー（チャンピオンREDいちご）vol.38〜40

2013
- デビルマンサーガ（ビッグコミック）2015年1／10号〜連載中
- 激マン！マジンガーZ編（漫画ゴラク）7月18日号〜2016年7月29日号

2014
- 激マン！キューティハニー編（漫画ゴラク）8月12日号〜2017年9月29日号

2016
- 激マン！Z&グレート編（漫画ゴラク）1月12日号〜連載中

2018

寺田克也

スペシャルインタビュー

【邦訳版】『DRAGON GIRL & MONKEY KING』が小学館集英社プロダクションから発売中。

子どもの頃の原体験として永井豪作品があった

―寺田先生はデビルマンのイラストやマンガを描かれていますが、ご自身の作品を描く上でデビルマンの影響はあるんでしょうか？

寺田（以下：寺）「ありますね。まずマンガの原体験として永井豪作品がありました。自分にとって一番強烈な漫画体験というと大友克洋さんでしたが、それ以前のファーストインパクトという意味では永井豪作品でした。永井豪という存在はなくてはならないものというか、ずっとリスペクトしてますし、影響というよりも、そうしたものが、もう自分の血肉になっているような気がしますね」

―リスペクトするほど魅かれたところは、どんなところでしょう？

寺「エロとバイオレンスが剥き出しなところでしょうね。特に好きだったのは、『デビルマン』と『あばしり一家』でしたけど、子ども向けなのにそれを超えてしまっているような…。当時の永井先生は全方向に怒っている、そんな気さえしましたね」

―エロとバイオレンスというところは寺田先生のイラストにも感じますが？

寺「あると思いますね。でも、それが永井先生の影響かというと、一概には言えませんけど。それを媒体にして自分のイメージを乗せていってるかもしれません」

―ビジュアル的に見てデビルマンはどんな優れたところがあると思いますか？

寺「シンプルなところですね。頭にコウモリの翼を付けただけの造型で。あとはマンガなのでどうなっているかわからない下半身。マット系なのか、グロス系なのか、毛が生えているのか、逆に詳細に描いていないからいいんでしょうね。物語もそうですが、詳細には描いていない。ほんのごく一部を予告編的に見せているような…」

―予告編的と言いますと？

寺「つまり良いトコ取りというか、おいしいところをダイジェストで見せたような感じというか…。大人になって読み返してみると、もっと話が詰まっていたような気がするのに、たった5巻しかない。たぶん勝手に話を補完して、その向こう側を見てしまうんでしょうね。自分の中で昔見たデビルマンの記憶を熟成させるというか、スープを煮詰めて、さらに煮詰めるようにして。でも、『デビルマン』は骨格がシンプルでパッケージとしても密度が高い完熟したところがあって、そうした自分の想像力を引き受けてくれる深みがある。そこも魅力なんでしょうね」

自分が思う一番見たいデビルマンを描いた

―では、デビルマンのイラストを描いたときは、どんなことを考えて描かれたんでしょう？

寺「何も考えてないですね（笑）。というか、そもそもの『デビルマン』というスープが濃いんで、どう描いてもデビルマンを逸脱する事はないんですよ。ましてや超える事なんてできませんから」

―でも、寺田先生のデビルマンは迫力があって独特の凄さがあると思いますが？

寺「いや、いくら描いても原作のデビルマンを超えることはできないと思いますよ。こちらはそのイ

【寺田克也プロフィール】
寺田克也（てらだ・かつや）　マンガ家、イラストレーター。1963年岡山県生まれ。マンガ、小説挿絵、ゲーム、アニメのキャラクターデザインなど幅広く活躍。メビウスやエンキ・ビラルといった欧米コミック作家の画風と日本の伝統的絵画的特長を併せ持つ独特な作風は、日本、海外を問わず熱狂的なファンの支持を得る。

【代表作】
『西遊奇伝大猿王』（漫画）『BLOOD / THE LAST VAMPIRE』（映画 キャラクターデザイン）『デビルマン』（映画 キャラクター・メカニックデザイン）『仮面ライダーW』（ドラマ クリーチャーデザイン）『大王烏賊深海図』（国立科学博物館特別展「深海」展示品 水墨画）『パシフィック・リム』（映画 ポスターデザイン）
2013年に京都国際マンガミュージアムにて展覧会「寺田克也 コロ10年」開催。近年の作品集にはアメリカで発売された『DRAGON GIRL AND MONKEY KING』の邦訳版（小学館集英社プロダクション）がある。

インタビュー／湯浅裕行　写真／磯崎威志　※このインタビューは2015年10月に発売された『デビルマン大解剖』で掲載された当時のものです。

デビルマンは意識の奥に存在する。

メージの中で遊ばせてもらうだけで、描いても余分な肉付けをしてるに過ぎない。蛇足だと感じてしまうんです」

―『ネオデビルマン』を描いたときもそうなんですか？　かなり残酷さが表現されていましたが？

寺「特にどう描こうかとか考えてませんでしたね（笑）。残酷と言われましたが、相手を引き裂いて犯すシーンでも、悪魔の世界ならこのくらい日常だろうと思って描いただけですから。どちらの視点で物を見るか、ということでしょうね」

―では、寺田先生の中で悪魔とはこうだろう、と思ったものがあいう形になったと？

寺「依頼されて描く以上はエンターテインメントですからね。自分が何を伝えたいとかよりも、とにかく自分が思う一番見たいデビルマンを描こうと。シレーヌの場合も同様で、人間から見たら気持ち悪いかもしれないけど、悪魔から見たら美しいだろうというようなシレーヌを描こうと思って描きましたね」

―イラストにしてもマンガにしても考えるわけではなく、自然に描き出されたんですね。

寺「何を描くにしてもそこに何かの考えがあるし、いろんなものが忍び込んでくるわけです。色にしても線にしても、モチーフにしても今考えている事がそれを描かせる。まったく関係ないものを描いていても、それが溢れちゃうんですよね。大上段にテーマやメッセージとか考えるんじゃなく、そうじゃなくても自分のフィルターを通して自然に出てしまうのが良いのかなあ、と思います」

―日常や経験、自分を作ってるものが自然に絵に現れるんですね。では、最後にデビルマンは先生にとってどんな存在でしょう？

寺「難しいですね。でも、そういう意味では昔見たデビルマンの記憶がずっと自分の意識の奥のほうに確実にあって、それが何かの拍子で出てきて時々影響を与えている…そんな存在じゃないでしょうか」

―デビルマンはすでに先生の一部なのかもしれませんね。本日はありがとうございました。

スペシャルインタビュー

衣谷遊

『AMON』は夢中で描きました。

余白があったから『AMON』のような作品を描けた

―デビルマンの外伝的作品『AMON　デビルマン黙示録』を描かれた衣谷先生ですが、最初の『デビルマン』の思い出、出会いはどんな感じだったんでしょう？

衣谷（以下：衣）「10歳ころだったと思いますが、アニメと永井豪先生のマンガ、それと『冒険王』のマンガを同時にやっていたのを見ていたと思います。でも、まだ子どもだったのでちゃんと理解できてなくて、高校生の時に単行本で読んで改めてスゴイな！　と思いました」

―なかでも印象的だったシーンなどは？

衣「途中で雷沼博士がデーモンが人間だとして人間狩りを始めたところがありましたよね。それでデビルマンは人間に絶望するんだけど、まだ美樹がいる！　って戻ったら、酷い殺され方をしていた。あれは相当にショックでしたね。

それとやはり一番はラストシーンですね。戦争が終わって、サタンと明が岩の上にいるんですが、見るとその明の下半身がなかった！　これもかなりの衝撃でした。

でも、あとで考えるとサタンは両性具有で男でも女でもなくて、明も下半身を失くしたことでどちらでもなくなった…。これは対になっているんじゃないかと。ここにも意味があるんじゃないかと思いましたね。その上、後ろには神の集団が迫ってきていて、もう次の戦いが始まろうとしている。凄い終わり方ですよね」

―その最終戦争からラストシーンまでは、ページの関係もあったと思いますが、省略して描かれたことで、読者が想像する余地があって、逆にそこが良かった気がしますね。

衣「ええ、そういう意味ではそうした余白があったからこそ、『AMON』のような作品を描けたんだと思います」

インタビュー／湯浅裕行　写真／磯﨑威志　※このインタビューは2015年10月に発売された『デビルマン大解剖』で掲載された当時のものです。

作品がとても強いので、多少のことを描いてもブレない

―『AMON』のデザインはH・R・ギーガーの影響を受けた印象を持ちましたが、ご自身ではどんな作家の影響を受けたと思われますか？

衣「やはり永井豪先生の存在はデカかったですね。あとH・R・ギーガーやヨーロッパのコミック作家のメビウス、大友克洋さんなどですね」

―その『AMON』を描くことになったきっかけはどんなことからだったんでしょう？

衣「その頃『マガジンZ』が創刊されることになって、かつて『魔王ダンテ』が掲載された『ぼくらマガジン』をひな型にするというコンセプトがあったんです。そこから『魔王ダンテ』の系譜となる『デビルマン』の外伝的な話を描いたらどうかということになったと思います」

―連載にあたって、永井先生と打ち合わせはされたんですか？

衣「しました。最初はその予定はなかったんですが、ラフスケッチをダイナミックプロの方にお見せしていたら、突然先生が入ってらしたんです。緊張のあまりカチンコチンになってひと言も話せませんでした（笑）」

―そうだったんですか（笑）。ところで『AMON』を描くときに、原作があることで苦労したところはありませんでしたか？

衣「作品がとても強くて、多少のことを描いてもブレないと思ったのであまり苦労はなかったですね。少々逸脱しても、核にあるものがしっかりしてるので戻れるだろうと。そういう安心感はなぜかありました」

―衣谷さん独自の解釈というか、特長的なシーンとして街や人間が融合してドロドロになったところがあって凄くシュールでしたね。

衣「デーモンって、人間じゃなくても合体できるんですよね。それで合体能力が暴走して無機物でも何でも融合して街全体を冒していくというイメージが浮かんで、ああいう絵になりました」

―それからシレーヌが頻繁に登場しているのも特長的ですよね。

衣「ええ。シレーヌって原作でもちょっと特殊なんですよね。言葉遣いもどこか高貴な、家柄がいい感じがあって。デーモンでも位の高い存在、そんなイメージを膨らまして描いたんです。それとシレーヌはアモンに対して、因縁がありそうですから、『AMON』を描くうえで重要な存在でしたね」

―連載時には「映画版デビルマン」のデザインワークもされていましたが？

衣「最初は『AMON』のシレーヌを見て気に入って下さったとかで、シレーヌのデザインを依頼されたんです。でも、やっていくうちにあれもこれもと、けっこうデザインすることになってしまって（笑）。ちょうど連載していたころだったので大変でした」

―永井先生も連載当時はアニメのキャラクター設定をしなくてはいけなくて大変だったとお聞きしてますから、似た状況だったんですね（笑）。

衣「そうだったんですか。でも、忙しかったんですが、まさか自分が子どもの頃から好きだったデビルマンを描くことになるとは思いもしませんでしたし、これは運命だと思いましたから、当時は充実してましたね。もう夢中で描いてました」

―最後に先生にとって『デビルマン』はどんな作品でしょう？

衣「少年漫画の領域を広げた作品ですよね。奇跡のような作品です。それに僕にとっても運命的で奇跡のような作品だったと言えます。ちなみに連載終了後に永井先生から直筆でデビルマンと僕の『AMON』を描いた大きなカラーイラストをいただきました。最高に嬉しかったです。ずっと家宝にしてます」

―先生がいかに永井先生のファンかがわかりました（笑）。本日はありがとうございました。

【衣谷 遊プロフィール】
衣谷 遊（きぬたに・ゆう） マンガ家。1962年愛媛県生まれ。SFファンタジー系の作品を数多く手がけ、繊細かつ重厚な筆致と独創的な世界観は観る者を魅了する。『デビルマン』の外伝的作品『AMON デビルマン黙示録』（『月刊マガジンZ』講談社）の連載に留まらず、『劇場版デビルマン』のキャラクターデザインを手がける。独自のデビルマン世界を広く深く追求した漫画家。
【代表作】『AMON デビルマン黙示録』（原作：永井豪『月刊マガジンZ』講談社）、『スチームボーイ』（原作：大友克洋『月刊マガジンZ』講談社）、『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』（『週刊ヤングマガジン』→『月刊ヤングマガジン』講談社）、『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX ～The Laughing Man～』（『マンガボックス』DeNA）

©Go Nagai·Yu Kinutani/Dynamic Production 2017

ダイナミック企画の公式サイトで連載した劇場版『マジンガーZ』の外伝的作品『マジンガーZ アルターイグニッション』が講談社（ヤンマガKCスペシャル）から発売中。

『ムー』編集長 三上丈晴氏に聞く！「デビルマン」オカルト論

デビルマンは本当

日本のオカルトブームの先駆け

1970年代半ば頃、日本ではオカルトブームといったムーヴメントがあったが、『デビルマン』はその先駆けとなった作品といえる。調べたところ、連載が開始されたのは1972年6月。しかし、一連のオカルトブームと思われる現象は、それより少し後に起こっているのだ。

たとえば、ハルマゲドンを世に知らしめた大ベストセラー『ノストラダムスの大予言』（五島勉／著）が出版されたのは1973年、また同じ年に『日本沈没』（小松左京／著）も刊行され、これも大ベストセラーとなっている。さらに翌年、1974年にはユリ・ゲラーが来日し超能力ブームが巻き起こり、1970年代後半にはUFOブームも起きている。

悪魔的なものでいえば、1973年に『エクソシスト』、1976年に『オーメン』といった映画が公開され大ヒット。日本人が西洋の悪魔の恐ろしさがどんなものか思い知るきっかけとなったのが、これらの作品だ。

つまり、これらオカルト的なブームはほとんどが1973年以降から、『デビルマン』はそれ以前にオカルト的な要素を盛り込んだ作品として登場したわけであり、なんと永井豪は『ノストラダムスの大予言』より早くハルマゲドンという言葉を用い、『エクソシスト』よりも早く悪魔に憑依された人間を描いていたのだ。もちろん、『デビルマン』が直接その他の作品やブームと関係しているわけではない。しかし、読者は『デビルマン』を読んだおかげで、やがて来るオカルトブームを受け入れる準備が出来上がっていたといえよう。

悪魔人間という発想が凄い！

三上氏は『デビルマン』は初めて神学的な〝悪魔〟という概念を日本に広めた作品だったと語る。

そして、そのブームや時代の要求に応え、1979年に登場したのが現在日本で唯一の月刊オカルト情報誌『ムー』（学研プラス）である。『ムー』は、〝世界の謎と不思議に挑戦するスーパーミステリーマガジン〟として、主にUFOや異星人、超能力、UMA、怪奇現象、超古代文明やオーパーツ、超科学、陰謀論などのオカルト全般について毎号詳細に紹介している。

ここではオカルトの、第一人者である『ムー』編集長三上丈晴氏に『デビルマン』を専門家の目でオカルト的に斬ってもらった。

「『デビルマン』は『魔王ダンテ』に引き続き、ダンテ・アリギエーリの『神曲』をベースにしていますよね。氷漬けの悪魔はまさにそれです」

氷漬けの悪魔とは、地獄界の最下層、第九圏の裏切り者の地獄・コキュートスと呼ばれる氷地獄で永遠に幽閉されている悪魔のことである。それは神に叛逆した堕天使のなれの果てである魔王サタンだという。

「ルシファーが堕天使であり、サタンという悪魔になったということを一般に知らしめたのは『デビルマン』だったかもしれません」

幼少期に兄に読んでもらった子供文庫『ダンテの神曲物語』にあったギュスターヴ・ドレの挿絵を見て衝撃を受けた永井豪氏は、ずっとその悪魔のイメージと西洋的な悪魔や地獄、天使や天国、神といった世界観を持ち続けていたに違いない。

『エクソシスト』など西洋のホラーでもあるように、そもそも悪魔が憑依するというのは、西洋的な考え方です。デーモンが合体して悪魔になるというのは、そうした考え方に基づいていると言えるでしょう。また悪魔が肉体を持たないという事も非常に重要なポイントと言えます」

つまり、神も悪魔も肉体を持たない霊的な存在であり、その悪魔が人間と合体する事で肉体を持つというところがポイ

上／『光を掲げる者ルシファー』ウィリアム・ブレイク画。

下／ヨハネの黙示録に登場する7つの頭と10本の角を持った巨大な竜。サタンの化身であり、「デビルマン」では最終戦争でサタンとともにいる。絵はウィリアム・ブレイクの『巨大な赤い竜と海から来た獣』。

「神曲」のコキュートスのサタン。ギュスターヴ・ドレ画。

ントなのだ。そして最終戦争ではデーモンと人間ではなく、デーモンとデビルマンが戦う。言い換えれば〝肉体を持たない悪魔〟と〝肉体を持った悪魔〟との戦いという見方もできるのだ。それが何を意味するのか？　考えると興味深い。

悪魔を使役する実在する霊能者

ところで、不動明は悪魔の力を手に入れデビルマンになるわけだが、三上氏によれば、悪魔の力を利用する霊能者は実在するという。

「デビルマンは自分に取り憑いた悪魔に意識を支配されることなく、自我を保ち自分に取り込んだわけですが、自分に取り憑いた悪霊（悪魔）を飼い慣らし、自在に使うという霊能者は実際にいます。その人はその悪霊をコントロールして他人に取り憑かせる事ができたといいます」

三上氏はその霊能者がある超能力者と対峙した時に、悪霊を放ったという事件について語ってくれた。その際、近くにいた人が変調をきたしたことで発覚したのだが、霊能者によると、それは放った悪霊を超能力者が弾き飛ばしたためその人に取り憑いてしまったからだという。信じられない話だが、姿は見えずとも悪霊をはじめ、悪魔や天使も存在するのだと三上氏は言う。

「たとえば天使ですが、本当は翼があるわけではありません。翼は象徴であって、人の前に現れる時は普通の人間として現れます。『創世記』のソドムとゴモラの逸話でふたりの天使がロトに2つの街を滅ぼすというお告げを授けますが、その天使は青年の姿だったと言われています」

天使や悪魔が人間の姿で現れるとすれば、われわれが気づかないだけで、すでに人に紛れ、人間世界に忍び込んでいるのかもしれない。

「ちなみに、そのソドムとゴモラの滅亡の際、ロトの妻が後ろを振り返ったために塩の柱になってしまいます。これは『デビルマン』の中でも戦闘機から降りたパイロットが塩の柱になったというシーンに引用されています。

実はこれがすごいんです。『デビルマン』は『ヨハネの黙示録』を思わせる結末なのはご存知の通りですが、そこに『創世記』の逸話を引用している。これは一見矛盾しているように感じますが、『創世記』と『黙示録』は実は鏡合わせであり、対になっているんです。これを敢えてひとつの作品の中で取り入れたというのは、非常に暗示的で永井豪先生に霊的イメージが降りてきた証拠と言えるでしょう」

三上氏の話を聞けば聞くほど、『デビルマン』には普通では気づかないオカルト的側面があるようだ。

ソドムから脱出するロト。この後、妻が振り返り塩となる。

ラストシーンは『法華経』の地涌である

三上氏は最後に『デビルマン』のラストシーンについて、興味深い解釈を教えてくれた。

「最後のページでサタンと明のバックに、多くの天使が下方から現れるシーンがあります。しかし、本来なら天使は天上から舞い降りてくるはずで、下からの出現は変なんです。ところが『法華経』では世界の終末には大地の底から無数の菩薩が涌くように現れるという〝地涌（じゆ）〟という思想があります。偶然かも知れませんが、ラストシーンをこうして表現した事には驚きを隠せません」

驚く事に『デビルマン』では『新約聖書』のヨハネの黙示録だけではなく、『法華経』の終末思想も表現されていたのである。永井豪先生が意図したかは別にして『デビルマン』はさまざまなオカルト的要素を含んでいる。これまでもそうしたイメージはあったものの、ムー編集長である三上氏の話によって想像以上にオカルティックな作品であることが改めて証明されたのではないだろうか。

有名なキリスト教の悪魔とされるバフォメット。

月刊『ムー』毎月９日発売

『実践 魔法カバラー入門』
大沼忠弘 著

『失われた地底人の魔法陣「ペンタゴン」の謎』
飛鳥昭雄・三神たける 著

月刊『ムー』と悪魔関連書籍

Devilman Comics Collection

デビルマン コミックス コレクション

KCコミックス

KCコミックス全5巻(1973年)※なお、1993年から1994年に完全復刻版が発行されている。

KCスペシャル

KCスペシャル(1987年)

新デビルマン

KCコミックス(1981年)
※なお、1994年に完全復刻版が発行されている

KCスペシャル全3巻(1983年)

愛蔵版

豪華愛蔵版全5巻(1987年)

講談社漫画文庫

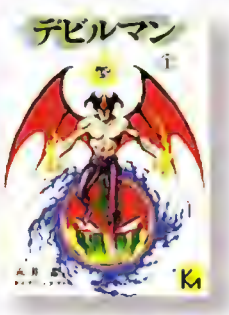
講談社漫画文庫全5巻(1997年)※なお、1977年から1978年にかけて発売されたもの、2009年に発売された「新装版デビルマン」全4巻もある。

サンデーコミックス

SCデビルマン(秋田書店)／画・蛭田亮　全2巻1972~1973年

新装版

新装版デビルマン　全4巻
2009年



旧文庫版

講談社漫画文庫(旧)デビルマン　全5巻
1977~1978年

これまでの愛蔵版や漫画文庫版などでもたびたび改変されていたが、
2012年に発売されたKCデラックス『改訂版デビルマン』(講談社)では、最初にコミックス化されたKCコミックス版と比較すると大幅に加筆修正された部分が見られた。ここでは改訂版を例に大きく加筆された部分を紹介してみたい。なお、セリフの変更やキャラの描き直し、スクリーントーンやベタなどを足した部分も多々あるので興味のある方はぜひ比較してみてほしい。

デビルマン最新コミックス

同じ作品でありながら違う味わいのコミックス!!
「デビルマン」をオリジナル版で読むか？
最新のディレクターズカット版で読むか？

雑誌連載時の興奮を再現!

第１巻／2018年１月27日発売。
第２巻／2018年２月26日発売。
第３巻／2018年３月下旬発売予定。

全巻購入者には、永井豪描き下ろしイラストがデザインされた全巻収納BOXを全員プレゼント

［申込締切］2018年6月30日　［発送時期］2018年8月下旬頃から発送予定　［申込方法］1巻、2巻の帯折り返しにある応募券を3巻に封入されている専用ハガキに貼り、必要事項をご明記のうえ、切手を貼り投函してください。

雑誌連載時のカラーページはそのまま、コミックス化の際にページの始まりが左右に入れ替わってしまったところは、掲載時のままに編集されているのが特長。左右違うとページをめくった時に現れるページが変わるので、実は重要なポイントだ。

デビルマン-THE FIRST-
(復刻名作漫画シリーズ)

定価：本体2,700円＋税　全３巻　発行／小学館クリエイティブ

永井豪画業50周年を記念し、連載時（1972年25号～1973年27号）の誌面に可能な限り近づけたバージョンで、判型は連載誌「週刊少年マガジン」と同サイズのB5判を採用している。また、これまで単行本化の際、掲載順を変えたものを連載時の順に収録。連載版ならではの〝ヒキ〟によって生み出された、ページをめくる興奮と次回への期待感を再現している。また単行本では収録されなかった扉絵を完全収録。さらに本文の４色や２色のカラーページも再現しているところが嬉しい！

©Go Nagai/Dynamic Production 2018

画業50周年愛蔵版 デビルマン
(ビッグコミックススペシャル)

定価：本体778円＋税　全5巻発売中　発行／小学館

「ビッグコミック」創刊50周年と永井豪画業50周年を記念した特別愛蔵版。全巻描き下ろした名キャラクター登場のカバーと、全５巻揃えると大迫力のデビルマン軍団が浮き上がる裏表紙が楽しい！　雑誌掲載時より、大幅に加筆と修正を加え、再構成したバージョンであり、最新のディレクターズカット版といえる。

これが2018年版デビルマンだ!

第１巻／2017年11月30日発売。

第２巻／2017年11月30日発売。

第３巻／2017年12月27日発売。

第４巻／2017年12月27日発売。

第５巻／2018年1月30日発売。

Blu-ray・DVD紹介

デビルマン（廉価版）

◎価格：各6480円（税込／６月13日発売予定）
◎発売元：東映ビデオ　◎販売元：東映
◎問：東映ビデオ
【https://www.toei-video.co.jp/】

2004年に発売されたDVDコレクション（VOL.1～3〈完〉）が、廉価版になって再び登場。VOL.1には第１～13話。VOL.2には第14～26話。VOL.3〈完〉には第27～39話（最終話）を収録。

©ダイナミック企画・東映アニメーション

初回生産限定 デビルマン Blu-ray COLLECTION

◎価格：４万8600円（税込／発売中）
◎発売元：東映アニメーション・東映ビデオ　◎販売元：東映
◎問：東映ビデオ【https://www.toei-video.co.jp/】
※初回生産限定商品により売り切れの際はご了承下さい。

1972年7月から73年3月まで、NET（現テレビ朝日）・毎日放送系にて放送された『デビルマン』全39話を収録したBlu-ray COLLECTION。越智一裕氏の描き下ろしアウター＆ジャケット仕様で、封入特典としてブックレット（24P）が付属する。収録内容は、【DISC1】#1～#7、【DISC2】#8～#13、【DISC3】#14～#20、【DISC4】#21～#26、【DISC5】#27～#33、【DISC6】#34～#39

©ダイナミック企画・東映アニメーション

動くデビルを一挙に凝縮！

デビルマンレディーTV版 コンプリートDVD-BOX

◎価格：２万9160円（税込／発売中）
◎発売元・販売元：ユニバーサル ミュージック
◎問：ユニバーサル ミュージック
【http://www.universal-music.co.jp/】

週刊『モーニング』（講談社）で連載された漫画原作をTVアニメ化（全26話）し、それを全５枚のDVDに収録したボックスセット。VOL.1には第1～6話。VOL.2には第7～11話。VOL.3には第12～16話、VOL.4には第17～21話、VOL.5には第22～26話を収録。

©永井豪／ダイナミック企画・デビルマンレディー製作委員会

デビルマン OVA COLLECTION

◎価格：9720円（税込／発売中）
◎発売元・販売元：バンダイビジュアル
◎問：バンダイビジュアル
【http://www.bandaivisual.co.jp/】

『デビルマン』のOVA「誕生編」と「妖鳥シレーヌ編」の２話に加え、音響劇「デビルマン・アーマゲドン編」を音声収録した、2012年発売のBlu-rayコレクション。封入特典としてブックレット（16P）が付属。

©ダイナミック企画・講談社・キングレコード
©ダイナミック企画・講談社・バンダイビジュアル

原作の魅力をフィルムに再現！

デビルマン

◎価格：4104円（税込／発売中）
◎発売元：東映ビデオ　◎販売元：東映
◎問：東映ビデオ【https://www.toei-video.co.jp/】
※ PG-12 小学生には助言・指導が必要。

実写とCGとアニメが融合した超リアル映像《T-VISUAL》で、原作の世界観を実写化。キャストは不動明に伊崎央登、牧村美樹に酒井彩名、飛鳥了に伊崎右典ほか、ボブ・サップ、KONISHIKI、宇崎竜童＆阿木燿子夫妻、冨永愛と豪華俳優陣が揃う。

© 2004「デビルマン」製作委員会 Original story & character design:"Devilman"
© 1972 Go Nagai / Dynamic Planning Inc., The name and trademark "Devilman" is used under permission by Dynamic Planning Inc.,

AMON デビルマン黙示録

◎価格：4104円（税込／発売中）
◎発売元・販売元：アニプレックス
◎問：アニプレックス
【http://www.aniplex.co.jp/】

気鋭のクリエイターたちが、『デビルマン』コミック版の「牧村美樹惨殺」から「最終章・デビルマン軍団VS デーモン軍団」の間の時間軸を基に、現代的な解釈で再構築したオリジナルストーリーのOVA作品。

© 1999永井豪 / ダイナミック企画・アニプレックス

DEVILMAN crybaby
COMPLETE BOX
【完全生産限定版】

◆2018/5/30 発売 ◆価格：28,000 円＋税
【完全生産限定版特典】
★ Blu-ray DISC3 枚、特典 CD2 枚：計 5 枚組
★押山清高・描き下ろし BOX
★音楽：牛尾憲輔による
EXTRA Soundtrack・Remix CD
★アニメーションメイキングブック (100P)
★アートワーク集 (100P)

不朽の名作「デビルマン」が
現代に復活!

2018 年 1 月 5 日よりオンライン配信サービス Netflix オリジナルで『DEVILMAN crybaby』が独占全世界配信された。これまでもテレビアニメ化以外に OVA 化や実写化された『デビルマン』だが、初めて『原作の結末まで』描かれたこと、海外に配信され『DEVILMAN』の名を広く知らしめた点ではまさに快挙といえよう！ まだ見ていないファン達よ！ 今からでも遅くはない！ ぜひ『DEVILMAN crybaby』を体験してほしい！

■配信情報『DEVILMAN crybaby』
Netflix にて全世界190カ国独占配信中
原作：永井豪『デビルマン』
監督：湯浅政明　脚本：大河内一楼　音楽：牛尾憲輔
アニメーション制作：サイエンス SARU
©Go Nagai - Devilman Crybaby Project
公式サイト：devilman-crybaby.com

想定外震撼せよ！！

アニメーション作品『DEVILMAN crybaby』は、原作者・永井豪の画業50周年記念作品として、オンライン映像配信サービス・Netflix（ネットフリックス）のオリジナルコンテンツとして製作され、2018年1月5日より全10話で公開された。

監督・湯浅政明は『ちびまる子ちゃん』『クレヨンしんちゃん』などのTVシリーズから頭角を現し、『マインド・ゲーム』『四畳半神話大系』などで独特の個性を発揮する。またアメリカのTVアニメシリーズ『Adventure Time』の1エピソードを手掛け、2017年には『夜明け告げるルーのうた』でフランス・アヌシー国際アニメーション映画祭長編部門クリスタル賞を受賞するなど、国境を越えた活躍をする人物である。

脚本は『OVERMANキングゲイナー』『コードギアス 反逆のルルーシュ』などの大河内一楼。また、デーモンやデビルマンなど異形の存在を押山清高が「デビルデザイン」として担当、最低限の線と確かなフォルムでデザインした。一方でキャラクターデザインの倉島亜由美は、「泣き」という象徴的な表情をはじめ、繊細にして感情豊かなタッチで、作品にマッチするよう登場人物たちを再構築してみせた。

飛鳥了という感情とは無縁の超然とした存在に対して、不動明や牧村美樹ら主要登場人物が陸上部という独自設定は、人間たちが希望や愛を信じて一歩一歩進むという象徴だろう。一方で舞台には、閑静な住宅街から猥雑な街角までを包み込む川崎という土地、ラップに象徴的なオフビートに彩られた音響、地下で開かれるサバトパーティーというボーダーが曖昧な背景が施されている。繰り返し挿入される「バトンを渡す」という演出も見逃せない。

原作のラストまで描き切るという誓いのもと、当代一流のクリエーターたちは1972年に描かれたその核をどう描き出し、さらに現代の作品としてどう進化させているのか。必見である。

ストーリーガイド

Story

#1 「おまえが必要なんだ」

～愛を知らない了と愛の涙を流す明の物語が始まる～

泣き虫の高校生不動明は両親と離れ、同級生牧村美樹の家に居候している。学校の帰り、二人は不良に絡まれるが、明の旧友の天才少年・飛鳥了が撃退。了は明に異生物・デーモンの存在を打ち明け真実を暴くコトを望み、明は頷く。サバトパーティーに出現したデーモンと犠牲者たちの中で明は合体、デーモンの力を手に入れ、新生物「デビルマン」の闘いが幕を開けた。

#4 「明、来て」

～明が走る理由・家族愛に挑戦してくる悪魔の笑い～

海外で医者をする明の両親だが、母・香織が久しぶりに帰国するという。だが彼女は到着ロビーへ向かうバスで悲劇に遭う。乗客が一向にロビーから出て来ないのを不審に思った明と了は香織のＧＰＳデータを頼りに整備場へ。そこには明の父・礼次郎を乗っ取って乗客を全て喰い、その無数のデスマスクを胸に貼り付けたデーモン・ジンメンがいた。

#3 「オレは撮ったんだ！」

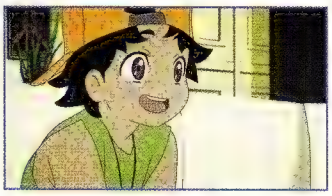
～明を襲う人の悪意と悪魔の罠。目覚める了の狂気～

長崎の家をつきとめた明と了。長崎が留守の間に了はＰＣから動画を削除し、長崎の母にカネを握らせる。一方美樹は長崎から撮影スタジオに呼び出されるが、それはデビルマンを倒そうというデーモンの罠だった。怒る明はデーモンを倒す。安心する明だが、了は長崎を銃殺し「選べ明！俺と生きるか！その女と死ぬか！！」と、美樹にも銃を向ける。

#2 「片手で十分だ」

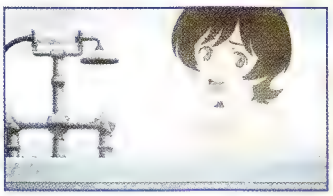
～深く静かに侵攻する悪魔と人間の悪意が錯綜する～

明は別人のように野性的になり人間離れした身体能力を手に入れた。盗撮雑誌カメラマン・長崎は美樹の人の良さにつけこみきわどい写真を撮っていたが、明に邪魔をされる。長崎は一方で流行のサバトパーティーと相次ぐ謎の失踪事件を追っており、港で人間を襲う誘拐者たち…デーモンを発見。現れた了と明はデーモンを倒すが、長崎に明の変身を撮られてしまう！



牧村太郎

美樹のちょっと生意気な弟。作中に登場する「デビルマン」のファン。



牧村美樹

明と同居する牧村家の娘。高校の陸上部のエースで明のことを気にかけている。

飛鳥　了

幼い頃からの明の親友。頭脳明晰で資産家、また悪魔の研究もする大学教授でもある。デビルマンとなった明の唯一の理解者。

不動　明

牧村家に居候する泣き虫な高校生。親友の了と一緒にサバトに潜入し、悪魔アモンと合体しデビルマンとなる。

不良グループ

ラッパー系の不良。ワム、ガビ、ククン、バボ、ヒエの５人組。

幸田燃寛

トップアスリートのスーパー高校生。親しくしていたチームメイトもいたが、ある理由で失うことになる。

ミーコ

美樹の親友で本名はミキ。同じ陸上部に所属し、美樹にひそかな嫉妬心を持っている。

牧村夫妻

夫婦ともに敬虔なクリスチャン。海外で仕事をする不動夫妻から息子の明を預かっている。

キャラクター紹介

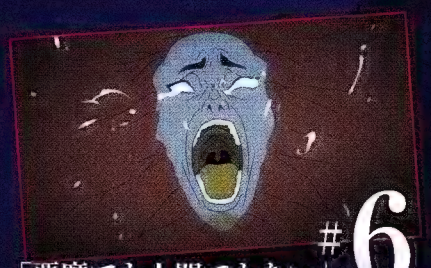
Character

現代にあわせて新たに蘇ったキャラクターたち

#7「人間は弱く、悪魔は賢い」

～人類の心の弱さを目の当たりに泣く明、嗤う了～

平和は失われ、疑心暗鬼の世界となってしまった。悪魔は静かに各国要人と入れ替わっていたが、恐怖に狩られた人類はそれを知らず自滅するかのごとく、互いになじり合い、狩り、殺していた。それでも人間を信じたい、という美樹のＳＮＳのつぶやきも罵倒にかき消されていく。世界がただ荒廃していく日々の中、突然牧村家の母・亜樹子と長男・太郎が姿を消す。



#6「悪魔でも人間でもない」

～悪魔よりも悪魔的な、了の「作戦」が幕を開ける～

陸上界のスター選手・幸田と明の所属する陸上部がリレーで対決するイベントが開かれる。そこで幸田が悪魔と合体しているコトを白日の下に晒そうとする、了の「作戦」が進行していた。幸田がデビルマンではないかと疑う明は、レースのさなかに同志となるよう語り掛ける。が、了の罠により幸田の肉体に宿る悪魔の因子が暴走を始め、競技場は大殺戮の舞台となった！

#5「シレーヌ、君は美しい」

～悪魔に愛はない？人との違いは？明は悩み始める～

明・美樹の陸上部のチームメイト・ミーコが変わった。獣のような走りで一躍トップになる。一方、明は衝動に突き動かされ夜の歓楽街へ。そこには明と合体したアモンを求める美しきデーモン・シレーヌが待っていた。二人は衝動を剥き出しにして悦ぶかのごとく闘う。デビルマンが圧倒と見えた直前、シレーヌの相棒カイムが命を捨ててシレーヌと合体、形勢逆転するか……

#10「泣き虫」

～人をつなぐ心のバトンは明から了にも伝わるか～

遠い神話よりも古い時代、弱肉強食、力の世界を生きるデーモンの地球があった。そこには神に叛逆し、天を追われ、地球にまで追ってきた神に対し、デーモンと共に戦った天使・サタンがいた。了はいまその真の姿を顕す。そして人類と悪魔、悪魔とデビルマンの最終戦争が幕を開ける。竜巻が起こり、大地は裂け、火山が火を噴く。地球が悲鳴を上げるその最前線に戦う了と明の姿があった。

#9「地獄へ堕ちろ、人間ども」

～人の心を信じる…美樹の叫びは世界に響くのか～

了は明の変身をＴＶで流し「不満を募らせた隣人が悪魔となる」と扇動した。緊張が走る牧村家で、明は悪魔と合体しても人の心を失わない「デビルマン」がいると叫び、美樹は明の心を信じた。そんな中、了の真意を探るため明は牧村家を離れるが、疑心暗鬼にかられた人々が続々と集まり始め…明が人々のリンチを止め、襲い来る悪魔たちと戦っている間に、美樹へ悪意が迫る。

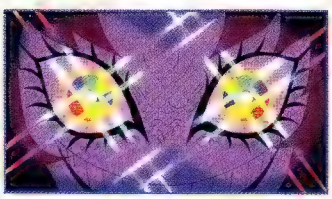
#8「オレはオレを知らなくてはならない」

～世界は滅亡に突き進み、悲劇は牧村家にも迫る～

絶望し自殺する人々、略奪する人々、人を殺す人。美樹の父は命がけで妻と息子が隠れる教会にたどり着くがそこには、妻を喰う…息子だった悪魔がいた。遅れて明が駆けつけるも、治安部隊は父も母も息子も関係なく粉砕した。三人を埋葬した明をデーモンたちが襲うがミーコが救い、牧村家へ。その時、ＴＶの緊急放送で了が「悪魔の真実」を語り始める。

シレーヌ

デーモン最強の女戦士。アモン復活の時を待つが、明に体を乗っ取られデビルマンとなったと知ると、倒すことを誓う。



サイコジェニー

記憶が封印されたサタンの側で仕え、サタンの計画の遂行のため活動する。

サタン

デーモンを束ねる悪魔神。自らの記憶を封印し人間界でデーモン復活の時を待つ。

デビルマン

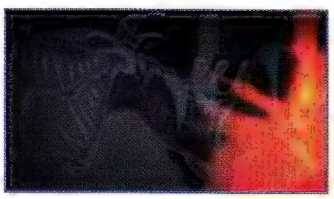
明がアモンと合体した後の姿。デーモンの勇者アモンの力と明の純粋な人間の心を持ち合わす。

ジンメン

人間を食べるカメに似たデーモン。食べられた人間の顔はその甲羅に浮かび上がり、泣き叫ぶ。

ゼノン

３つの顔を持つ悪魔王。デーモン軍団を指揮しデビルマンを襲う。

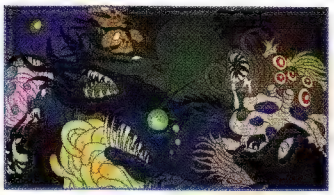


アグウェル

体のほとんどが水分でできたデーモン。液状化し人間の体内に進入しコントロールする。

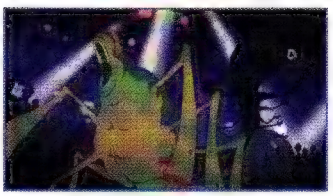
カイム

固い表皮と大きな角を持つ巨体のデーモン。シレーヌを愛し、側で仕え尽くす。



デーモンたち

かつて地球を支配していた時のデーモンの姿。デーモンは再び地球を支配しようと復活する。



サバトに現れたデーモン

明と了が潜入したサバトでデーモンの合体が始まり、そこにいた人間がデーモンと化した姿。

DEVILMAN crybaby

1999年「デビルマンレディー」10巻カバー

（左）1999年「デビルマンレディー」10巻ピンナップ
（下）1999年「デビルマンレディー」9巻カバー

（右）1999年7月「デビルマン THE NOVEL」3巻カバー
（上）2000年「デビルマンレディー」17巻カバー

1999年「デビルマンレディー」9巻ピンナップ

1999年「デビルマンレディー」7巻カバー

2000年「デビルマンレディー」15巻ピンナップ

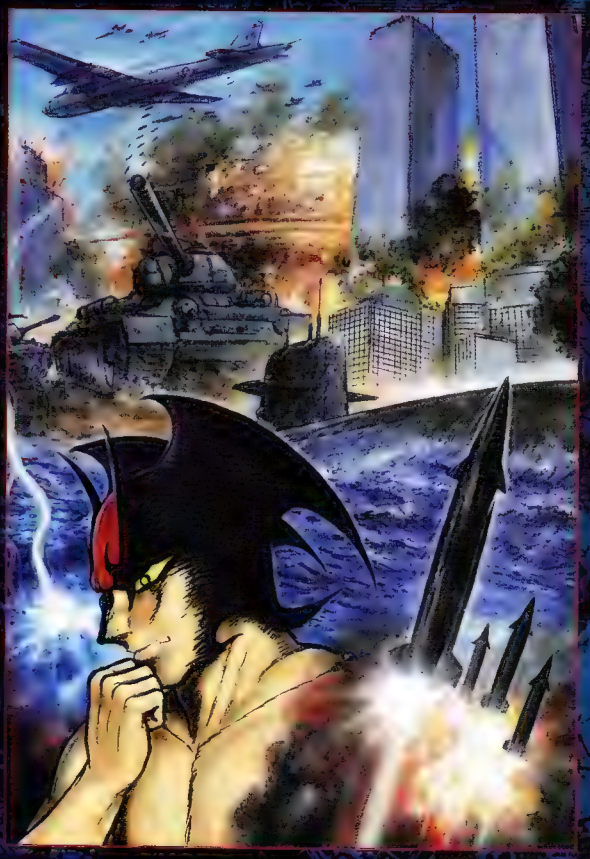
2011年「激マン」3巻カバー

2010年「激マン」2巻カバー

（右）2011年「激マン」5巻カバー
（上）2010年「激マン」1巻総扉イラスト

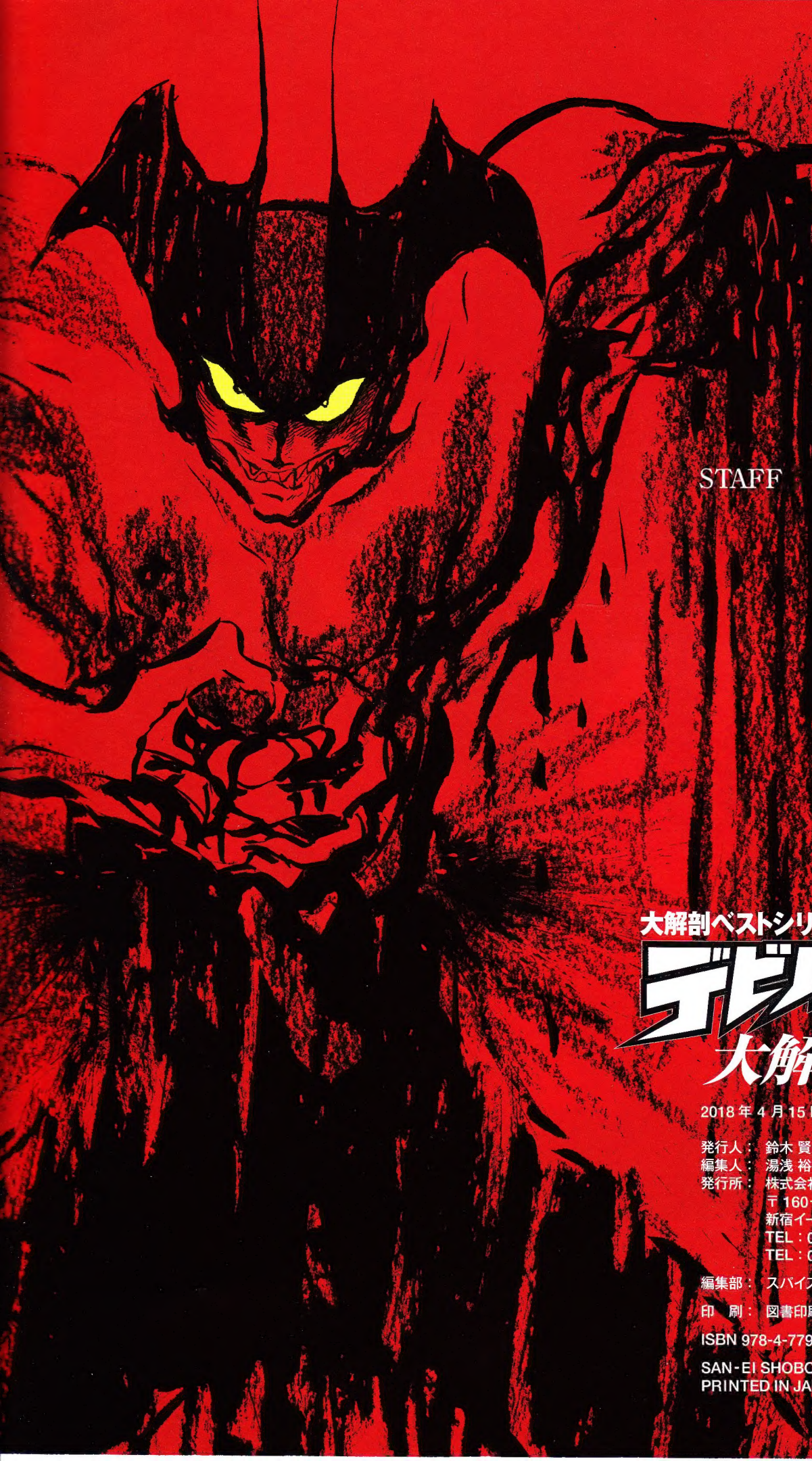
DEVILMAN
COLOR ILLUSTRATION GALLERY II

2011年「激マン」4巻カバー



（上右）2003年10月「世界の終わりと始まりに～漫画家 永井豪 創作の秘密～」描きおろし
（上左）1999年7月「デビルマン イラストレーションズ」描きおろし
（下）2002年「デビルマン TYPING SOFT－悪魔打ち－」描きおろし

DEVILMAN COLOR ILLUSTRATION GALLERY II



Publisher
鈴木賢志

Producer
木村斉史（SAN-EI SHOBO）

原著作
永井豪

Editorial Supervision
永井豪
ダイナミックプロ
ダイナミック企画

Editrial Division
Editor in Chief
湯浅裕行（Spice Communications）

Editor
松澤寿美（Spice Communications）

編集協力
今 秀生

STAFF

Writer
勝又泰彦
北波英幸
佐藤義徳
筐 光太郎
藤岡敬三

Art Direction + Design
大野鶴子（Creative·Sano·Japan）

Design + DTP
石塚 峻（Creative·Sano·Japan）

Photo
磯﨑威志（Focus & Graph Studio）

協力（五十音順）
秋田書店
アニプレックス
講談社
小学館
小学館クリエイティブ
東映アニメーション
東映ビデオ
日本文芸社

大解剖ベストシリーズ

デビルマン大解剖 新装版

2018年4月15日発行

発行人： 鈴木 賢志
編集人： 湯浅 裕行（スパイスコミニケーションズ）
発行所： 株式会社三栄書房
〒160-8461 東京都新宿区新宿6-27-30
新宿イーストサイドスクエア7F
TEL：03-6897-4611（販売部）
TEL：048-988-6011（受注センター）

編集部： スパイスコミニケーションズ

印 刷： 図書印刷

ISBN 978-4-7796-3527-4 C9476

SAN-EI SHOBO Publishing co.,Ltd.
PRINTED IN JAPAN 図書印刷

日本の名作マンガを掘りつくす!

大解剖

好評発売中 本体907円+税 シリーズ

「バリバリ伝説&頭文字D 大解剖」

モータースポーツ漫画の頂点を極めたしげの作品のすべて／バリバリ伝説&頭文字Dが生み出した世界と魅力の源泉に迫る！／MFゴースト　しげの秀一作品の集大成　いよいよ発進!／MFGのクルマの世界 86VS.ゴージャススーパーカー

「マジンガーZ 大解剖」

マジンガーZ放送45周年・永井豪画業50周年 スペシャルインタビュー：永井 豪／マンガ版マジンガー三部作「マジンガーZ」「グレートマジンガー」「UFOロボ グレンダイザー」／オールカラーで掲載 !!「ダブルマジンガー出動」 特集 劇場版マジンガーZ INFINITY

「機動戦士ガンダム 大解剖」

その時、刻が動いた---!!　機動戦士ガンダムから逆襲のシャアまで／アムロとシャア　戦いの軌跡／スペシャルインタビュー 大河原邦男・北爪宏幸／宇宙世紀の傑作機 ガンダムとザクの進化／MS IGLOOから機動戦士ガンダムUCまで　宇宙世紀戦記／特別とじ込み付録 MS & パイロット名鑑

「はじめの一歩 大解剖」

スペシャルインタビュー森川ジョージ／世界3階級制覇王者 元プロボクサー長谷川穂積／第17代 WBO世界スーパーフライ級王者 プロボクサー 井上 尚弥 ★綴じ込み企画 118巻までの登場ボクサーたち／はじめの一歩 選手名鑑&試合ポスター集

「80's最強マンガ 大解剖」

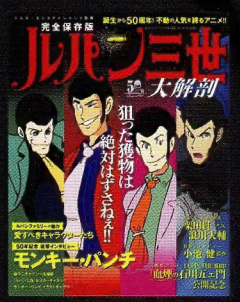
北斗の拳/うる星やつら/キン肉マン/ハイスクール！奇面組/キャプテン翼/タッチ/コータローまかりとおる!/キャッツ❤アイ/シティーハンター/コブラ/超人ロック/ウィングマン/ザ・かぼちゃワイン/ブレイクショット/ジョジョの奇妙な冒険

「不良マンガ 大解剖」

俺たちの青春!みんなが夢中になった不良・ヤンキー漫画を大特集! カメレオン/BADBOYS/今日から俺は!!/湘南純愛組!/ろくでなしBLUES/クローズ/シャコタン☆ブギ

「まんが道 大解剖」

夢に向かって進む全ての人に! 藤子不二雄Ⓐ不朽の名作「まんが道」「愛…しりそめし頃に…」を徹底解剖!!



「ルパン三世 大解剖」

誕生から50周年!不動の人気を誇る「ルパン三世」の世代を超えて愛される魅力に迫る! モンキー・パンチ直撃インタビュー!

全国書店・コンビニにて好評発売中!

下記の方法でもご購入いただけます。

インターネットでのご注文 www.sun-a.com/　お電話でのご注文 03-5357-8802　FAXでのご注文 03-5357-8803 (24時間受付)

スマホはこちらから

三栄書房　株式会社三栄書房・販売部　TEL.03-6897-4611　〒160-8461東京都新宿区新宿6-27-30 新宿イーストサイドスクエア7F　www.sun-a.com

大解剖ベストシリーズ

デビルマン 新装版 大解剖

定価：本体1000円＋税

雑誌コード：62265-55
SAN-EI SHOBO Publishing co.,Ltd.
PRINTED IN JAPAN 図書印刷

ISBN978-4-7796-3527-4
C9476 ¥1000E

9784779635274

1929476010001

サンエイムック
大解剖ベストシリーズ デビルマン大解剖
2010年4月15日発行 発行人：鈴木 圭志 編集人：湯浅 裕行 発行所：株式会社三栄書房
〒160-0001 東京都新宿区新宿6-27-30 新宿イーストサイドスクエア7F TEL：03-6897-4611（販売部） TEL：048-988-6011（受注センター）

大判別ベストシリーズ

デビルマン大解剖 新装版

地獄へおちろ人間ども！

三栄書房